

## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	津田塾大学				
② 大学等の設置者	学校法人 津田塾大学	③ 設置形態	私立大学		
④ 所在地	東京都小平市津田町2-1-1				
⑤ 申請するプログラム名称	データサイエンス・リテラシープログラム				
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無		
			無		
⑧ 教員数	(常勤)	103	人		
	(非常勤)	445	人		
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		10	人		
⑩ 全学部・学科の入学定員	690		人		
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)	総数	3142	人		
1年次	773	人	2年次	709	人
3年次	793	人	4年次	867	人
5年次		人	6年次		人
⑫ プログラムの運営責任者	(責任者名)	稲葉 利江子	(役職名)	全学情報教育運営委員会委員長	
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	全学情報教育運営委員会				
	(責任者名)	稲葉 利江子	(役職名)	全学情報教育運営委員会委員長	
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	全学情報教育点検評価委員会				
	(責任者名)	高橋 裕子	(役職名)	全学情報教育点検評価委員会委員長・学長	
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム				

## 連絡先

所属部署名	教育研究支援事務室	担当者名	栗原 郁太
E-mail	<a href="mailto:dsai@tsuda.ac.jp">dsai@tsuda.ac.jp</a>	電話番号	042-342-7073





⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	コンピュータの仕組み: 情報処理Ia(第1回) インターネット上のサービス: 情報処理Ia(第3回) Society5.0(Society5.0とは): 情報と社会(4)(第6回)
	1-6	ロボット(ヒト化する機械、機械化するヒト、コミュニケーションロボット): 情報と社会(4)(第2回) IoT(IoTとは、企業による活用事例とビジネスモデル): 情報と社会(4)(第6回) 人工知能(人工知能とは、AI技術の活用例): 情報と社会(4)(第7回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	情報検索とデータ活用(インターネット上の様々なデータ): 情報処理Ia(第3回)
	1-3	情報の入出力(入力されたデータの処理(言語処理、画像処理、音声処理)): 情報と社会(4)(第4回) 家庭の情報化(データ解析とデータ活用の事例、ユビキタスホーム、スマートキッチン): 情報と社会(5)(第5回)

<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	1-4	<p>インターネット上を流通するデータの事例: データリテラシーb(第2回)          オープンデータを用いた事例: データリテラシーb(第6回、第7回、第8回)          社会における適用事例: データリテラシーb(第9回)</p>
	1-5	<p>情報の入出力(入力された非構造化データの活用事例): 情報と社会(4)(第4回)          Society5.0/IoT(スマートシティ、企業による活用事例とビジネスモデル): 情報と社会(4)(第6回)</p>
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	3-1	<p>データ解析におけるセキュリティとプライバシー保護: データリテラシーb(第3回)          現代社会における情報セキュリティと情報モラル: 情報と社会(4)(第8回)</p>
	3-2	<p>インターネット上のトラブルとその対策(個人情報、著作権、情報セキュリティ): 情報処理Ia(第4回)          現代社会における情報セキュリティと情報モラル: 情報と社会(4)(第8回)</p>
<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-1	<p>データを読みとることの基礎的な理解と演習: データリテラシーb(第2回)          データを扱うことの基礎的な理解と演習: データリテラシーb(第3回)          データの説明、扱うための統計基礎知識およびヒストグラムの理解と演習: データリテラシーb(第4回)          オープンデータとそのグラフ化を読み取り、説明することの理解と演習: データリテラシーb(第6回)</p>
	2-2	<p>データの説明、扱うための統計基礎知識およびヒストグラムの理解と演習: データリテラシーb(第4回)          散布図、単回帰を用いたデータを説明、扱うことの意味と理解と演習: データリテラシーb(第5回)          オープンデータとそのグラフ化を読み取り、説明することの理解と演習: データリテラシーb(第6回)          オープンデータの読みとりと視覚化、説明することの演習: データリテラシーb(第7回)</p>
	2-3	<p>データの説明、扱うための統計基礎知識およびヒストグラムの理解と演習: データリテラシーb(第4回)          散布図、単回帰の結果からデータを説明、扱うことの意味と理解と演習: データリテラシーb(第5回)          オープンデータの読みとりと視覚化、説明することの演習: データリテラシーb(第7回)          オープンデータサイトのツールによる地理的統計情報の理解と演習: データリテラシーb(第8回)</p>

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムにより、データサイエンスを含む情報科学に関する基礎的な知識を修得することで、文系・理系問わず幅広い専門領域において、データを用いた客観的な知見を抽出する力を身につけることを目的とする。さらに、Society5.0などの動向やデータ活用事例および、活用にあたる様々な留意事項等を学修することにより、卒業後、身につけた力を社会の中でどう活用していくのかについての方法論も修得する。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.tsuda.ac.jp/learning/data-science-literacy.html>





⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	コンピュータの仕組み: 情報処理(第3回) インターネット(クラウドコンピューティング): 情報処理(第4回) Society5.0(Society5.0とは): 情報と社会(4)(第6回)
	1-6	ロボット(ヒト化する機械、機械化するヒト、コミュニケーションロボット): 情報と社会(4)(第2回) IoT(IoTとは、企業による活用事例とビジネスモデル): 情報と社会(4)(第6回) 人工知能(人工知能とは、AI技術の活用例): 情報と社会(4)(第7回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	情報検索と多様なデータ活用: 情報処理(第3回)
	1-3	情報の入出力(入力されたデータの処理(言語処理、画像処理、音声処理)): 情報と社会(4)(第4回) 家庭の情報化(データ解析とデータ活用の事例、ユビキタスホーム、スマートキッチン): 情報と社会(5)(第5回)



(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	インターネット上を流通するデータの事例: データリテラシーb(第2回) オープンデータとして日本統計局のデータによる事例: データリテラシーb(第6回、第7回、第8回) 小売業、通信業、コールセンター等の事例: データリテラシーb(第9回)
	1-5	情報の入出力(入力された非構造化データの活用事例): 情報と社会(4)(第4回) Society5.0/IoT(スマートシティ、企業による活用事例とビジネスモデル): 情報と社会(4)(第6回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	データ解析におけるセキュリティとプライバシー保護: データリテラシーb(第3回) 現代社会における情報セキュリティと情報モラル: 情報と社会(4)(第8回)
	3-2	インターネット上のトラブルとその対策(個人情報、著作権、情報セキュリティ): 情報処理(第4回) 情報発信(セキュリティ): 情報処理(第17回) 現代社会における情報セキュリティと情報モラル: 情報と社会(4)(第8回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データを読みとることの基礎的な理解と演習: データリテラシーb(第2回) データを扱うことの基礎的な理解と演習: データリテラシーb(第3回) データの説明、扱うための統計基礎知識およびヒストグラムの理解と演習: データリテラシーb(第4回) オープンデータとそのグラフ化を読み取り、説明することの理解と演習: データリテラシーb(第6回)
	2-2	データの説明、扱うための統計基礎知識およびヒストグラムの理解と演習: データリテラシーb(第4回) 散布図、単回帰を用いたデータを説明、扱うことの意味と理解と演習: データリテラシーb(第5回) オープンデータとそのグラフ化を読み取り、説明することの意味と理解と演習: データリテラシーb(第6回) オープンデータの読みとりと視覚化、説明することの意味と演習: データリテラシーb(第7回)
	2-3	データの説明、扱うための統計基礎知識およびヒストグラムの理解と演習: データリテラシーb(第4回) 散布図、単回帰の結果からデータを説明、扱うことの意味と理解と演習: データリテラシーb(第5回) オープンデータの読みとりと視覚化、説明することの意味と演習: データリテラシーb(第7回) オープンデータサイトのツールによる地理的統計情報の理解と演習: データリテラシーb(第8回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムにより、データサイエンスを含む情報科学に関する基礎的な知識を修得することで、文系・理系問わず幅広い専門領域において、データを用いた客観的な知見を抽出する力を身につけることを目的とする。さらに、Society5.0などの動向やデータ活用事例および、活用にあたる様々な留意事項等を学修することにより、卒業後、身につけた力を社会の中でどう活用していくのかについての方法論も修得する。

⑪ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.tsuda.ac.jp/learning/data-science-literacy.html>





⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	コンピュータの構造: コンピュータリテラシーa(第1回) インターネットの仕組み: コンピュータリテラシーa(第3回) Society5.0(Society5.0とは): 情報と社会(4)(第6回)
	1-6	ロボット(ヒト化する機械、機械化するヒト、コミュニケーションロボット): 情報と社会(4)(第2回) IoT(IoTとは、企業による活用事例とビジネスモデル): 情報と社会(4)(第6回) 人工知能(人工知能とは、AI技術の活用例): 情報と社会(4)(第7回)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	情報検索とWeb上のさまざまなデータ(文書、画像/動画、音声/音楽など): コンピュータリテラシーa(第3回)
	1-3	情報の入出力(入力されたデータの処理(言語処理、画像処理、音声処理)): 情報と社会(4)(第4回) 家庭の情報化(データ解析とデータ活用の事例、ユビキタスホーム、スマートキッチン): 情報と社会(5)(第5回)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	インターネット上を流通するデータの事例: データリテラシーb(第2回) オープンデータとして日本統計局のデータによる事例: データリテラシーb(第6回、第7回、第8回) 小売業、通信業、コールセンター等の事例: データリテラシーb(第9回)
	1-5	情報の入出力(入力された非構造化データの活用事例): 情報と社会(4)(第4回) Society5.0/IoT(スマートシティ、企業による活用事例とビジネスモデル): 情報と社会(4)(第6回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	データ解析におけるセキュリティとプライバシー保護: データリテラシーb(第3回) 現代社会における情報セキュリティと情報モラル: 情報と社会(4)(第8回)
	3-2	インターネット上のトラブルとその対策(個人情報、著作権、情報セキュリティ): コンピュータリテラシーa(第4回) 現代社会における情報セキュリティと情報モラル: 情報と社会(4)(第8回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データを読みとることの基礎的な理解と演習: データリテラシーb(第2回) データを扱うことの基礎的な理解と演習: データリテラシーb(第3回) データの説明、扱うための統計基礎知識およびヒストグラムの理解と演習: データリテラシーb(第4回) オープンデータとそのグラフ化を読み取り、説明することの理解と演習: データリテラシーb(第6回)
	2-2	データの説明、扱うための統計基礎知識およびヒストグラムの理解と演習: データリテラシーb(第4回) 散布図、単回帰を用いたデータを説明、扱うことの意味と理解と演習: データリテラシーb(第5回) オープンデータとそのグラフ化を読み取り、説明することの意味と理解と演習: データリテラシーb(第6回) オープンデータの読みとりと視覚化、説明することの意味と演習: データリテラシーb(第7回)
	2-3	データの説明、扱うための統計基礎知識およびヒストグラムの理解と演習: データリテラシーb(第4回) 散布図、単回帰の結果からデータを説明、扱うことの意味と理解と演習: データリテラシーb(第5回) オープンデータの読みとりと視覚化、説明することの意味と演習: データリテラシーb(第7回) オープンデータサイトのツールによる地理的統計情報の理解と演習: データリテラシーb(第8回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムにより、データサイエンスを含む情報科学に関する基礎的な知識を修得することで、文系・理系問わず幅広い専門領域において、データを用いた客観的な知見を抽出する力を身につけることを目的とする。さらに、Society5.0などの動向やデータ活用事例および、活用にあたる様々な留意事項等を学修することにより、卒業後、身につけた力を社会の中でどう活用していくのかについての方法論も修得する。

⑪ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.tsuda.ac.jp/learning/data-science-literacy.html>





⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データ分析実践	4-7データハンドリング		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 人間の知的活動とAIの関係性「データサイエンス入門」(第1回、第15回) ビッグデータ、AI「データサイエンス入門」(第1回) データ量の増加、計算機の処理性能の向上「データサイエンス入門」(第3回) 第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会、IoT「情報通信技術と社会」(第1回) 複数技術を組み合わせたAIサービス「情報通信技術と社会」(第2回)
	1-6 AI等を活用した新しいビジネスモデル「情報通信技術と社会」(第2回) AI最新技術の活用例「データサイエンス入門」(第15回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 調査データ、実験データ「データサイエンス入門」(第3回) データ作成(ビッグデータとアノテーション)、オープンデータ、構造化データ、非構造化データ「データサイエンス入門」(第15回) 人の行動ログデータ「情報通信技術と社会」(第3回)
	1-3 データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報通信技術と社会」(第2回)「データサイエンス入門」(第1～2回) 地域政策、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービス「情報通信技術と社会」(第9回) 仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成「情報通信技術と社会」(第11～16回)



(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	AIとビッグデータ、今のAIで出来ることと出来ないこと「情報通信技術と社会」(第2回) データ解析、データ可視化、軌跡の可視化「情報通信技術と社会」(第11~16回)
	1-5	データサイエンスのサイクル、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「情報通信技術と社会」(第9~10回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護、データ・AI活用における負の事例紹介「情報通信技術と社会」(第5回) 個人情報保護、GDPR、忘れられる権利、オプトアウト、ELSI「情報通信技術と社会」(第7~8回) データバイアス、アルゴリズムバイアス「データサイエンス入門」(第15回)
	3-2	情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報通信技術と社会」(第6回) 情報セキュリティ、匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取「情報通信技術と社会」(第7~8回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類「データサイエンス入門」(第1~2回) データの分布(ヒストグラム)と代表値、代表値の性質の違い、データのばらつき「データサイエンス入門」(第3~4回) データクレンジング、観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンス入門」(第7~8回) 相関と因果、クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「データサイエンス入門」(第13~16回) 母集団と標本抽出「データサイエンス入門」(第11~12回)
	2-2	データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ)・データの図表表現(チャート化)、優れた可視化事例の紹介「データサイエンス入門」(第9~10回)
	2-3	データの集計、データの並び替え、ランキング、データ解析ツール(Excel)「データサイエンス入門」(第3~6回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムにより、AI、データサイエンスに関する情報科学、社会科学に関する基礎知識や、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会に至る情報処理、情報通信技術と関係する社会制度についての基礎知識を習得し、社会的な課題に関するデータの収集および分析方法とその結果をわかりやすく表現する能力を身に付ける。

⑪ プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.tsuda.ac.jp/learning/data-science-literacy.html>

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
学芸学部	580	2320	812	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	812	35%
総合政策学部	110	440	216	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	216	49%
合計	690	2760	1,028	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,028	37%

## 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

## ① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

全学情報教育運営委員会規程

## ② 体制の目的

情報教育運営委員会は、本学のデータサイエンスをはじめとした情報教育のカリキュラム編成等を検討・運用する全学的な組織として設置している。具体的には、長期的な基本方針の策定を行うとともに、文部科学大臣が定める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に基づく認定プログラム「データサイエンスリテラシープログラム」の立案、実施、改善を継続的に行う。

## ③ 具体的な構成員

全学情報教育運営委員会

【委員長】 学芸学部 情報科学科 教授 稲葉 利江子  
 【委員】 学芸学部 情報科学科 教授 中野 美由紀  
 【委員】 総合政策学部 総合政策学科 教授 新海 尚子  
 【委員】 総合政策学部 総合政策学科 准教授 鈴木 貴久  
 【事務局】 教育研究支援事務室

## ④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	12%	令和4年度予定	15%	令和5年度予定	33%
令和6年度予定	34%	令和7年度予定	57%	収容定員(名)	2760

## 具体的な計画

2022年度以降は、数学科、情報科学科などですでに開講されているデータ解析基礎に関連する科目とその発展科目がある学科に加え、英語英文学科、国際関係学科、多文化国際協力学科、に向けて、「データサイエンスリテラシープログラム」としてデータ解析基礎科目の開講クラス数を数年にかけて増やし、2025年度以降は「データサイエンスリテラシープログラム」の履修率を全学を通じて50%以上を目指す。

履修率の向上のために、「データサイエンスリテラシープログラム」に関する広報活動、履修者支援および今後の履修希望者増加に対する受け入れ整備の観点から以下を計画している。

- ①プログラムの広報活動として、本学学生全体に向けた普及を目的に、公式Webサイトや学生用のポータルサイトを作成し、随時学生へ新しい取組などについて情報提供を行う。
- ②本プログラムの履修者数向上を目指し、データサイエンスの馴染みの少ない文系学生の履修率、修了率をあげるために、履修者用のサイトを整備し、プログラム履修計画への相談などに対応し、履修を促す体制を整える共に、担当教員を中心にデータリテラシープログラムの科目における学びを支援するためのQ&A教室等を開設し、学びの質の担保と共に修了率をあげることを目指す。

プログラム開始後は、学生の履修希望などに応じ、適切な開講クラス数、各学科におけるカリキュラムとの連携などの検証を行い、全学横断的に「データサイエンスリテラシープログラム」に関する科目の担当者間での情報共有をし、5年間の学習内容の見直しを図る予定である。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学では、全学情報教育運営委員会および学芸学部共通科目委員会と総合政策学科会議が連携し、全学を通じた「データサイエンスリテラシープログラム」の学びの検討を行う。

従来より、学芸学部における、英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力学科の学生が履修している「情報処理Ia」等や、数学科の「情報処理」、情報科学科「コンピュータリテラシーa」、そして総合政策学部総合政策学科における、「データ・サイエンス入門」といった、2学部6学科の全学生が履修できる科目が用意されている。

しかし、学芸学部の「データリテラシーb」に関しては、2021年度までは2年生以上が履修する「程度2」の科目として開設され、ノートPC必携の講義としていた。これに対して2022年度以降は1年生以上が履修する「程度1」とし、ノートPC必携を義務付けていない学科の学生も履修ができるようにする。

また、「データサイエンスリテラシープログラム」を履修する学生に向けた情報機器環境の整備を推進する。

さらに、「情報と社会(4)」については、2021年度までも150名程の履修者数となっていた。2022年度は、学生が他の科目との時間割上の曜日時限の被りを気にせず履修できるようメディアを利用した科目に申請を行い、オンデマンド型授業としている。これにより、データサイエンスプログラムとしても多くの学生が履修できる。また、オンデマンド型となることで、キャンパスの異なる総合政策学部の学生も履修が可能となる。なお、2021、2022年度はコロナ禍のためオンライン授業としていたため、総合政策学部の学生も履修していた(実績4名)。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムを多くの学生に周知する手段として、データサイエンスリテラシープログラムのWebサイトや公式SNSにて情報を掲載することで、全学生がいつでもプログラムについて知ることができるようにする。また、本学全体へのアナウンスと連動し、常に最新情報が全学生に届くような体制を作る。

本学の学生が利用する履修、講義受講のために利用しているポータルサイト(Tsuda Net)、LMSなどに、定期的にデータサイエンス教育に関する情報を発信し、プログラムの趣旨や修了要件を記載したパンフレットを配布するなどして、プログラムの周知に努める。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本学では、全学情報教育運営委員会が中心となり学内の関係学科、関係委員会と連携し、全学を通じた「データサイエンスリテラシープログラム」の学びの支援を行う。具体的には、本プログラムの修了を目指す学生の支援として、情報教育運営委員会が中心となり、データサイエンスリテラシープログラムの科目に関する質問への対応や、履修計画などに対する相談にも応じる窓口の開設を行う。

例えば、総合政策学部では、本プログラム該当科目について、履修生がアクセスできるLMSにおいて、教材等を共有しており、理解度についてはLMSで共有されている演習課題等を通じて確認し、フィードバックを行っている。また、演習付き科目に対しては、授業時間内にTAが複数名配置されており、質疑応答に対応するサポート体制を整えている。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

前述のように本学では、全学情報教育運営委員会および学芸学部共通科目委員会と総合政策学科会議が連携し、全学を通じた「データサイエンスリテラシープログラム」の学びの実習を伴う科目については、TAを配置し、授業内での学生のサポート体制を整えている。また、授業外においても、Q&A教室等を開設し、相談にも応じる。

例えば、総合政策学部では、授業時間外における指導、質疑については、科目担当教員によるオフィスアワーズ、履修人数に応じた複数のTAによる質問タイムが毎週設けられており、科目内容や、理解を定着されるために課される課題への質疑応答が可能になっている。加えて、それらの科目の単位を修得済みの上級生によるメンター制度が設けられており、該当科目の内容や課題について、毎週複数回質問できる環境が整備されている。加えて、オンラインフォーラムなどで、該当科目担当者と履修生が授業外どこからでも質疑応答が可能な体制が構築されている。

## 自己点検・評価について

## ① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>全学情報教育運営委員会が中心となり、本プログラムの科目の履修状況を分析し、プログラム修了を目指す学生の状況を把握する。また、プログラム修了を目指す学生が単位を修得できていない科目については、担当教員と情報共有しながら、どのように状況を改善するのかについて協議する。</p>
学修成果	<p>全学情報教育運営委員会が中心となり、本プログラム修了生の成績を分析することで、本プログラムによる学修成果を測ることができる。さらに、本プログラム修了生による資格試験合格などの履歴などを追跡することで学修成果を測る。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学では、全科目に対して授業アンケートを実施しており、このアンケートから各科目の学生の内容理解度を把握する。さらに、本プログラムの修了生に対してアンケートを実施し、特に科目の理解度、サポート体制についての満足度などについて調査することで、今後のプログラム運用の参考にする。</p> <p>本プログラムの授業アンケートでは、以下のような学生の意見が寄せられている。</p> <p>【情報と社会(4)(2020年度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の情報技術がどのようになっている、これからどのようになっているのかを知ることができたのでよかったです。</li> </ul> <p>【データリテラシーb(2021年度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても興味を持つことができました。なぜなら今後私が使っていこうと思うことができたからです。大学の論文で用いるために、データを集め、分類し、整理し、クレンジングすることを自分で少しでもできるようにしたいと思うことができました。</li> </ul> <p>【情報通信技術と社会(2021年度)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私自身初めは情報通信技術について全く詳しくなかったのですが、授業を通して情報通信やITについてたくさんの知識を身につけることができました。</li> </ul> <p>また、授業担当者が独自で実施している授業アンケートによると「情報と社会(4)」(2021年度)における授業の理解度に関して「授業内容は理解できた」の回答は、「とてもそう思う」が64.7%、「そう思う」が33.6%という結果であった。</p>

学生アンケート等を通じた  
後輩等他の学生への推奨  
度

本プログラムの修了生に対してアンケートを実施し、設問項目として後輩学生や他の学生への推薦内容について尋ねる。そして、アンケートの回答内容をプログラムの公式Webや公式SNS等に掲載、発信することで、履修と修了の推進を行う。

全学的な履修者数、履修  
率向上に向けた計画の達  
成・進捗状況

全学情報教育運営委員会が中心となり、プログラムの履修状況の分析を実施し、履修者数や履修率向上に向けた計画を立案し、進捗情報を管理していく。また、履修者数や履修率の向上に向けて、学生への広報を継続的に推進していく。

<p>学外からの視点</p>	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>本学はこれまでも、学科を問わず情報サービス分野への就職者が一定数存在する。</p> <p>【2020年度学科別 情報サービス分野就職割合】  英語英文学科: 9.9%、国際関係学科: 10.5%、数学科: 26.9%、情報科学科: 38.6%  総合政策学科: 20.2%</p> <p>情報サービス分野では日本国内のみでなく、海外と協同してのプロジェクトが行われることもあり、また、最新の技術に関する情報は英語で記述されたものがほとんどであり、本学卒業生の語学力に期待するという人事担当者の声も多い。</p> <p>今後も、プログラム修了者の卒業後の調査を実施し、その進路や活動状況を確認する。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>全学情報教育点検評価委員会が、産業界および産業界出身者を外部評価委員として委嘱し、定期的に本プログラムについての評価、提言が得られる仕組みを構築する。</p> <p>令和3年(2021年)度は産業界の2名よりプログラムへの評価、提言を受けた。「企業においてデータ分析はツールであり、重要なのはデータ分析を基にした適切な意思決定である。本プログラムではその点を重視されている」とのコメントがあった。また、初学者、経験者とスキルの幅が大きく、初学者へのフォローが必要であること、講義、事例紹介にとどまらず演習やグループワークを導入するなどにより学習効果を高める必要があるといった提言がなされている。</p>



<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>「情報と社会(4)」や「情報通信技術と社会」などではSociety5.0が実現する社会を具体的にイメージできるよう、事例等を示しながら解説をしている。さらに、レポートとして、具体的な情報技術を示しつつ、近い将来に実現する新たな社会について論じる課題を課すなど、文系学科の学生においても理系分野の学びではなく、文理融合の分野であることを理解できるような内容としている。</p> <p>「データリテラシーb」では、「統計において、高校までは手計算でグラフを書いていたことが、プログラムを数行書くことでグラフ化されることが楽しかった」「確率・統計の導入で視聴率など身近な例が触れられており、楽しかった」などという意見が授業アンケートで寄せられており、身近な例を授業に取り入れることで学ぶ楽しさを伝えている。</p> <p>さらに、プログラムの科目を通じて、データサイエンスの知識が各自の専門分野において、どのように関連するのかについて考え、学ぶ意義が理解できるようにしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>本学では、全開講科目に対して授業評価アンケートを実施している。このアンケートから学生の内容の理解度を把握することにより、授業内容・水準を維持するとともに、授業改善の必要性等を抽出することができ、さらなる向上を行うことができる。</p> <p>また、全学SD・FD委員会が主催するFD研修会が毎年複数回、実施されており、その中で、「教授法」「わかりやすい授業」「大学カリキュラム論」といったテーマで、定期的な研修を実施する体制を整えている。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.tsuda.ac.jp/learning/data-science-literacy.html>

科目番号/Course Code : CS1001

**科目名/Course : 情報処理I a**  
**Information Processing Ia**

担当者名/Instructor : 原山 智重子・前田 留美  
松岡 淳子・小田 正美  
大塚 亜未・白倉 悟子

開講期/Term : 各ターム / each

単位/Credit : 1

配当年次/Year : 1年～

使用言語/Language : 日本語 / Japanese

学問分野/Field of study : CS 情報科学

推奨レベル/Year of study : 1(入門知識・幅広い視野を得る)

科目区分 : 学芸学部 共通科目/学芸学部 日本語教員養成課程/学芸学部 デジタルメディア副専攻

**【講義の目的と内容 / Course Purpose and Content】**

コンピュータを操作して、目的とする作業を行い、必要な情報を得ることができる知識と能力である「コンピュータリテラシー(Computer Literacy)」を身につけることが講義の目的です。

コンピュータを道具として使うためには、単に操作法を覚えるだけではなく、インターネットを安全に使うための基礎知識および情報の発展による社会の変化への理解も必要不可欠です。

講義では、使い方だけではなく、今後の技術的発展に対応するのに必要な基礎知識や、安全に使いこなすのに必要なコンピュータやインターネット上にある多様なデータ、インターネットの仕組みについても学びます。

各回、講義と演習を行います。

**【授業の到達目標 / Learning Objectives】**

次のことができるようになることを目指します。

コミュニケーションツール(電子メールなど)の利用、

情報の管理(ファイルやデバイスの管理)、

情報の収集(インターネットを利用したデータ検索)、

文書の作成(ワープロ)、

プレゼンテーション、

情報倫理、セキュリティ(インターネットを利用する上で注意すべきこと) の理解。

**【授業計画 / Course Structure**

**授業の進み具合等によってスケジュールが変更になる場合もあります】**

**第1回 / Class1**

授業概要 目標、評価

津田塾大学計算センターシステムについて

津田塾大学ネットワークについて

- ・津田塾大学情報ネットワーク利用規定

学外からのアクセス

- ・津田塾大学(外部公開のホームページ)

- ・計算センターからのお知らせ

- ・津田塾大学メールシステム

- ・津田塾大学Gmailログイン(PC、携帯共通)

- ・TsudaNetポータル

- ・VPN接続

タイピング練習

Windows/Mac の基本操作

起動と終了

起動画面

アプリケーションの操作

- ・起動と終了

- ・画面構成

- ・ウィンドウの操作

**第2回 / Class2**

情報量の単位

ファイル

World Wide Web の仕組みとブラウザの使い方

## インターネットの基礎知識

- ・コンピュータ・ネットワーク
  - ..ローカルエリアネットワーク (LAN)
  - ..広域ネットワーク (WAN)
- ・インターネットとは 世界がつながる仕組み
- ・インターネット上のサービス 様々な情報 (データ) を得る

## World Wide Web (WWW)

- ・WWWの仕組み
- ・URL
- ・Webブラウザ

## 情報検索とデータ活用

津田塾大学図書館資料検索

オンラインジャーナルなど

情報検索とインターネット上の様々なデータ (文書、画像/動画、音声/音楽等)

## 第3回 / Class3

### 日本語入力

文字コード

半角文字と全角文字

直接入力とかな漢字変換の仕組み

日本語入力システムの操作方法

### 電子メールの仕組みと使い方

#### 電子メール

- ・アドレス
- ・配送の仕組み、メールサーバ
- ・ヘッダー
- ・マナー
- ・宛先・Cc・Bccの使い分け

津田塾大学メールシステム(津田塾大学Gmail)を利用した電子メールの送信/受信

- ・ログイン・ログアウト
- ・ログイン直後のページ
- ・署名の作成
- ・メールの作成、送信、受信、返信
- ・添付ファイルの送信/受信

## 第4回 / Class4

### インターネットの仕組みと利用上の注意

#### ネチケット

インターネットの仕組み - パケット交換

インターネット上のトラブルとその対策

- ・盗聴、改竄、なりすまし
- ・コンピュータウイルス
- ・スパムメール
- ・個人情報
- ・著作権
- ・暗号化

情報セキュリティ 映像コンテンツ

#### 学外からの利用

- ・メール
- ・学内webページの閲覧
- ・ファイル転送

### インターネットを利用した情報共有と利用上の注意

#### クラウドとSNS

クラウドコンピューティング

個人向けクラウドサービス

- ・機能
- ・クライアント環境

・個人向けサービス例

Googleドライブの利用

利用上の注意点

## 第5回 / Class5

画像の処理

コンピュータによる画像生成の利点

画像ファイル

- ・グラフィックソフトの種類
- ・ピクセルと解像度
- ・画像のファイル形式

画像の変換 - リサイズ、形式の変換など

## 第6回 / Class6

ファイルとファイルシステム

ファイルシステム

- ・ファイル、ファイル名、拡張子
- ・フォルダー、階層構造
- ・パス
- ・ファイルマネージャー

エクスプローラー・ファインダーの操作

- ・画面構成と表示
- ・フォルダーの作成、ファイルとフォルダーの名前変更・移動・複写・削除

オフィス ソフトウェア

ワープロソフトとは

- ・標準テキストエディタ（メモ帳やテキストエディット）
- ・テキストエディタ「メモ帳」とワープロソフト「Word」の違い

ワープロソフト Word

- ・起動と終了
- ・画面構成

文書作成の手順

編集その他の基本操作

## 第7回 / Class7

オフィス ソフトウェア

ワープロソフトとは

- ・テキストエディタ「メモ帳」とワープロソフト「Word」の違い

ワープロソフト Word

- ・起動と終了
- ・画面構成

文書作成の手順

編集その他の基本操作

著作権、情報セキュリティ

## 第8回 / Class8

PCを利用したプレゼンテーション

プレゼンテーション

- ・プレゼンテーションとは
- ・プレゼンテーションまでの流れ
  1. 計画
  2. 準備
  3. 練習
  4. 発表

プレゼンテーションソフト PowerPoint

- ・PowerPointでできること
- ・PowerPointで作成するもの
- ・起動と終了
- ・画面構成
- ・表示モード

スライドの作成

- ・レイアウトの選択

- ・文字入力
- ・画像などの挿入
- ・スライドの追加・削除・移動
- ・印刷
- ・スライドショーの実行

#### デザインと効果

- ・テーマ
- ・画面切り替え
- ・アニメーション

#### プレゼンテーションの実施

- ・リハーサル
- ・プレゼンテーション

### 第9回 / Class9

まとめ

質問受付

(履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。)

#### 【テキスト / Textbooks】

各講義の担当者から指示があります。

#### 【参考書 / Reference Books】

必要に応じて紹介します。

#### 【準備学習（予習・復習等）の内容 / Supplementary Individual Study】

本講義は、コンピュータを用いて実践的に作業をすることが必須ですので、講義で触れた内容については、毎回復習をすることが前提となります。

細かい点は、各講義の担当者の指示に従ってください。

#### 【評価方法・基準 / Evaluation Method】

原則として、試験・レポート・平常点で評価します。

具体的な評価方法・基準については、各講義の担当者からの説明を聞いてください。

評価の目安は以下のとおりです。

平常点（単元毎の演習，課題など）：50%

試験または中間・期末の課題やレポート：50 %

なお、本科目は授業時間の3分の2以上の出席が必要な出席重視科目となっています。

#### 【課題に対するフィードバック / Task Feedback】

具体的な課題に対するフィードバックについては、各講義の担当者からの説明を聞いてください。

#### 【オフィスアワー / Office Hours】

担当の先生に確認してください。

#### 【その他 / Note】

講義の説明の順序は、担当の先生ごとに変更する場合があります。

科目番号/Course Code : CS1008

**科目名/Course : 情報と社会(4)**  
**Information and Society(4)**

担当者名/Instructor : 稲葉 利江子

開講期/Term : 第4ターム / T4

単位/Credit : 1

配当年次/Year : 1年～

使用言語/Language : 日本語 / Japanese

学問分野/Field of study : CS 情報科学

推奨レベル/Year of study : 1(入門知識・幅広い視野を得る)

科目区分 : 学芸学部 共通科目/学芸学部 情報科学科/学芸学部 日本語教員養成課程/学芸学部 デジタルメディア副専攻

**【講義の目的と内容 / Course Purpose and Content】**

人間は、「社会」に属しながら生きています。情報化社会となった現代、「社会」の中では様々な情報技術が活用され多大な影響を及ぼしています。それは、身近な私たちの日常生活だけではなく、経済活動、産業、公共政策、教育など多岐にわたっています。そこで、情報化によって何が起きてきたのかの情報社会論的な観点からの歴史、情報化の進展に応じて制定されてきた法制度についての知識も必要となります。

本講義では、情報化が社会に及ぼす影響という観点から、それらの基礎的な事項について学び、その上で現在問題になっている事柄について自ら考え、理解を深めていきます。

この授業は、「メディアを高度に利用した授業」です。シラバスに記載されている、授業方法等を確認の上、受講ください。

本授業のオンデマンド型（非同期型）の授業となります。

毎週火曜日に、映像教材を学習管理システム（moodle）にて公開します。

公開された映像教材は、公開後、その週の金曜日までの期間の中で、受講生の都合のよい時間に受講いただき、指定の期日までにリフレクションシートの提出を行っていただきます。

**【授業の到達目標 / Learning Objectives】**

情報化が社会に及ぼす影響という観点から、それらの基礎的な事項の知識を身につけ、その上で現在問題になっている事柄について考え、その内容について自らの意見を表現できることを目標とします。

**【授業計画 / Course Structure 授業の進み具合等によってスケジュールが変更になる場合もあります】**

**第1回 / Class1**

オリエンテーション（オンデマンド型授業）

**第2回 / Class2**

ロボット（オンデマンド型授業）

- ・ロボットとは
- ・ヒト化する機械
- ・コミュニケーションロボット
- ・機械化するヒト

**第3回 / Class3**

ヒューマンインタフェース（オンデマンド型授業）

- ・ユーザインタフェースとは
- ・人間の情報処理モデル
- ・人間中心設計のプロセス

**第4回 / Class4**

情報の入出力（オンデマンド型授業）

- ・情報の入力系
- ・入力されたデータの処理（言語処理、画像処理、音声処理）
- ・情報の出力系
- ・データの可視化

**第5回 / Class5**

家庭の情報化（オンデマンド型授業）

- ・データ解析とデータ活用の実例
- ・ユビキタスホーム
- ・スマートキッチン

**第6回 / Class6**

Society5.0・IoT（オンデマンド型授業）

- ・Society5.0とは
- ・IoTとは

- ・スマートシティ
- ・企業による活用事例と新しいビジネスモデル

#### 第7回 / Class7

人工知能（オンデマンド型授業）

- ・人工知能とは
- ・機械学習
- ・ディープラーニングとは
- ・AI技術の活用例

#### 第8回 / Class8

現代社会における情報セキュリティと情報モラル（オンデマンド型授業）

- ・データ駆動型社会におけるリスク
- ・データ・AIを利活用する際に求められるモラルや倫理
- ・セキュリティ事故の事例

#### 第9回 / Class9

まとめ（オンデマンド型授業）

#### 【テキスト / Textbooks】

指定しない。

#### 【参考書 / Reference Books】

講義内で適宜指示します。

#### 【準備学習（予習・復習等）の内容 / Supplementary Individual Study】

毎回、授業の振り返りとしてリフレクションシートを提出いただきます（20分）。

授業後、関連資料や資料映像などにより知識を深めることを推奨します(60分)。

#### 【評価方法・基準 / Evaluation Method】

以下の2つの観点から総合的に評価を行います。

1. 平常点 30%
2. 課題レポート 70%

#### 【課題に対するフィードバック / Task Feedback】

毎回のリフレクションシートに記載いただいた内容については、次の授業の冒頭に補足説明等を行いフィードバックを行います。

#### 【オフィスアワー / Office Hours】

水曜4限目、木曜4限目に研究室にて対応します。

ただし、会議等が入る場合もあるので、事前にメールで連絡してください。

#### 【授業の特色 / Characteristics of Class】

ディスカッション、ディベート、討議を取り入れる / Incorporate discussion or debate

授業内容について、学習管理システム（moodle）のフォーラム機能を用いて、受講者同士の意見交換を行っていただきます。

#### 【その他 / Note】

本授業は、「メディアを高度に利用した授業」となっています。

決められた期間の中で、受講生の都合の良い時に受講していただけるオンデマンド型の授業となっています。

授業受講に際しては、PC等の機器および通信環境が必要です。

科目番号/Course Code : DM2012

**科目名/Course : データリテラシー b**  
**Data Literacy b**

担当者名/Instructor : 中野 美由紀

開講期/Term : 第3ターム / T3

単位/Credit : 1

配当年次/Year : 1年～

使用言語/Language : 日本語 / Japanese

学問分野/Field of study : DM デジタル・メディア

推奨レベル/Year of study : 2(専門における基本知識を得る)

科目区分 : 学芸学部 デジタルメディア副専攻

**【講義の目的と内容 / Course Purpose and Content】**

多くの情報がデジタル化され、さまざまな事象を数値やテキストデータとして取り扱うことができるようになりました。インターネットの普及、コンピュータの高性能化、センサーの低価格化などとともに、コンピュータで扱えるデータの種類や量は、さらに増えていくことでしょう。

この講義では、データサイエンス(データを解析し、その結果から新たな知見を得ること)の基礎となるデータ分析に関し、どのような技術が使われているか、オープンデータを主な対象として、講義と実習を通じて学びます。統計に関する用語とその意味を中心に統計基礎を学びながら、データの解析を主としてエクセルおよび外部のデータ解析ツールを使って行ないます。

**【授業の到達目標 / Learning Objectives】**

データ分析にどのような作業が含まれるかを理解する。

統計にかかわる用語とその意味することの基礎知識を理解する。

基礎的なデータ解析を実行できる。

データ解析結果をツールを用いて可視化(グラフ化)する。

人工知能の基礎用語を理解する。

**【授業計画 / Course Structure**

**授業の進み具合等によってスケジュールが変更になる場合もあります】**

**第1回 / Class1**

データリテラシー b を学ぶための解説と準備

- ・ 計算機環境
- ・ エクセルの使い方(復習)
- ・ moodleの使い方 (講義コンテンツのダウンロード、課題提出の方法等)
- ・ ウェブ上のサイト
- ・ ウェブ上のツール等

データ分析の世界

- ・ データとは

**第2回 / Class2**

データ解析入門(1)

- ・ データとは(復習)
- ・ データの理解
- ・ データから読み取る:  
本講義で指定するグラフ、表を用い、グループ討議
- ・ 各チーム発表
- ・ レポート作成の方法(課題提出の練習等)

**第3回 / Class3**

データ解析入門(2)

- ・ データサイエンス(ビッグデータ)とデータ解析
- ・ データ解析を支える技術  
クラウド  
データベース
- ・ データ解析におけるセキュリティとは



- ・エクセルの使い方（復習）

#### 第4回 / Class4

##### データ解析入門（3）

- ・確率とは
- ・データを理解するための統計知識（記述統計）
- ・データをグラフ化する（棒グラフ、平均）
- ・データを読み取る

#### 第5回 / Class5

##### データ解析入門（4）

- ・推測統計とは
- ・データをグラフ化する（散布図、単回帰）
- ・データを読み取る

#### 第6回 / Class6

##### オープンデータの利用（1）

- ・オープンデータとは
- ・日本統計局のHPの紹介
- ・オープンデータを利用しよう 「統計ダッシュボード」

#### 第7回 / Class7

##### オープンデータの利用（2）

- ・「e-stat」で人口ピラミッドを作成する
- ・「統計ダッシュボード」を用いてデータを読み取る  
各グループでテーマを決め、「統計ダッシュボード」を利用  
各グループで調査した結果をスライドにまとめる  
各グループから報告

#### 第8回 / Class8

##### オープンデータの利用（3）

- ・「統計GIS」の利用方法
- ・「統計GIS」を用いたレポートの作成と発表  
各グループでテーマを決め、「統計GIS」を利用  
各グループで調査した結果をスライドにまとめる  
各グループから報告

#### 第9回 / Class9

##### まとめと振り返り

##### 1. データ解析とは

いろいろなデータ分析手法

- ・データ解析サイクルとは
- ・相関関係ルール（データ全件を見る）
- ・決定木（教師あり機械学習）
- ・クラスタリング（教師なし機械学習）

##### 2. 実社会で使われるデータ解析手法の紹介

#### 【テキスト / Textbooks】

必要に応じて、プリント配布か、オンライン資料を紹介します。

#### 【参考書 / Reference Books】

教養としてのデータサイエンス、北川 源四郎・竹村 彰通（編集）、内田 誠一（著）、川崎 能典（著）、孝忠 大輔（著）、佐久間 淳（著）、椎名 洋（著）、中川 裕志（著）、樋口 知之（著）、丸山 宏（著）、  
出版社：講談社

ISBN-13:978-4065238097

東京大学のデータサイエンティスト育成講座：Pythonで手を動かして学ぶデータ分析  
塚本邦尊（著），山田典一（著），大澤文孝（著），中山浩太郎（監修），松尾 豊[協力]  
出版社：マイナビ出版

「社会人のためのデータサイエンス入門 オフィシャル スタディノート 改訂第2版」  
「誰でも使える統計オープンデータ オフィシャル スタディノート ー改訂第2版ー」  
編集 総務省統計局  
発行 一般財団法人 日本統計協会

**【準備学習（予習・復習等）の内容 / Supplementary Individual Study】**

講義で触れた内容については、毎回180分程度復習をすることが前提となります。

**【評価方法・基準 / Evaluation Method】**

原則として、レポート・平常点で評価します。

期末課題・レポート：50 %

平常点（毎回の課題提出など）：50%

**【課題に対するフィードバック / Task Feedback】**

毎回の課題に関するフィードバックは、原則、クラス全体に対して行います。

**【オフィスアワー / Office Hours】**

授業終了後の時間（オンライン対応、教員に事前に都合を確認してください）。教員のアポイントメントがとれれば、他の日時も可。

科目番号/Course Code : MAT1011

**科目名/Course : 情報処理  
Computer Literacy**

担当者名/Instructor : 小田 正美

開講期/Term : 第34ターム / T3, 4

単位/Credit : 2

配当年次/Year : 1年~

使用言語/Language : 日本語 / Japanese

学問分野/Field of study : MAT 数学

推奨レベル/Year of study : 1(入門知識・幅広い視野を得る)

科目区分 : 学芸学部 数学科/学芸学部 デジタルメディア副専攻

**【講義の目的と内容 / Course Purpose and Content】**

コンピュータを道具として使うための基本的なスキルを習得することを目的とした講義です。

大学や生活において必要とされる技術や知識を学習し、さらに今後の技術発展に対応できるような基礎知識の習得、安全に使いこなすために必要なコンピュータやインターネットの仕組みの理解、インターネット上にある多様なデータ、利用する際の注意点やマナーなどについて学びます。

授業では講義と演習を行い、具体的には以下の内容を取りあげます

- ・文章作成
- ・情報検索
- ・電子メール
- ・表計算
- ・プレゼンテーションツール
- ・画像
- ・Webページ作成

\* 習熟度に応じて内容や順序を変更する場合があります。

**【授業の到達目標 / Learning Objectives】**

次のことができるようになることを目標とします。

- ・コンピュータの基本操作 (Windows, Mac)
- ・情報の管理
- ・情報の収集
- ・Office系ソフトの操作の習熟(文書の作成, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフト)
- ・情報倫理, 情報セキュリティの理解
- ・情報の発信 (Webページ作成)

**【授業計画 / Course Structure**

**授業の進み具合等によってスケジュールが変更になる場合もあります】**

**第1回 / Class1**

- \* 本講義について
  - ・利用規定
  - ・困ったとき
- \* 基礎知識[1]
  - ・ハードウェア
  - ・ソフトウェア
- \* Windows・Mac の基本操作
- \* タイピング練習

**第2回 / Class2**

- \* 基礎知識[2]
  - ・情報の単位
  - ・情報の保存
  - ・情報の管理
- \* 日本語入力
- \* テキストエディタ

### **第3回 / Class3**

- \* インターネット[1]
  - ・ 仕組み
- \* 電子メール[1]
  - ・ 仕組み
  - ・ 基本操作
  - ・ マナー , 注意点
- \* 情報検索[1]
  - ・ 検索方法
  - ・ 注意点

### **第4回 / Class4**

- \* 情報検索[2]
  - ・ 津田塾大学図書館資料検索
  - ・ 学術情報検索
- \* インターネット [ 2 ]
  - ・ マルウェア
  - ・ クラウドコンピューティング
  - ・ SNSなど
  - ・ 位置情報の削除
- \* 著作権・肖像権・パブリシティ権
- \* 電子メール[ 2 ]

### **第5回 / Class5**

- \* 文章作成 : Word[1]
  - ・ 基本操作
  - ・ 箇条書き . 段落番号
  - ・ ページ番号
  - ・ 脚注
  - ・ 改ページ

### **第6回 / Class6**

- \* 文章作成 : Word[2]
  - ・ 表や画像 , 数式などの挿入

### **第7回 / Class7**

- \* 画像
  - ・ 画像について
  - ・ グラフィックソフト
  - ・ 画像のファイル形式

### **第8回 / Class8**

- \* プレゼンテーションソフト : PowerPoint
  - ・ 作業の流れ
  - ・ 基本操作
  - ・ スライドの作成

### **第9回 / Class9**

- \* 表計算ソフト : Excel [入門]
  - ・ 基本操作
  - ・ 表作成
  - ・ ヘッダー , フッター

### **第10回 / Class10**

- \* 表計算ソフト : Excel [グラフ]
  - ・ 数式
  - ・ グラフ作成

### 第11回 / Class11

- \* 表計算ソフト：Excel [関数]
  - ・ オートSUM
  - ・ 関数の挿入

### 第12回 / Class12

- \* 表計算ソフト：Excel [数学]
  - ・ 平方根，対数，内積， SINカーブ
  - ・ WordとExcelの連携

### 第13回 / Class13

- \* 表計算ソフト：Excel [復習]
  - ・ 2次方程式の解，VLOOKUP関数

### 第14回 / Class14

- \* 情報発信[1]：Webページ作成
  - ・ Webの仕組み
  - ・ HTMLの基礎
  - ・ 要素とタグ

### 第15回 / Class15

- \* 情報発信[2]：Webページ作成
  - ・ ハイパーリンク
  - ・ スタイルシート

### 第16回 / Class16

- \* 情報発信[3]：Webページ作成
  - ・ 効果の挿入

### 第17回 / Class17

- \* 情報発信[4]：Webページ作成

### 第18回 / Class18

- \* まとめ

### 【テキスト / Textbooks】

特に指定しません。

### 【参考書 / Reference Books】

講義用 Web ページを参照してください。

### 【準備学習（予習・復習等）の内容 / Supplementary Individual Study】

予習：各回講義の最後に指示しますので，講義資料などを閲覧して指示に従ってください。（60分）

復習：授業時間内に終わらなかった演習や復習のために出された課題を行なってください。（120分）

### 【評価方法・基準 / Evaluation Method】

採点基準や配点などは，授業中お知らせしますのでよく確認してください。

平常点： 50% 出席，各回課題の達成度。

期末課題： 50% 最終的に提出される期末課題の達成度。

### 【課題に対するフィードバック / Task Feedback】

メールなどでご連絡します。

### 【オフィスアワー / Office Hours】

質問などは授業の前後，またはメールにて受け付けます。

科目番号/Course Code : CS1013

**科目名/Course : コンピュータリテラシー a**  
**Computer Literacy a**

担当者名/Instructor : 前田 留美

開講期/Term : 第1ターム / T1

単位/Credit : 1

配当年次/Year : 1年~

使用言語/Language : 日本語 / Japanese

学問分野/Field of study : CS 情報科学

推奨レベル/Year of study : 1(入門知識・幅広い視野を得る)

科目区分 : 学芸学部 情報科学科/学芸学部 デジタルメディア副専攻

**【講義の目的と内容 / Course Purpose and Content】**

コンピュータによる情報処理技術の基礎的な知識とスキルを身につけることが講義の目的です。

コンピュータは日々、発展しています。単に操作法を覚えているだけではその変化についていけません。講義では、使い方だけではなく、今後の発展に伴う変化への理解およびその変化に対応するのに必要な基礎知識や、安全に使いこなすために必要なコンピュータやインターネット上にある多様なデータ、インターネットの仕組みについても学びます。また毎回、PCを操作して演習を行います。

すでにPCを所有し、勉強や生活に役立てている学生も少なくないと思いますが、コンピュータリテラシーについて系統的に学習することは大切です。「ただ使う」のではなく「自分と社会の双方にとって安全で適切な使い方」ができるようになります。

オフィスソフトウェアはMicrosoft365（インストール版）を使用予定です。本大学学生は各自PCにインストール可能です。詳細は授業で説明します。

**【授業の到達目標 / Learning Objectives】**

次の事柄についての知識・スキルの獲得を目指します。

- ・コミュニケーションツール（電子メールなど）の利用
- ・情報の収集（インターネットを利用したデータ検索）
- ・情報の管理（ファイル・フォルダ）
- ・画像の処理
- ・文書の作成
- ・プレゼンテーション
- ・情報倫理、セキュリティの理解

**【授業計画 / Course Structure**

**授業の進み具合等によってスケジュールが変更になる場合もあります】**

**第1回 / Class1**

- ・津田塾大学計算センターシステムについて
- ・授業概要
- ・タイピング練習
- ・コンピュータの構造

**第2回 / Class2**

- ・Windows/Mac の基本操作
- ・情報量の単位・情報の保存
- ・テキストエディタ
- ・日本語入力

**第3回 / Class3**

- ・World Wide Web の仕組み（世界がつながる仕組み）とブラウザの使い方
- ・情報検索（データ活用）とWeb上の様々なデータ（文書、画像/動画、音声/音楽等）
- ・電子メールの仕組みと使い方

**第4回 / Class4**

- ・インターネットの仕組みと利用上の注意
- ・インターネットを利用した情報共有と利用上の注意

**第5回 / Class5**

- ・画像の作成・処理

#### **第6回 / Class6**

- ・ファイルとファイルシステム

#### **第7回 / Class7**

- ・オフィス ソフトウェア
- ・PCを利用した文書作成 基本

#### **第8回 / Class8**

- ・PCを利用したプレゼンテーション

#### **第9回 / Class9**

- ・まとめと復習

#### **【テキスト / Textbooks】**

教科書は使用しない

#### **【参考書 / Reference Books】**

初回授業で資料についてお知らせします。

#### **【準備学習（予習・復習等）の内容 / Supplementary Individual Study】**

授業一回一回の積み重ねによって知識とスキルを身に付けていきます。

授業終了後には、授業時間内に完了しなかった演習や復習をした後、課題を行い締切日時までに提出してください。それが次の授業の準備にもなります（180分）

#### **【評価方法・基準 / Evaluation Method】**

- ・平常点 : 50% 出席、各回の演習、課題
- ・期末課題 : 50%

#### **【課題に対するフィードバック / Task Feedback】**

- ・各回の課題出題の次の回に講評を行います。
- ・提出された課題が条件を満たしていない場合には再提出を求めます。

#### **【オフィスアワー / Office Hours】**

授業の前後、もしくはメールにて質問を受け付けます。  
(メールアドレスは初回の授業時にお知らせします。)

#### **【その他 / Note】**

内容の理解を助けるために各自が取り組んだ演習及び課題の作品を提示することがあります。

科目番号/Course Code : IFM1001

**科目名/Course : データ・サイエンス入門**  
**Introduction to Data Science**

担当者名/Instructor : 小館 亮之・総合政策学部TA

開講期/Term : 第1ターム / T1

単位/Credit : 2

配当年次/Year : 1年～

使用言語/Language : 日本語 / Japanese

学問分野/Field of study : IFM 情報学

推奨レベル/Year of study : 1(入門知識・幅広い視野を得る)

科目区分 : 総合政策学部 総合政策学科

**【講義の目的と内容 / Course Purpose and Content】**

「データ・サイエンス」は、本学科において、「英語」「ソーシャル・サイエンス」とともに課題解決能力を培う土台となる3つの基礎科目の1つである。

「データ・サイエンス」は、収集されたデータを科学的に分析し、課題を具体的に特定するために必要なスキルであり、本学科では、1-2年次の2年間にわたって、演習付科目として演習課題に取り組みながら実践的に学ぶ。本科目は、1年次第3タームの「統計I(演習付)」、2年次第4タームの「統計II(演習付)」へ連なる基礎的な科目であり、以下の3つのスキルの基礎について、コンピュータを用いて実践的に学ぶ。

- ・データを読む(理解する、評価する)スキル
- ・データから情報を生成する(データを適切に取り扱い、分析する)スキル
- ・情報を伝える(整形する、表現する)スキル

**【授業の到達目標 / Learning Objectives】**

本学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に以下の2つの力

- ・データを活用して、社会の実態や諸課題に対する客観的な調査・分析・評価をおこなう能力
- ・分析によって得られた社会的課題の要点やその解決案を適切かつ論理的に提示し、伝達する能力 ・社会的な課題に対して具体的な解決策を構想する力と、それを実現するための行動力の基礎力を身につけることを目標に、下記の事項を着実に達成することを目指す。
- ・コンピュータについての基礎知識と基本的な使い方を身に付けること
- ・データを読む(理解する、評価する)ための基礎的なスキルを身につけること
- ・データから情報を生成する(分析し、結果を整理する)ための基礎的なスキルを身につけること
- ・情報を伝える(整形する、表現する)ための基礎的なスキルを身につけること

**【授業計画 / Course Structure 授業の進み具合等によってスケジュールが変更になる場合もあります】**

**第1回 / Class1**

オリエンテーション

- ・コンピュータとは
- ・AIとは
- ・社会におけるデータ・AIの利活用について
- ・課題の提出方法について
- ・Microsoft Excel: 基本操作

**第2回 / Class2**

1回目の授業内容に関する演習課題

**第3回 / Class3**

データリテラシー(その1)

- ・データと情報
- ・社会調査
- ・ソーシャルメディアとビッグデータ
- ・母集団と標本抽出(その1)
- ・Microsoft Excel: データの入力と編集

**第4回 / Class4**

3回目の授業内容に関する演習課題

**第5回 / Class5**

データリテラシー(その2)

- ・データの種類
- ・変数と値、尺度について



- ・度数分布表
- ・グラフによるデータの表現
- ・Microsoft Excel: 数式と関数
- ・Microsoft Excel: 覚えておくと便利な基本関数

#### 第6回 / Class6

5回目の授業内容に関する演習課題

#### 第7回 / Class7

データリテラシー (その3)

- ・指数と対数
- ・データの分布と代表値
- ・基本統計量について
- ・外れ値とは
- ・データクレンジングとは
- ・Microsoft Excel: グラフの描画

#### 第8回 / Class8

7回目の授業内容に関する演習課題

#### 第9回 / Class9

データリテラシー (その4)

- ・データのばらつき (その1)
- ・母集団と標本抽出 (その2)
- ・Microsoft Excel: データの分析と関数
- ・統計解析向けプログラミング言語: R

#### 第10回 / Class10

9回目の授業内容に関する演習課題

#### 第11回 / Class11

データリテラシー (その5)

- ・データのばらつき (その2)
- ・度数分布とクロス集計 (その1)
- ・相関と因果 (その1)

#### 第12回 / Class12

11回目の授業内容に関する演習課題

#### 第13回 / Class13

データリテラシー (その6)

- ・散布図
- ・相関と因果 (その2)
- ・相関・単回帰分析 (その1)

#### 第14回 / Class14

13回目の授業内容に関する演習課題

#### 第15回 / Class15

データリテラシー (その7)

- ・相関・単回帰分析 (その2)

社会におけるデータ・AI活用

- ・社会とデータサイエンス、データ駆動型社会
- ・ビッグデータと機械学習

データ・AI活用における留意事項

- ・個人情報保護、GDPR、忘れられる権利
- ・データ倫理

## 第16回 / Class16

15回目の授業内容に関する演習課題

## 第17回 / Class17

定期試験

### 【テキスト / Textbooks】

講義資料は適宜配布する。

### 【参考書 / Reference Books】

米谷 学 著, 「Excel統計学入門」, オーム社, 2016年, ISBN-13: 978-4-274-21888-0

豊澤栄治 著, 「楽しいR - ビジネスに役立つデータの扱い方・読み解き方を知りたい人のための R統計分析入門 - 」, 翔泳社, 2015年, ISBN978-4-7981-3901-2

### 【準備学習（予習・復習等）の内容 / Supplementary Individual Study】

課題に取り組むことが次週の講義の準備学習につながるため、課題に取り組むとともに、十分に復習をしていくこと。

- ・実施した授業内容についての確認（90分）
- ・授業内で課す課題についての作業（270分）

### 【評価方法・基準 / Evaluation Method】

1. 講義・演習における平常点: 10%
2. 演習課題（原則として全ての課題を提出する）: 40%
3. 期末試験: 50%

出席は原則として全体の3分の2以上必要である。

演習課題はオンラインでの提出とする。

また、課題を遅刻で提出した場合は減点対象とする。

### 【課題に対するフィードバック / Task Feedback】

最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

### 【オフィスアワー / Office Hours】

原則として、以下の通りとする。

時間：毎週水曜日お昼休み(12:15-12:45)

場所：アリス・メイベル・ベーコン記念館 5 階研究室またはこれに相当するオンライン環境

### 【授業の特色 / Characteristics of Class】

実技、実験を取り入れる / Incorporate practice or experiment

ノートPCを用いた情報処理、分析を行う。

### 【その他 / Note】

ノートPCを利用するので、毎回必ず用意すること。

科目番号/Course Code : IFM1007

**科目名/Course : 情報通信技術と社会  
ICT and Society**

担当者名/Instructor : 曾根原 登

開講期/Term : 第1ターム / T1

単位/Credit : 2

配当年次/Year : 1年～

使用言語/Language : 日本語 / Japanese

学問分野/Field of study : IFM 情報学

推奨レベル/Year of study : 1(入門知識・幅広い視野を得る)

科目区分 : 総合政策学部 総合政策学科

**【講義の目的と内容 / Course Purpose and Content】**

工業社会は、物質的なモノの豊かさを充足する「生活のための情報」が流通する社会でした。それに続く情報社会は、精神的な心の豊かさを享受する「楽しみのための情報」が流通してきました。そして今、高度な情報通信技術によって、あらゆる情報機器やセンサがネットワークへ接続され、情報がデジタル化されて流通し、いつでも、誰もが、どこからでもアクセスすることが可能となってきました。この結果、「情報空間」と「実世界」が密に連携し、さらには、境目なく溶け合って統合するような「サイバー・フィジカル融合社会」が形成されようとしています。

この融合社会は、「社会問題克服と人間能力拡大のための情報」が流通する社会でしょう。融合社会の問題としては、人口の急速な減少と大都市への集中により、市町村の半数の自治体では、従来と同じレベルの公共サービスの維持が困難になるという問題があります。これには、地域の活性化、雇用機会の確保、地域医療の再生や健康の増進、自然災害への対応など、様々な形の社会と生活スタイルのイノベーションが求められています。しかしこれまでは、社会問題克服には、部分的でしかも不完全なデータをもとに、主観的な政策決定や経営判断に頼らざるをえませんでした。これからの融合社会では、科学的根拠データに基づいて合理的な政策決定や経営判断、意思決定を行うデータ駆動型の政策決定支援が有効となります。

それには、公益性の高い社会的ビッグデータの収集や分析を行い、情報通信システムやサービスを合成し、タイムリーに人と社会にフィードバックしていく「データ駆動型の総合政策」の仕組みや方法を習得します。また、科学的根拠データに基づいて、政策の立案や実行、評価など一連の政策サイクルを回すデータ活用能力を習得します。

この科目はオンライン授業として実施します。

**【授業の到達目標 / Learning Objectives】**

- (1) 高度な情報通信技術によって創出される「融合社会」の未来ビジョン策定能力の習得
- (2) 多種多量なデジタルデータ(ビッグデータ: Big Data)による「データ中心政策科学」の理解
- (3) 「情報の質」を確保する社会システムデザイン手法の理解
- (4) 情報流通「情流」の仕組みと技術体系を理解
- (5) 電子商取引を例として、経済発展とネット詐欺の回避の両立を図るリスク管理方法の演習
- (6) 振り込め詐欺など新しい犯罪と地域社会の関係分析の演習
- (7) プライバシー情報保護活用政策について調査分析による演習
- (8) 条件付きでオプトインする仕組み(IDデータコモンズ)の社会受容性の調査分析による演習
- (9) 交通システム、コンテンツ流通システム、公共政策システムなど新たな社会産学連携の枠組みの開発やガバナンスの仕組みについて演習
- (10) モバイル携帯機器やWeb/SNS/IoTセンシングシステムを用いタイムリーに情報フィードバックする技術的・社会的仕組みを理解
- (11) 大学と自治体、産業界と連携したデータ駆動政策の実践的理解(減災政策、地域活性化政策、人流制御政策)

**【授業計画 / Course Structure**

**授業の進み具合等によってスケジュールが変更になる場合もあります】**

**第1回 / Class1**

情報社会から融合社会へ

情報と通信の技術は、ICT (Information and Communication Technology) と呼ばれています。ICTにより、企業や組織の情報化、家庭や個人の情報化、社会やコミュニティの情報化が進んできました。最初は、大型コンピュータとシステム化による組織や企業の情報化でした。次に、そのコンピュータのダウンサイジングとパーソナル化が進展し、個人や家庭の情報化が進んできました。今では、情報端末のネットワーク化、ブロードバンド化、モバイル化が進み、ショッピングなどの経済活動やコミュニティ活動が情報化し、あらゆる社会システムの情報化が進んでいます。物の生産・流通・消費が活動の中心である社会は工業社会でした。情報の生産・流通・消費が中心である社会が情報社会です。そこで、高度な情報通信技術によって作り出される未来融合社会ビジョ

ンを考えましょう。

## 第2回 / Class2

### 融合社会の社会問題解決

あらゆる情報機器やセンサがネットワークへ接続され、情報がデジタル化されて流通し、いつでも、誰もが、どこからでもアクセスすることが可能となってきました。この結果、情報空間 (Cyber-space) と実世界 (Physical-world) が連携、あるいは統合した、「サイバー・フィジカル融合社会 (Cyber-Physical Integrated Society)」と呼ぶべき社会が形成されようとしています。この社会では、実世界の現況や人と社会の活動を情報世界に映し出し、情報の力によって、人類が直面する環境・エネルギー、医療・健康、食糧問題などの対策や新たな価値創成を行うことが期待されています。そのためには、人間・社会の挙動をセンシングし、そのデータを中心とした分析を行い、人やモノを制御する情報システム・サービスを合成し、迅速かつタイムリーにフィードバックする技術的・社会的仕組みが必要となります。そこで、多種多量なデジタルデータ「ビッグデータ (Big Data)」と呼ばれています」による「データ中心政策科学」について理解を深めます。

## 第3回 / Class3

### 情報の量から質へのパラダイムシフト

最先端の情報通信技術は、超高速インターネットや携帯電話、スマートフォン、そして高精細デジタル放送の大衆化を実現してみました。その結果、わが国では、情報の量的な面での流通・共有は、世界で類を見ない情報通信基盤を実現してきました。これとともに、多種多様で異質な情報、しかも信頼性・信憑性など質の不透明な情報が爆発的に増加しています。一方、人や社会の情報分析力には限界があります。このため、大量の情報から必要な情報を取捨選択して、適切な行動するための意思決定、政策決定の質が低下するという問題があります。そこで、急速に普及するスマートフォンやSNS、多様なセンサから収集されるデータを総合的に分析し、評価した結果生まれてくる質の高い解釈 (インテリジェンスと呼ばれます) が必要となってきます。そこで、専門家と一般市民の間にある情報の非対称性の解消、デマや風評などSNSやマスメディアにおける情報の信頼性・信憑性の確保など、「情報の質」を確保する社会システムについて理解を深めます。

## 第4回 / Class4

### デジタル技術の本質とメタデータ

物財と物流、情報財と情報流通 (これを「情流」と呼びます) の特質を比較し、その流通の仕組みや秩序を理解します。物財には、重さ、色、形があります。しかも、存在が明らかで、探しやすいし、経年変化もあります。財の管理には、荷札、値札、名札などをつけて管理します。デジタルのコンテンツは、単なる1と0のデータ (符号) によって構成されています。時間や物理量とは無関係です。いつまでも存在し続け、変化することはありません。勿論、重さや場所とも無関係です。このように、デジタル技術は本来、物理世界の制約を克服する情報共有環境を実現するために進歩してきました。したがって、デジタル革新は、情報の共有と流通のパラドックス問題なのです。そこで、情報財やデジタル財を流通させる仕組みについて考えてみましょう。デジタル財にも、著作者、編集者、出版社、価格、利用条件などの荷札が必要です。これをデータについてのデータという意味でメタデータ (metadata) と呼びます。このメタデータが無ければ流通市場には乗せられないこととなります。そこで、情流の仕組みと技術について習得します。

## 第5回 / Class5

### ケーススタディ 1 : Webサイトの信頼性評価

携帯電話、メール、Web、BlogやSNSなどのメディアを用いた、ネット詐欺、誹謗中傷、風説の流布、自殺コミュニティ、裏サイトなどにより、ネット社会の信頼性は様々な形で脅かされています。人と人が対面で行動する社会の規範が確立している現実世界とは違い、顔が見えないこと・匿名性などが特徴である情報世界では、自己防衛知識の不十分な利用者が、ネット犯罪のターゲットとなっています。こうしたネット社会の信頼性欠如に伴う社会不安と、ネット上でやり取りされる情報への不信は、知的情報や知識サービス産業の経済発展の大きな障壁となっています。ここでは、企業・消費者間の電子商取引におけるECサイトのリスク推定問題を事例として取り上げます。サイトの完全な安全性を確保するには大きなコストが必要となります。何も対応しないと、信頼感のモラルハザードにより市場メカニズムが崩壊する危険性があります。そこで、電子商取引を例として、経済発展とネット詐欺の回避による社会の安定化の両立を図るリスク管理方法について考えます。

## 第6回 / Class6

### ケーススタディ 2 : 振り込め詐欺と地域社会との関連性

犯罪学の知見を活用して、悪質な架空請求を行う詐欺を中心とした振り込め詐欺に代表される新しい犯罪と地域社会や従来犯罪との関連性を分析した事例を紹介する。従来のオレオレ詐欺以外にも、著名な都市銀行、大手信販会社等に似せた金融会社名を用いて保証料、手数料等様々な名目で融資実行前に金銭の振込みを要求する「架空請求詐欺」、「融資保証金詐欺」、「還付金等詐欺」などの警察庁が定義する「振り込め詐欺」が多発しています。従来のオレオレ詐欺（155億円、7,615件）と、それ以外の「架空請求詐欺」、「融資保証金詐欺」、「還付金等詐欺」の合計（121億円、12,866件）と被害金額は同規模、件数は上回ってきている。そこで、振り込め詐欺は、「架空請求詐欺」「融資保証金詐欺」「還付金等詐欺」とし、関東財務局が公開している無登録かつ、実在する会社名や類似の会社名を使用して架空請求等の振り込め詐欺も行っている貸金業者ブラックリストの電話番号と実社会の地域特性や、地域の従来犯罪特性の指標を用いた因子分析を行い、詐欺業者と地域の特性の関係について理解する。

## 第7回 / Class7

### 調査分析演習1：プライバシー情報保護と個人情報活用の調和

携帯端末の高性能化や普及、TwitterやFacebookをはじめとするソーシャルネットワークサービスの台頭により、個人に関わる膨大なデジタルデータ（ライフログ）を含んだ様々なデータがインターネット上に蓄積されつづけています。さらに、固定・モバイルカメラから大量にアップロードされる画像や映像もある種のライフログとも考えられ、インターネット空間は、まさにマルチメディア・ビッグデータの様相を呈してきている。ライフログは個人に関連する情報であるため、プライバシー情報であるが、これを保護しつつ、有効利用する方策が求められている。そこで、時間軸（災害時など特別な場合）、空間軸（実世界における特別な場所（駅、商業施設、テーマパークなど））におけるプライバシー情報保護活用政策について調査分析します。

## 第8回 / Class8

### 調査分析演習2：IDデータコモンズ

ライフログの収集、管理、共有、分析、合成に関して、その取り扱いを利用者自らが決定する仕組みである「IDデータコモンズ」を事例として、個人情報活用制度をデザインする。IDデータコモンズは、個人情報の種別毎に、(1)発災後の開示期間、(2)開示先もしくは開示目的の限定、(3)救助・救援などへの直接利用と被災統計などへの間接利用の可否について条件付きでオプトインする仕組みです。さらに、平常時に利用している情報サービスに登録されている個人情報や、公的機関などが有する個人情報について、災害対応に限定して事前に意思確認を行っておくことで、新たに個人情報を収集する必要はなく、災害時に限定した情報開示への同意を行います。また平常時情報サービスの魅力や、災害時の減災力向上（自助力の強化、共助の機会拡大、効率的な公助の実施）というメリットがあります。このIDデータコモンズは、一般市民が同意する十分なインセンティブが存在するかを調査分析します。

## 第9回 / Class9

### 融合社会のガバナンスと政策

ガバナンスとは、技術、市場、技術社会の規範・慣習、法制度の4輪をうまく連動させる情報管理である。融合社会のガバナンスを推進するには、単に、技術的課題だけではなく、社会・文化の影響等を念頭に置きつつ、新たな技術的、社会的仕組みに取り組む必要があります。これとともに、これまでの延長線でない形での制度的な課題解決等、広範な視点で社会問題の解決に取り組む必要があります。政策学、工学、ビジネス、法学、社会学等の英知を集結して融合社会基盤を実現する必要があります。ここでは、ケーススタディとして、自動運転交通システム、コンテンツ流通システム、公共政策システムなどを取り上げ、新たな社会産学連携の枠組みの開発やガバナンスの仕組みについて習得する。

## 第10回 / Class10

### 融合社会の問題を解決する総合政策

環境・エネルギー・食糧問題、自然災害など人類が直面する課題に対して、データを駆使して解決策を導き出すため、情報世界と実世界を連携させることによって、実世界の現況や課題を情報世界に映し出し、ICTによって課題の解決や、新たな価値創成を迅速に行うことができる科学的研究手法を習得する。具体的には、モバイル携帯機器を介した情報のやりとりとコミュニケーションを中心に、個人や集団の意思決定に必要なかつ有益な情報（インテリジェンスと呼ぶ）に動的に変化させ、人、モノ、そしてそれらが集まったコミュニティにタイムリーにフィードバックする技術的・社会的仕組みを習得します。

## 第11回 / Class11

## データ活用演習 1 - 1 : 大学と自治体、産業界と連携したデータ駆動政策の実習 (減災政策) 調査分析

観光ナビなど平常時のICTシステム・サービスが、緊急時の避難誘導に境目なく移行する非常時連携型の情報システム、避難の効果を高めるために個々人の状況情報にもとづくパーソナライズ避難・誘導システム、デマや風評などSNSやマスメディアにおける情報の信頼性評価方法を題材とし、新たなデータ駆動の政策支援の仕組みを演習します。

### 第12回 / Class12

## データ活用演習 1 - 2 : 大学と自治体、産業界と連携したデータ駆動政策の実習 (減災政策) 発表

観光ナビなど平常時のICTシステム・サービスが、緊急時の避難誘導に境目なく移行する非常時連携型の情報システム、避難の効果を高めるために個々人の状況情報にもとづくパーソナライズ避難・誘導システム、デマや風評などSNSやマスメディアにおける情報の信頼性評価方法を題材とし、新たなデータ駆動の政策支援の仕組みを演習します。

### 第13回 / Class13

## データ活用演習 2 - 1 : 大学と自治体、産業界と連携したデータ駆動政策の実習 (地域活性化政策) 調査分析

施設稼働率、交通 (飛行機・高速バス・路線バス) 利用率、飲食や物販など売上額、宿泊施設などの雇用者数、イベントの集客率などの公益性の高いソーシャル・ビッグデータ収集・分析・活用基盤を用い、産官学連携による新たなデータ駆動の政策支援の仕組みを習得します。

### 第14回 / Class14

## データ活用演習 2 - 2 : 大学と自治体、産業界と連携したデータ駆動政策の実習 (地域活性化政策) 発表

施設稼働率、交通 (飛行機・高速バス・路線バス) 利用率、飲食や物販など売上額、宿泊施設などの雇用者数、イベントの集客率などの公益性の高いソーシャル・ビッグデータ収集・分析・活用基盤を用い、産官学連携による新たなデータ駆動の政策支援の仕組みを習得します。

### 第15回 / Class15

## データ活用演習 3 - 1 : 大学と自治体、産業界と連携したデータ駆動政策の実習 (人流制御政策) 調査分析

どのような人が、何人、どこから、どのように来て、どこに向かうか、といった観光・回遊政策立案のためのパーソントリップデータ (人流) 活用基盤の政策支援の仕組みを習得します。

### 第16回 / Class16

## データ活用演習 3 - 2 : 大学と自治体、産業界と連携したデータ駆動政策の実習 (人流制御政策) 発表

どのような人が、何人、どこから、どのように来て、どこに向かうか、といった観光・回遊政策立案のためのパーソントリップデータ (人流) 活用基盤の政策支援の仕組みを理解します。

### 第17回 / Class17

課題選定とレポート作成による定期試験

(履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。)

### 第18回 / Class18

レポートのプレゼンテーション演習とフィードバック

(履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。)

## 【テキスト / Textbooks】

教科書は使用しない。

- (1) 教材は事前に印刷・配布 (又はWeb) に掲載
  - (2) 論文など事前に印刷・配布 (又はWeb) に掲載
- ホームページは別途連絡する。

## 【参考書 / Reference Books】

参考書籍 (購入の必要はありません。貸与します)

- [1]. 安岡寛道, 曾根原登, 宍戸常寿, 「ビッグデータ時代のライフログ ICT社会の "人の記憶" 」, 東洋経済新報社, (2012.7)
- [2]. 曾根原 登, 岸上順一 他共著, 「メタデータ技術とSemantic Web」, 東京電機大学出版 (2006.1)

[3].東倉 洋一監修, 曾根原 登他共著, 「未来をさがそう」, ダイヤモンド社 (2005.11)

[4].東倉洋一, 岡村久道, 高村信, 岡田仁志, 曾根原 登, 「情報セキュリティと法制度」, 丸善ライブラリー (2005.3)

[6].林紘一郎 監修, 「著作権の法と経済学」, 曾根原 登「第2章 デジタル流通システムと著作権」, 勁草書房 (2004.6)

**【準備学習（予習・復習等）の内容 / Supplementary Individual Study】**

教材、論文、資料などを事前に配布します。事前に読んでくること。

**【評価方法・基準 / Evaluation Method】**

評価は、討論内容（40%）、調査分析レポート内容（40%）、発表（20%）等により、総合的に「優、良、可、不可」により判定します。

**【課題に対するフィードバック / Task Feedback】**

レポートの提出と評価結果のフィードバック

**【オフィスアワー / Office Hours】**

以下は、教員室にいます。

（1）水曜日 12:00 - 13:00 13:00 - 19:30 5階 研究室（メールで事前予約のこと）

（2）木曜日 8:50 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 14:40 5階 研究室（メールで事前予約のこと）

（3）金曜日 10:30 - 12:00 12:00 - 13:00 13:00 - 16:10 5階 研究室（メールで事前予約のこと）

**【その他 / Note】**

報告書・提案書・企画書の書き方は指導します。

必要に応じて、特許の出願書類の書き方を指導します。

担当教員のNTT電気通信研究所ならびに国立情報学研究所での実務経験を踏まえた授業です。

科目番号/Course Code : XPS1024

**科目名/Course : データ分析実践  
Business Data Science**

担当者名/Instructor : コーネット可奈  
打尾賢一  
太田海香

開講期/Term : 第2ターム / T2

単位/Credit : 1

配当年次/Year : 1年～

使用言語/Language : 日本語 / Japanese

学問分野/Field of study : XPS その他 (総合政策学科)

推奨レベル/Year of study : 1(入門知識・幅広い視野を得る)

科目区分 : 総合政策学部 総合政策学科

**【講義の目的と内容 / Course Purpose and Content】**

最先端の職業として今、大きな注目を集める“データサイエンティスト”。

本講義は、世界最大のコンサルティング企業であるアクセンチュア株式会社の現役コンサルタントによる、実践型データ分析演習講座です。データ分析の基礎知識から、実践的な分析スキルの修得、そして就職活動にも直結するロジカルシンキング、クリティカルシンキング、プレゼンテーションスキルの修得を目指します。

ビジネスの現場では、統計知識やITスキルに加えて、多様なステークホルダーとコミュニケーションをとり、ビジネスを企画・実行する力が求められます。日本国内・海外でも、データ分析スキルを持った人材に対する市場ニーズが、昨今非常に高まっています。

本講義では、ビジネスで求められるデータ分析の実践的なポイントを学んでいきます

- ・一連のアナリティクス・プロセスの理解
- ・データを活用したアナリティクス・プロセスの実践（課題定義・仮説立案からデータ整形、分析、示唆出し、プレゼンテーションまでの一連のプロセス）
- ・ビジネスの現場で使われる統計ツール（PythonやEXCELを予定）を用いた実践的な分析スキルの経験

データ分析の手法以外にも、下記のビジネススキル・実践経験も提供することを目指しています

- ・ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、プレゼンテーションスキルの理解、実践を通じた修得
- ・複数のアクセンチュア社員による分析レビューを行い、ビジネス観点での分析の仕方、資料作成方法を学ぶ
- ・本講義を2ヶ月間のデータ分析プロジェクトと仮想し、プロジェクト管理の方法を学ぶ

実際のビジネスにおけるデータサイエンスの実例も紹介し、学生のキャリア形成の参考となる情報提供も視野に入れていきます

**【授業の到達目標 / Learning Objectives】**

本講義では、アクセンチュア株式会社の現役データサイエンティストが講師となり、プロジェクト型のデータ分析演習を通じた一連のアナリティクス・プロセスを実施し、企業において求められる実践的な分析スキルの修得を目指します。

また、現役コンサルタントとのディスカッションを通じて、プロジェクトの疑似体験の機会も提供します。ロジカルシンキング・クリティカルシンキングによる課題の本質の見極め、ストーリー作成・資料作成・プレゼンテーション実施におけるコツの理解など、今後の研究活動、就職活動で必須となるプロジェクト推進スキルの修得も目指します。

**【授業計画 / Course Structure 授業の進み具合等によってスケジュールが変更になる場合もあります】**

**第1回 / Class1**

データサイエンス概論/取り組む課題の共有  
講演者のスケジュールにより順番が前後する可能性があります  
ビデオ上映となる可能性があります

**第2回 / Class2**

課題の把握/課題定義

**第3回 / Class3**

データ収集加工/仮説立案

**第4回 / Class4**

分析手法講義（決定木など）



## 第5回 / Class5

チームアクティビティ（データ分析実施）

## 第6回 / Class6

アクセンチュア社員による分析方針レビュー/データ分析アップデート

## 第7回 / Class7

アクセンチュア社員による分析結果レビュー/最終発表準備

## 第8回 / Class8

最終発表

### 【テキスト / Textbooks】

教科書は使用しません。

### 【参考書 / Reference Books】

適宜指定します。

### 【準備学習（予習・復習等）の内容 / Supplementary Individual Study】

各回の講義の終わりに予習、復習の範囲について指定します。

### 【評価方法・基準 / Evaluation Method】

- ・平常点（授業への参加状況、アンケート提出状況で総合的に判断）20%
- ・最終発表資料（個人レポート、チームプレゼン資料）80%

### 【課題に対するフィードバック / Task Feedback】

各回の課題については翌週の授業内で、最終の発表内容についてのフィードバックは全体のまとめにおいて行います。

### 【オフィスアワー / Office Hours】

授業の前後、もしくはメールにて質問を受け付けます。（メールアドレスは初回の授業時にお知らせします。）

### 【授業の特色 / Characteristics of Class】

PBLを取り入れる / Incorporate PBL

決められたクライアントの課題解決をデータ分析をもとに実施する形式で授業を進めます。

プレゼンテーション、発表を取り入れる / Incorporate presentation

最終授業では、クライアントに対する提案の形で最終発表会を行います。

グループワークを取り入れる / Incorporate group work

課題解決のプロジェクト型演習をグループワークで進めます。

### 【その他 / Note】

- ・講義をオンラインで実施する可能性があります（一部を除く）。
- ・本講義は毎回の講義にグループワークを実施するため、リアルタイムで参加いただく必要があります（オンデマンド型ではありません）。
- ・分析作業をベースに課題解決を進めていくため、プログラミングやEXCELを使用した分析に興味がある方、挑戦してみたい方の受講を推奨します。経験の有無は問いません。

<ご参考：昨年度講義の様子>

昨年度は福井県鯖江市をクライアントと見立て、男女共同参画に関する施策提言を行いました。

<https://www.tsuda.ac.jp/student-life/campusreport/2021/0813.html>



# カリキュラムマップ

## ■ 学習目標

本プログラムにより、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識を修得することで、文系・理系問わず幅広い専門領域において、データを用いた客観的な知見を抽出する力を身につけることを目的とする。

さらに、Society5.0などの動向やデータ活用事例および、活用にあたる様々な留意事項等を学修することにより、卒業後、身につけた力を社会の中でどう活用していくのかについての方法論も身につける。文系の学生は実社会の問題解決に数理的思考・手法が有効であることを学び、理系的な発想を加えて数理・データサイエンス・AIを日常生活や仕事等で活用できる能力を身に付ける。

## データサイエンスリテラシープログラム・カリキュラム

学部	学科	必修科目	程度	単位数	修了要件単位
学芸学部	英語英文学科 国際関係学科 多文化・国際協力学科	情報処理Ia	I	1	3単位
		データリテラシーb	I	1	
		情報と社会(4)	I	1	
	数学科	情報処理	I	2	4単位
		データリテラシーb	I	1	
		情報と社会(4)	I	1	
	情報科学科	コンピュタリテラシーa	I	1	3単位
		データリテラシーb	I	1	
		情報と社会(4)	I	1	
総合政策学部	総合政策学科	データ・サイエンス入門	I	2	4単位
		情報通信技術と社会	I	2	

※1 単位修得者には修了書を授与

※2 総合政策学部については、さらに学びたい学生向けに「データ分析実践」（程度I，1単位）を選択科目としている

# 履 修 要 覧

2021

(2021.9.15 第10版までの訂正反映済)

1. 共通科目

2. 外国語科目

3. 健康余暇科学科目

4. 英語英文学科

5. 国際関係学科

6. 多文化・  
国際協力学科

7. 数 学 科

8. 情報科学科

9. 多文化・  
国際協力コース

10. メディア  
スタディーズ・コース

11. 教 職 課 程

12. 日本語教員  
養成課程

13. デジタルメディア  
副 専 攻

14. 交 換 学 生  
(Exchange Students)

15. 随 意 科 目

津 田 塾 大 学  
学 芸 学 部

# I 学校法人津田塾大学寄附行為(抜粋)

## 第1章 総 則

**第1条** (名称) この法人は、学校法人津田塾大学と称する。

**第2条** (事務所の所在地) この法人は、その事務所を東京都小平市津田町2丁目1番1号に置く。

**第3条** (目的) この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、キリスト教精神に基づく女子の大学を設置することを目的とする。

**第4条** (設置する学校) この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる大学を設置する。

津田塾大学

大学院	文学研究科	理学研究科	国際関係学研究科
学芸学部	英語英文学科	国際関係学科	多文化・国際協力量科
総合政策学部	総合政策学科	数学科	情報科学科

# II 津田塾大学学則

## 第1章 総 則

**第1条** この大学は女子に広く高度な教養を授けるとともに、専門の学術を教授研究し、キリスト教精神により、堅実円満にして自発的かつ奉仕的な人物を養成することを目的とする。

**第2条** 本学に学芸学部および総合政策学部を置く。

2 学芸学部は英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力量科、数学科および情報科学科を置く。

3 総合政策学部は総合政策学科を置く。

**第3条** 学芸学部英語英文学科は、言語や文化を総合的な視点でとらえ、英語を通じて異なる文化的背景を探究する考察力と人間を洞察する力量を培い、高度な英語力を基盤とした専門的学識と広い視野をかね備えた、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

2 学芸学部国際関係学科は、政治・法、経済、文化、社会、地域などの多様な視点から、英語と第二外国語を基盤として、現代世界の諸問題を国際的かつ学際的に考察し、広い視野と独自の洞察力をもって国際社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

3 学芸学部多文化・国際協力量科は、社会構造や文化の違いが引き起こしている問題、国際協力・国際援助が抱える問題に向き合い、より良い「共生型」社会の実現に向けての新しいアプローチを提案でき、国内外問わず「今ある状況」をよりよくするためにはどうすれば良いのか、それぞれの場で変革を担う人材の育成を目的とする。

4 学芸学部数学科は、数学の学習・研究を通じ、高度な分析力や論理的思考力および問題解決能力を養成するとともに、情報処理技術を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

5 学芸学部情報科学科は、情報科学の専門知識とコミュニケーション能力を身につけ、最新のコンピュータや通信技術を駆使して、IT関連のさまざまな問題を創造的に解決できる情報科学のプロフェッショナルとして、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

6 総合政策学部総合政策学科は、社会の諸相を的確に把握する認識力と分析力、英語を用いた高度なコミュニケーション能力を養い、現代社会が直面する諸課題の解決を通じて新しい社会の仕組みを作り出すことのできるリーダーシップを備えた、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

**第4条** 第2条第2項の学科の取容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	取容定員
英語英文学科	220人	880人
国際関係学科	200人	800人
多文化・国際協力量科	70人	280人
数学科	45人	180人
情報科学科	45人	180人

2 第2条第3項の学科の収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
総合政策学科	110人	440人

**第5条** 本学各学部の修業年限は、4年とする。

2 本学各学部にて在学できる年数は、通算して8年を限度とする。ただし、休学期間はこれに含めない。

**第6条** 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は別にこれを定める。

## 第2章 学年・学期・休業日

**第7条** 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学期の区分・期間および呼称は、学部ごとに学長が定める。

**第8条** 休業日は、次のとおりとする。ただし、第3号から第5号の休業日は、学部ごと、毎年度、学長が定める。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律に定める休日
- (3) 夏期休業日
- (4) 冬期休業日
- (5) 春期休業日

2 前項の規定にかかわらず、学長は臨時に休業日を定め、または臨時に休業日を変更することができる。

## 第3章 教育課程および履修方法

**第9条** 本学学芸学部の各学科および総合政策学部総合政策学科の教育課程および履修方法は、別表Ⅰのとおりとする。

**第10条** 本学において開設する授業科目の名称および単位数は、別に定める。

2 前項のほか、学長は臨時に授業科目を開設することができる。

**第11条** 本学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を実施するものとする。

**第12条** 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号に掲げる基準によるものとする。

- (1) 講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習および実技等については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と学長から認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることがある。

**第12条の2** 授業科目を履修し、その授業に所定の授業時間を出席し、かつ合格の評価を得た者には、学長が学期末に所定の単位を与える。

**第13条** 学芸学部において教育職員免許状を取得しようとする者は、第9条に規定する教育課程および履修方法によるほか、教育職員免許法および同法施行規則の関係規定に基づく所定の科目を履修し、単位を修得しなければならない。

2 中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、前項の規定によるほか、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」および同法施行規則に定める介護等の体験を行わなければならない。

3 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、高等学校教諭一種免許状および中学校教諭一種免許状とし、それらの免許教科は、学芸学部の各学科によりそれぞれ次のとおりとする。

英語英文学科	外国語（英語）
国際関係学科	外国語（英語）または中学校（社会）・高等学校（地理歴史、公民）
数 学 科	数学または高等学校（情報）
情 報 科 学 科	数学または高等学校（情報）

**第13条の2** 日本語教員養成のために必要な授業科目および単位数は、別に定める。

2 所定の単位を修得した者には修了証明書を授与する。

**第14条** 学長が、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学または短期大学の授業科目を履修することを認めることがある。

2 学生が前項の他の大学または短期大学の授業科目を履修しようとするときは、あらかじめ学長の許可を受けなければならない。

3 前項の規定に基づき学生が履修し、修得した他の大学または短期大学の授業科目についての単位は、学長が30単位を超えない範囲で、本学で履修し、修得したものとみなすことがある。

4 前2項の規定は、第27条第1項の規定により、学生が外国の大学または短期大学に留学する場合に準用する。

**第15条** 学長が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

2 前項の規定により与えることがある単位数は、前条第3項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

**第15条の2** 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学または短期大学もしくは外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位（大学設置基準第31条に規定する科目等履修生等として修得した単位を含む）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、または与えることがある単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

**第16条** 学生は、毎学年の始めに履修する科目を選択し、所定の期日までに事務局教務課へ届け出なければならない。

#### 第4章 教職員組織

**第17条** 本学に学長を置く。

2 学長は、本学を統括しこれを代表する。

**第18条** 本学に副学長を置く。

2 副学長は、学長を助け、その命を受けて校務をつかさどる。

**第18条の2** 各学部に学部長を置く。

2 学部長は、所属学部の校務をつかさどる。

**第19条** 本学に教授、准教授、講師、助教、助手および事務職員を置く。

2 教授、准教授、講師、助教、助手および事務職員の定員は別にこれを定める。

**第19条の2** 本学の大学運営に関する重要事項を審議するため、学長の下に大学運営会議を置く。

2 大学運営会議は、学長、副学長、各学部長、学部から選出する者各1名、大学院委員会が選出する者1名および事務局長をもって構成し、学長が議長となる。

3 大学運営会議は、次の事項について審議する。

- (1) 学則その他の教育に関する重要な規則の制定・改廃に関する事項
- (2) 本学の事業計画に関する事項
- (3) 教員人事に関する事項
- (4) 教育課程編成の方針に関する事項
- (5) 学生の厚生補導に関する事項
- (6) 学生の入学や学位授与等の方針に関する事項
- (7) 教育、研究、組織及び運営の状況についての自己点検、評価に関する事項
- (8) その他本学の運営に関する重要事項

**第20条** 各学部に、教授会を置く。

2 学部長、専任の教授、准教授、講師を以て教授会を組織する。

3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。

**第21条** 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前号までに掲げるもののほか、教育に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長および学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育に関する次の事項について審議する。また、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

- (1) 留学、休学、復学、転部、転科、退学、および除籍に関する事項
- (2) 試験および単位認定に関する事項
- (3) 委託生、交換学生、科目等履修生、聴講生、外国人留学生に関する事項
- (4) 学生の賞罰に関する事項
- (5) 専任以外の教員の選考に関する事項
- (6) 教授会の設置する委員会に関する事項



(7) 学長等の諮問する事項

**第5章 入学・留学・休学・復学・編入学・転部・転科・退学・再入学および除籍**

**第22条** 入学の時期は、毎学年の始めとする。

**第23条** 入学を志願することができる者は、女子で次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験（旧大検）に合格した者
- (7) 本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めたる者

**第24条** 入学志願者に対しては、入学検定を行う。

**第25条** 入学を許可された者は、別に定める入学手続き要項により、保証人連署の保証書その他必要な入学書類を添えて、指定の期日までに手続きをしなければならない。

**第26条** 保証人は、独立の生計を営む親族または縁故者で確実に保証人の責を負い得る者でなければならない。

2 保証人が前項の条件を欠いた場合には、直ちに保証人を選定して届け出なければならない。

3 保証人は、保証人の身分、住所等に異動が生じた場合には、直ちにその旨を届け出なければならない。

**第27条** 外国の大学に留学しようとする者は、所定の手続きを経て学長の承認を得なければならない。

2 留学に関する細則は別にこれを定める。

**第28条** 病気その他やむを得ない理由により休学しようとする者は、所定の様式による休学願にその理由を記し、保証人連署の上、願い出なければならない。

2 休学期間は、1年または半年とする。ただし特別の事情のある場合は、学長は引き続き休学を許可することがある。

3 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

**第29条** 休学中の者が復学を希望するときは、所定の様式による復学願を（病気の場合は医師の診断書を添え）提出しなければならない。

**第30条** 次の各号の一に該当する女子で本学への編入学を願い出た者には、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者、または退学した者
- (2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者
- (3) 本学において、第1号および前号と同等以上の学力があると学長が認めたる者

2 前項の規定により入学を許可された者については、学長は、既に修得した授業科目、単位数および在学年数を本学における授業科目、単位数および在学年数として認定換算することを許可できる。

3 編入学に関する細則は別にこれを定める。

**第31条** 転部、転科を願い出た者には、事情を考慮した上で、学長がこれを許可することがある。

2 転部、転科に関する細則は別にこれを定める。

**第32条** 退学しようとする者は、所定の様式による退学願にその理由を記し、保証人連署の上、願い出なければならない。

2 退学に関する細則は別にこれを定める。

**第33条** 退学者が再入学を願い出たときは、事情を考慮した上で、学長がこれを許可することがある。

2 再入学に関する細則は別にこれを定める。

**第34条** 次の各号の一に該当する者は除籍する。

- (1) 定められた期日までに履修登録を行わない者
- (2) 授業料等諸料金の納付を怠り督促を受けてもなお納めない者
- (3) 第28条第2項に定める休学期間を超えてなお復学または退学しない者
- (4) 第5条第2項に定める在学年限を超えてなお退学しない者
- (5) 許可なくして3ヶ月以上欠席した者

2 除籍に関する細則は別にこれを定める。

**第6章 評価・卒業・学位**

**第35条** すべての授業科目は、その履修終了時において学習の評価を行う。

2 学習の評価は、試験その他の方法によって行う。

3 学習の評価は、原則としてA, B, C, D, Fで評価し、A, B, C, Dを合格とする。

**第36条** 病気または正当な理由により試験を受けることができなかった者は、願い出により、学長から追試験の受験を許可されることがある。

2 追試験に関する細則は別にこれを定める。

**第37条** 合格点を取得しなかった者は、願い出により、学長から再試験の受験を許可されることがある。

2 再試験に関する細則は別にこれを定める

**第38条** 本学に4年以上（編入学者の場合を除く）在学し、所定の単位数を修得した者には、学長は、卒業を認め、学士の学位を授与する。

**第39条** 本学において授与される学士の学位は次のとおりとする。

学芸学部

英語英文学科	学士（英文学）
国際関係学科	学士（国際関係学）
多文化・国際協力学科	学士（多文化・国際協力学）
数学科	学士（理学）
情報科学科	学士（理学）

総合政策学部

総合政策学科	学士（総合政策学）
--------	-----------

### 第7章 入学検定料・入学金・授業料・試験料等

**第40条** 入学を志願する者は、志願と同時に入学検定料を納入しなければならない。

2 入学検定料の額は、別表Ⅱの定めるところによる。

**第41条** 入学を許可された者は、入学金、その期の授業料、施設設備費その他の所定の料金を指定の期日までに納入しなければならない。

2 前項の規定は、再入学および編入学の場合にも準用する。

3 入学金の額は、別表Ⅲの定めるところによる。

**第42条** 授業料および施設設備費は、年額を2期に分け、前期にあつては5月10日、後期にあつては10月31日までに納入しなければならない。

2 第41条第1項および前項の規定にかかわらず、学生の申し出があつたときは、前期分の授業料および施設設備費を納入するときに、その年度の後期分の授業料および施設設備費を併せて納入することができる。

3 第1項の規定にかかわらず、学生の申し出があつたときは、事情を考慮した上で、前期分の授業料および施設設備費にあつては9月30日まで、後期分の授業料および施設設備費にあつては翌年の3月31日まで、納入を延期することができる。

4 特別の事情がある場合には、前項の規定により9月30日まで延期した前期分の授業料および施設設備費の納入を翌年の3月31日まで延期することができる。

5 授業料および施設設備費の年額は、別表Ⅳの定めるところによる。

**第43条** 追試験または再試験を受ける者は、試験料を前納しなければならない。

2 追試験料および再試験料の額は、別にこれを定める。

**第44条** 既に納入した諸料金は、事情の如何にかかわらずこれを返却しない。

**第45条** 休学中については、授業料、施設設備費を免除し、在籍料を納入するものとする。

2 留学中については、授業料、施設設備費を在籍料相当額に減免する。ただし、交換留学協定校への留学については別に定める。

3 在籍料の年額は別表Ⅴの定めるところによる。

4 休学中および留学中の授業料、施設設備費に関する規則は、別にこれを定める。

**第46条** 途中で退学する者もその学期分の授業料、施設設備費は納入しなければならない。

**第47条** 各学期分の授業料等諸料金未納者（第42条第3項および第4項の規定により授業料及び施設設備費の納入の延期を認められた者を除く。）は、その学期に実施される定期試験の受験資格を失うものとする。

### 第8章 委託生・交換学生・科目等履修生・聴講生

**第48条** 特定の機関または団体等から研修科目を定め、本学の修学を委託される場合には、教育および研究に妨げのない限り、選考の上、学長から委託生として受け入れを許可されることがある。

2 委託生は、本人の希望により試験を受けることができる。また試験に合格した者には、本人の請求により成績証明書



を交付する。

3 委託生に関する細則は別にこれを定める。

**第49条** 他の大学または短期大学との協定に基づいて本学の授業を履修し、単位を修得しようとする者、もしくは本学と協定のある外国の大学の学生で本学の授業科目の履修を希望する者は、当該大学の推薦のもとに、学長から交換学生として入学を許可されることがある。

2 交換学生は、履修した授業科目につき試験を受けなければならない。また試験に合格した者には本人の請求により成績証明書を交付する。

3 交換学生に関する細則は別にこれを定める。

**第50条** 本学において、単位の修得を目的として特定の授業科目の履修を希望する者があるときは、学生の履修に妨げのない限り、選考の上、学長から科目等履修生として入学を許可されることがある。

2 科目等履修生の入学資格は、第23条各号の一に該当するものとする。ただし、その者の履修の目的等により、特別の要件を付加することがある。

3 科目等履修生が履修した授業科目の試験に合格したときは、その授業科目の所定の単位を与える。

4 科目等履修生に関する細則は別に定める。

**第50条の2** 本学において一または複数の授業科目の聴講を希望する者があるときは、学生の履修に妨げのない限り、選考の上、学長から聴講生として入学を許可されることがある。

2 聴講生の入学資格は、第23条各号の一に該当する者とする。

3 聴講生に関する細則は別に定める。

**第51条** 委託生、交換学生、科目等履修生および聴講生は定員外とする。

## 第9章 外国人留学生

**第52条** 外国人で本学において教育を受ける目的をもって入国し、第23条第3号および第7号の規定する要件をみたして入学を願った者は、選考の上、学長から外国人留学生として入学を許可されることがある。

2 前項の外国人留学生が日本語および日本事情に関連する科目を履修し、所定の単位を修得した場合には、26単位を限度として共通科目、外国語科目および健康余暇科学科目の単位に代えることができる。

3 外国人留学生には本学則その他本学の定める諸規定を準用する。

## 第10章 公開講座

**第53条** 本学に公開講座を設けることができる。

## 第11章 賞 罰

**第54条** 本学の規則命令に背き、または学生の本分に反する行為をした者は、学長がこれを懲戒する。

2 懲戒は訓告、停学および退学とする。

3 懲戒に関する規程は別に定める。

**第54条の2** 学生として、表彰に値する行為があったものは、学長がこれを表彰することができる。

2 表彰に関する規程は別に定める。

## 第12章 付属施設

**第55条** 本学に図書館、言語文化研究所、国際関係研究所、数学・計算機科学研究所、総合政策研究所、計算センター、ウェルネス・センター、視聴覚センター、国際センター、イングリッシュ・コーディネーション・センター、津田梅子記念交流館、津田梅子資料室、女性研究者支援センター、ライティングセンター、学外学修センター、キャリア・センター、連携推進センター、オープンユニバーシティおよび大学ホールを付設する。

2 付属施設に関する細則は別にこれを定める。

**第56条** 本学に寮を付設する。

2 寮に関する細則は別にこれを定める。

## 第13章 自己点検・評価

**第57条** 本学は第1条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う。

2 点検項目および実施体制については別に定める。

## 附 則

1. この学則は、昭和23年（1948年）4月1日から施行する。  
（昭和24年（1949年）4月1日施行から平成13年（2001年）4月1日施行まで省略）
2. この学則は、平成16年（2004年）4月1日から施行する。
3. この学則は、平成18年（2006年）4月1日から施行する。
4. 学芸学部情報数理学科は、改正後の第2条第2項、第4条、第13条第3項及び第39条の規定にかかわらず、平成18年（2006年）3月31日に情報数理学科に在学する者がその学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
5. この学則は、平成19年（2007年）4月1日から施行する。
6. この学則は、平成20年（2008年）4月1日から施行する。
7. この学則は、平成21年（2009年）4月1日から施行する。
8. この学則は、平成22年（2010年）4月1日から施行する。
9. この学則は、平成23年（2011年）4月1日から施行する。
10. この学則は、平成24年（2012年）4月1日から施行する。
11. この学則は、平成26年（2014年）4月1日から施行する。
12. 平成25年（2013年）度以前の入学者については、改正後の学則第46条は適用せず、休学および留学中の授業料、施設設備費は、学期分の半額を納入するものとする。ただし、交換留学協定校への留学の場合には、当該大学との協定に定めるところとする。平成25年（2013年）度以前の入学者の休学および留学中の授業料、施設設備費に関する規則は別に定める。この措置は平成25年（2013年）度以前の入学者が在学しなくなるまで、存続するものとする。
13. この学則は、平成26年（2014年）4月16日から施行する。
14. この学則は、平成27年（2015年）4月1日から施行する。
15. この学則は、平成27年（2015年）7月24日から施行する。
16. この学則は、平成28年（2016年）4月1日から施行する。
17. この学則は、平成29年（2017年）4月1日から施行する。
18. この学則は、平成29年（2017年）10月1日から施行する。
19. この学則は、平成31年（2019年）4月1日から施行する。

## 津田塾大学学芸学部 授業科目および単位数に関する定め

津田塾大学学芸学部授業科目および単位数は、次のとおりとする。

### (1) 共通科目

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
哲学(1)	1	世界の文学（中国）(3)	1
哲学(3)	1	世界の文学（中国）(4)	1
哲学(4)	1	世界の文学（朝鮮）(1)	1
心理学(1)	1	世界の文学（朝鮮）(3)	1
心理学(3)	1	世界の文学（朝鮮）(4)	1
心理学(4)	1	日本文学（古典文学）(1)	1
宗教学(1)	1	日本文学（古典文学）(3)	1
宗教学(3)	1	日本文学（古典文学）(4)	1
宗教学(4)	1	日本文学（近現代文学）(1)	1
キリスト教概論(1)	1	日本文学（近現代文学）(3)	1
キリスト教概論(3)	1	日本文学（近現代文学）(4)	1
キリスト教概論(4)	1	ことばの世界	3
キリスト教史(1)	1	異文化理解とコミュニケーション	3
キリスト教史(3)	1	国語学(1)	1
キリスト教史(4)	1	国語学(3)	1
世界の文学（イギリス）	1	国語学(4)	1
世界の文学（アメリカ）	1	国語表現(1)	1
世界の文学（英語圏）	1	国語表現(3)	1
世界の文学（フランス）(1)	1	国語表現(4)	1
世界の文学（フランス）(3)	1	多文化社会と言語教育	2
世界の文学（フランス）(4)	1	美術	3
世界の文学（ドイツ）(1)	1	音楽	3
世界の文学（ドイツ）(3)	1	日本国憲法 a	1
世界の文学（ドイツ）(4)	1	日本国憲法 b	1
世界の文学（ロシア）(1)	1	法女性学	1
世界の文学（ロシア）(3)	1	法学	1
世界の文学（ロシア）(4)	1	政治学(1)	1
世界の文学（東欧）(1)	1	政治学(3)	1
世界の文学（東欧）(3)	1	政治学(4)	1
世界の文学（東欧）(4)	1	経済学(1)	1
世界の文学（北欧）(1)	1	経済学(3)	1
世界の文学（北欧）(3)	1	経済学(4)	1
世界の文学（北欧）(4)	1	世界史概説(1)	1
世界の文学（中国）(1)	1	世界史概説(3)	1

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
世界史概説(4)	1	女性学(3)	1
日本史概説(1)	1	女性学(4)	1
日本史概説(3)	1	平和研究	3
日本史概説(4)	1	津田梅子と建学の精神	1
社会心理学(1)	1	くらしと芸術	1
社会心理学(3)	1	日本語ボランティア入門	1
社会心理学(4)	1	グラフィックデザインリテラシー	1
文化人類学(1)	1	日本語ライティング(1)	1
文化人類学(3)	1	日本語ライティング(3)	1
文化人類学(4)	1	日本語ライティング(4)	1
社会学(1)	1	日本研究入門(1)	1
社会学(3)	1	日本研究入門(2)	1
社会学(4)	1	日本研究入門(3)	1
第三世界の思想と文化(1)	1	日本研究入門(4)	1
第三世界の思想と文化(3)	1	日本研究演習(1)	1
第三世界の思想と文化(4)	1	日本研究演習(2)	1
情報処理 I a	1	日本研究演習(3)	1
情報処理 I b	1	日本研究演習(4)	1
情報処理 II a	1	日本研究演習(英語)(1)	1
情報処理 II b	1	日本研究演習(英語)(2)	1
情報処理 II c	1	日本研究演習(英語)(3)	1
情報と社会(1)	1	日本研究演習(英語)(4)	1
情報と社会(3)	1		
情報と社会(4)	1		
くらしと地球環境	3		
物質と生命現象	3		
科学と人間(1)	1		
科学と人間(3)	1		
科学と人間(4)	1		
生物と人間	3		
精神分析学	1		
女性とメンタルヘルス	1		
青年期のメンタルヘルス	1		
ヒューマン・セクソロジー(1)	1		
ヒューマン・セクソロジー(3)	1		
ヒューマン・セクソロジー(4)	1		
総合	3		
女性学(1)	1		

## (2) 外国語科目

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
第 一 外 国 語	Extensive Reading I	1	第 二 外 国 語	フランス語Ⅳ(4)	1
	Intensive Reading I a	1		ドイツ語Ⅰ(文法)	3
	Intensive Reading I b	1		ドイツ語Ⅰ(演習)	3
	Reading Skills I	3		ドイツ語Ⅱ(講読)	3
	Oral English I	3		ドイツ語Ⅱ(演習)	3
	Composition I	3		ドイツ語Ⅲ(講読)(1)	1
	Pronunciation I	3		ドイツ語Ⅲ(講読)(3)	1
	Intensive Listening I	3		ドイツ語Ⅲ(講読)(4)	1
	Reading Skills II	3		ドイツ語Ⅲ(演習)(1)	1
	Oral English II	3		ドイツ語Ⅲ(演習)(3)	1
	Composition II	3		ドイツ語Ⅲ(演習)(4)	1
	Listening II	3		ドイツ語Ⅳ(1)	1
	Listening and Speaking II	3		ドイツ語Ⅳ(3)	1
	CS Reading Skills II	3		ドイツ語Ⅳ(4)	1
	CS Composition II	3		中国語Ⅰ(文法)	3
	CS Speaking and Listening II	3		中国語Ⅰ(演習)	3
	Oral English III	1		中国語Ⅱ(講読)	3
	MI Reading Skills II	3		中国語Ⅱ(演習)	3
	MI Oral English II	3		中国語Ⅲ(講読)(1)	1
	MI Composition II	3		中国語Ⅲ(講読)(3)	1
MI Listening II	3	中国語Ⅲ(講読)(4)	1		
Grammar II	3	中国語Ⅲ(演習)(1)	1		
Introduction to TOEFL	1	中国語Ⅲ(演習)(3)	1		
Introduction to IELTS	1	中国語Ⅲ(演習)(4)	1		
Oral English Fluency Development	1	中国語Ⅳ(1)	1		
Journeys in English	1	中国語Ⅳ(3)	1		
第 二 外 国 語	フランス語Ⅰ(文法)	3	中国語Ⅳ(4)	1	
	フランス語Ⅰ(演習)	3	ロシア語Ⅰ(文法)	3	
	フランス語Ⅱ(講読)	3	ロシア語Ⅰ(演習)	3	
	フランス語Ⅱ(演習)	3	ロシア語Ⅱ(講読)	3	
	フランス語Ⅲ(講読)(1)	1	ロシア語Ⅱ(演習)	3	
	フランス語Ⅲ(講読)(3)	1	ロシア語Ⅲ(講読)(1)	1	
	フランス語Ⅲ(講読)(4)	1	ロシア語Ⅲ(講読)(3)	1	
	フランス語Ⅲ(演習)(1)	1	ロシア語Ⅲ(講読)(4)	1	
	フランス語Ⅲ(演習)(3)	1	ロシア語Ⅲ(演習)(1)	1	
	フランス語Ⅲ(演習)(4)	1	ロシア語Ⅲ(演習)(3)	1	
	フランス語Ⅳ(1)	1	ロシア語Ⅲ(演習)(4)	1	
	フランス語Ⅳ(3)	1	ロシア語Ⅳ(1)	1	

授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位	
第	ロシア語Ⅳ(3)	1	第	日本語Ⅲ(1)	1	
	ロシア語Ⅳ(4)	1		日本語Ⅲ(3)	1	
	スペイン語Ⅰ(文法)	3		日本語Ⅲ(4)	1	
	スペイン語Ⅰ(演習)	3		日本語Ⅰ(特別演習)(読解・作文)	1	
	スペイン語Ⅱ(講読)	3		日本語Ⅰ(特別演習)(聴解・会話)	1	
	スペイン語Ⅱ(演習)	3		日本語Ⅱ(特別演習)(上級読解)	1	
	スペイン語Ⅲ(講読)(1)	1		日本語Ⅱ(特別演習)(上級作文)	1	
	スペイン語Ⅲ(講読)(3)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ(読解・作文)(1)	1	
	スペイン語Ⅲ(講読)(4)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ(読解・作文)(2)	1	
	スペイン語Ⅲ(演習)(1)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ(読解・作文)(3)	1	
	スペイン語Ⅲ(演習)(3)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ(読解・作文)(4)	1	
	スペイン語Ⅲ(演習)(4)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ(聴解・会話)(1)	1	
二	スペイン語Ⅳ(1)	1	二	交換留学生のための日本語Ⅰ(聴解・会話)(2)	1	
	スペイン語Ⅳ(3)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ(聴解・会話)(3)	1	
	スペイン語Ⅳ(4)	1		交換留学生のための日本語Ⅰ(聴解・会話)(4)	1	
	韓国・朝鮮語Ⅰ(文法)	3		交換留学生のための日本語Ⅱ(上級読解)(1)	1	
	韓国・朝鮮語Ⅰ(演習)	3		交換留学生のための日本語Ⅱ(上級読解)(2)	1	
	韓国・朝鮮語Ⅱ(講読)	3		交換留学生のための日本語Ⅱ(上級読解)(3)	1	
	韓国・朝鮮語Ⅱ(演習)	3		交換留学生のための日本語Ⅱ(上級読解)(4)	1	
	韓国・朝鮮語Ⅲ(講読)(1)	1		交換留学生のための日本語Ⅱ(上級作文)(1)	1	
	韓国・朝鮮語Ⅲ(講読)(3)	1		交換留学生のための日本語Ⅱ(上級作文)(2)	1	
	韓国・朝鮮語Ⅲ(講読)(4)	1		交換留学生のための日本語Ⅱ(上級作文)(3)	1	
	韓国・朝鮮語Ⅲ(演習)(1)	1		交換留学生のための日本語Ⅱ(上級作文)(4)	1	
	韓国・朝鮮語Ⅲ(演習)(3)	1		国	日本語指導A a (1)	1
韓国・朝鮮語Ⅲ(演習)(4)	1	日本語指導A a (2)	1			
韓国・朝鮮語Ⅳ(1)	1	日本語指導A a (3)	1			
韓国・朝鮮語Ⅳ(3)	1	日本語指導A a (4)	1			
語	韓国・朝鮮語Ⅳ(4)	1	語		日本語指導A b (1)	1
	フランス語(特別演習)	1			日本語指導A b (2)	1
	ドイツ語(特別演習)	1			日本語指導A b (3)	1
	中国語(特別演習)	1			日本語指導A b (4)	1
	ロシア語(特別演習)	1			日本語指導B a (1)	1
	スペイン語(特別演習)	1			日本語指導B a (2)	1
	韓国・朝鮮語(特別演習)	1			日本語指導B a (3)	1
	日本語Ⅰ(読解・作文)	3			日本語指導B a (4)	1
	日本語Ⅰ(聴解・会話)	3		日本語指導B b (1)	1	
	日本語Ⅱ(上級読解)	3		日本語指導B b (2)	1	
	日本語Ⅱ(上級作文)	3		日本語指導B b (3)	1	

	授 業 科 目	単 位
第 二 外 国 語	日本語指導B b (4)	1
	日本語指導C (1)	1
	日本語指導C (2)	1
	日本語指導C (3)	1
	日本語指導C (4)	1

## (3) 健康余暇科学科目

	授 業 科 目	単 位
	動きの教育	1
	健康教育	1
余暇教育	余暇教育 (レク活動とグループワーク)	0.5
	余暇教育 (スポーツと身体スキル)	0.5
	余暇教育 (フィットネスと健康)	0.5
ウェルネス研究	ウェルネス研究 (スポーツ心理学)	1
	ウェルネス研究 (人間関係論)	1
	ウェルネス研究 (野外教育)	1
	ウェルネス研究 (世界の身体文化表現論)	1
	ウェルネス研究 (カウンセリングの基礎)	1
	ウェルネス研究 (健康心理学)	1
	ウェルネス研究 (武道身体文化論)	1
	ウェルネス研究 (スポーツ・ジェンダー論)	1
ウェルネス研究 (女性の健康とキャリア)	1	



## (4) 英語英文学科

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
必修科目	基礎セミナー	3	基 幹 科 目	言語とコミュニケーション	3
	英語英文学科での学び	1		異文化コミュニケーション理論	3
	Literary Reading I	3		第二言語習得概論 (英語教育)	3
	Literary Reading II	3		Japan Studies in English (Introduction)	1
	Academic Reading II	3		Media Literacy	1
	Academic Writing II	3		Creative Drama	1
	Oral English II	3		翻訳・通訳特別講義	1
	Academic Listening II	3		英語英文学科特別講義 (英語)	1
	Grammar II	3		イギリス文学特殊講義 (詩)	1
	3年セミナー	3		イギリス文学特殊講義 (小説)	1
	Academic Writing & Presentation III	3		イギリス文学特殊講義 (演劇)	1
	4年セミナー	3		アメリカ演劇特殊講義	3
	卒論指導	3		グローバル文学 (英語) 特殊講義	1
	卒業研究プロジェクト (*注1)	3		アメリカ文学特殊講義	3
	卒業論文 (*注2)	6		アメリカ小説 a	1
	卒業研究 (*注1) (*注2)	6		アメリカ小説 b	1
第一外国語	Extensive Reading I	1	発 展 科 目	アメリカ小説 c	1
	Intensive Reading I a	1		文学批評	2
	Intensive Reading I b	1		イギリス研究特殊講義 a	1
	Oral English I	3		イギリス研究特殊講義 b	1
	Composition I	3		Contemporary British Society and Culture a	1
	Pronunciation I	3		Contemporary British Society and Culture b	1
第二外国語	第二外国語 I	各3		イギリス社会史 a	1
	第二外国語 II	各3		イギリス社会史 b	1
基 幹 科 目	イギリス文学史	3		イギリス文化史 a	1
	アメリカ文学史	3		イギリス文化史 b	1
	イギリス文学概論 (詩・演劇・小説)	3		グローバルヒストリーのなかのイギリス	1
	Bible Studies	3		アメリカ文化 a	3
	イギリス文化概論	3	アメリカ文化 b	3	
	アメリカ文化概論	3	アメリカ文化 c	3	
	文章講座 a (翻訳)	1	American Studies a	1	
	文章講座 b (Creative Writing)	1	American Studies b	1	
	文章講座 c (ジャーナリズム)	1	American Studies c	1	
	英語学概論	3	中・古英語	2	
	英語史	3	形態論	2	
	社会言語学	3	文法論	3	
	コミュニケーション概論	3	意味・語用論	2	
	Cultural Representation in Media	1	音韻論	2	

授 業 科 目		単 位		授 業 科 目	単 位
発 展 科 目	日英語の比較	2	日 本 語 教 員 養 成 課 程	日本語教授法	3
	音声学	3		日本語教材・教具論	3
	英語学特殊講義 a	1		日本語教授法演習	3
	英語学特殊講義 b	1		日本語学概論	3
	Oral Communication	3		日本語文法概論	3
	Japan Studies in English (Lecture)	3		日本語学特殊講義 1	2
	認知科学と言語教育	3		日本語学特殊講義 2	1
	ギリシャ語・ラテン語演習 a	3		対照言語学 1	2
	ギリシャ語・ラテン語演習 b	3		対照言語学 2	1
	初等英語教育研究	3		第二言語習得論 (日本語教育)	2
	Journalistic English	1	特 設 プ ロ ゲ ラ ム	(翻訳)	
	Film Reviewing	1		翻訳入門 a	1
	Public Speaking	1		翻訳入門 b	1
	Debate	1		翻訳入門 c	1
	Japan Studies in English (Project)	1		翻訳の理論と実践	3
	アメリカ政治(1)	1		翻訳の世界	3
	アメリカ政治(3)	1		(通訳)	
	アメリカ政治(4)	1		通訳入門 a	1
	アメリカ経済 (アメリカ経済史) (1)	1		通訳入門 b	1
	アメリカ経済 (現代アメリカ経済論) (3)	1		通訳入門 c	1
	アメリカ経済 (現代アメリカ経済論) (4)	1	通訳の理論と実践	3	
	イギリス経済(1)	1	通訳の世界	3	
	イギリス経済(3)	1	(Teachers of Excellence)		
	イギリス経済(4)	1	The Practice of Teaching Oral English	1	
	イギリス社会(1)	1	自 由 科 目	英語英文学科特設講義	1
	イギリス社会(3)	1		語学研修 (英語)	2
	イギリス社会(4)	1		ポキャブラリー演習	1
	イギリス史(1)	1		コロナ禍に立ち向かう世界 a	1
	イギリス史(3)	1		コロナ禍に立ち向かう世界 b	1
	イギリス史(4)	1		英語科指導法 I	3
	多文化共生論(1)	1		英語科指導法 II	3
	多文化共生論(3)	1		英語科指導とICT活用	2
多文化共生論(4)	1				
Diaspora Studies	1				
演劇と教育	2				
言語教育とジェンダー	1				
言語政策	1				
マルチリンガリズム	1				

## (5) 国際関係学科

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
必 修 科 目	1年セミナー	3	基 幹 科 目	国際経済論(3)	1
	原書講読(2年セミナー)	3		国際経済論(4)	1
	3年セミナー	3		開発経済学(1)	1
	4年セミナー	3		開発経済学(3)	1
	卒業論文	6		開発経済学(4)	1
	Extensive Reading I	1		比較政治論(1)	1
	Intensive Reading I a	1		比較政治論(3)	1
	Intensive Reading I b	1		比較政治論(4)	1
	Oral English I	3		比較教育論(1)	1
	Composition I	3		比較教育論(3)	1
	Pronunciation I	3		比較教育論(4)	1
	Reading Skills II	3		国際関係史(1)	1
	Oral English II	3		国際関係史(3)	1
	Composition II	3		国際関係史(4)	1
	Listening II	3		社会思想史(1)	1
	English III (Lecture) (1)	1		社会思想史(3)	1
	English III (Lecture) (3)	1		社会思想史(4)	1
	English III (Lecture) (4)	1		現代文化論(1)	1
	English III (Practice)	3		現代文化論(3)	1
	第二外国語 I	各3		現代文化論(4)	1
第二外国語 II	各3	言語思想論(1)	1		
第二外国語 III	各1	言語思想論(3)	1		
国際関係概論(1)	1	言語思想論(4)	1		
国際関係概論(3)	1	翻訳文化論	1		
国際関係概論(4)	1	越境文学論	1		
地域研究序説(1)	1	文学論特論	1		
地域研究序説(3)	1	日本研究 (Japanese Society) (1)	1		
文化研究序説	1	日本研究 (Japanese Society) (3)	1		
基 幹 科 目	国際政治論(1)	1	日本研究 (Japanese Society) (4)	1	
	国際政治論(3)	1	アメリカ政治(1)	1	
	国際政治論(4)	1	アメリカ政治(3)	1	
	国際機構論(1)	1	アメリカ政治(4)	1	
	国際機構論(3)	1	アメリカ経済 (アメリカ経済史) (1)	1	
	国際機構論(4)	1	アメリカ経済 (現代アメリカ経済論) (3)	1	
	国際法(1)	1	アメリカ経済 (現代アメリカ経済論) (4)	1	
	国際法(3)	1	アメリカ社会(1)	1	
	国際法(4)	1	アメリカ社会(3)	1	
	国際経済論(1)	1	アメリカ社会(4)	1	

授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位
地	アメリカ文化 a	3	地	南アジア研究(3)	1
	アメリカ文化 b	3		南アジア研究(4)	1
	アメリカ文化 c	3		オーストラリア研究(1)	1
	EU研究(1)	1		オーストラリア研究(3)	1
	EU研究(4)	1		オーストラリア研究(4)	1
	ヨーロッパ政治(1)	1		東アジア研究(韓国現代史)	1
	ヨーロッパ政治(4)	1		東アジア研究(北朝鮮特論)	1
	ヨーロッパ経済(イギリス)(1)	1		東アジア研究(朝鮮半島の国際政治)	1
	ヨーロッパ経済(イギリス)(3)	1		東アジア研究(現代韓国特論)	1
	ヨーロッパ経済(イギリス)(4)	1		東アジア研究(中国現代史)	1
域	ヨーロッパ社会(民族と言語)(3)	1	域	東アジア研究(中国・香港・台湾特論)	1
	ヨーロッパ社会(民族と言語)(4)	1		東アジア研究(中国の国際政治)	1
	ヨーロッパ社会(イギリス)(1)	1		東アジア研究(現代中国特論)	1
	ヨーロッパ社会(イギリス)(3)	1		東アジア研究(現代中国社会論)	1
	ヨーロッパ社会(イギリス)(4)	1		東アジア研究(現代中国経済論)	1
	ヨーロッパ社会(イギリス史)(1)	1		東南アジア研究(大陸部)(1)	1
	ヨーロッパ社会(イギリス史)(3)	1		東南アジア研究(大陸部)(3)	1
	ヨーロッパ文化(イギリス)(1)	1		東南アジア研究(大陸部)(4)	1
	ヨーロッパ文化(イギリス)(4)	1		東南アジア研究(島嶼部)(1)	1
	ヨーロッパ文化(フランス)(1)	1		東南アジア研究(島嶼部)(3)	1
展	ヨーロッパ文化(フランス)(3)	1	展	東南アジア研究(島嶼部)(4)	1
	ヨーロッパ文化(フランス)(4)	1		東南アジア研究(現代東南アジア特論)(1)	1
	ヨーロッパ文化(ドイツ)(1)	1		東南アジア研究(現代東南アジア特論)(3)	1
	ヨーロッパ文化(ドイツ)(3)	1		東南アジア研究(現代東南アジア特論)(4)	1
	ヨーロッパ文化(ドイツ)(4)	1		日本研究(沖縄研究)(1)	1
	ヨーロッパ文化(スペイン)(1)	1		日本研究(沖縄研究)(3)	1
	ヨーロッパ文化(スペイン)(3)	1		日本研究(沖縄研究)(4)	1
	ヨーロッパ文化(スペイン)(4)	1		日本研究(日本と台湾の近現代関係史)	1
	東欧研究(1)	1		日本研究(日本と朝鮮半島の近現代関係史)	1
	東欧研究(3)	1		日本研究(少数者の日本近現代史)	1
開	東欧研究(4)	1	開	日本研究(古典文学)(1)	1
	ユーラシア研究(1)	1		日本研究(古典文学)(3)	1
	ユーラシア研究(3)	1		日本研究(古典文学)(4)	1
	ユーラシア研究(4)	1		日本研究(近現代文学)(1)	1
	西アジア研究(1)	1		日本研究(近現代文学)(3)	1
	西アジア研究(3)	1		日本研究(近現代文学)(4)	1
	西アジア研究(4)	1		イスラーム概論	1
	南アジア研究(1)	1		イスラーム地域研究入門	1

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
地 域 展 開 科 目	イスラーム地域研究特論	1	地 域 展 開 科 目	社会調査法入門(1)	1
	アジア交流史	1		社会調査法入門(3)	1
	日本・アジアの文化研究(1)	1		社会調査法入門(4)	1
	日本・アジアの文化研究(3)	1		福祉社会学	1
	日本・アジアの文化研究(4)	1		家族社会学	1
	イギリス史(1)	1		ソーシャル・インクルージョン論	1
	イギリス史(3)	1		国際日本文化論(1)	1
	イギリス史(4)	1		国際日本文化論(3)	1
	イギリス文化概論	3		国際日本文化論(4)	1
	アメリカ文化概論	3		人文地理学(1)	1
	イギリス文学概論(詩・演劇・小説)	3		人文地理学(3)	1
	イギリス文学史	3		人文地理学(4)	1
	アメリカ文学史	3		自然地理学(1)	1
	地域研究特論	1		自然地理学(3)	1
	ラテンアメリカ研究	1		自然地理学(4)	1
	アフリカ研究	1		地誌(1)	1
	教養としての外国語	1		地誌(3)	1
	国際機構特論	2		地誌(4)	1
	国際金融論(1)	1		政治思想史(1)	1
	国際金融論(3)	1		政治思想史(3)	1
国際金融論(4)	1	政治思想史(4)	1		
国際貿易論(1)	1	エビデンス・ベースド・ポリシー入門	1		
国際貿易論(3)	1	Oral English III(1)	1		
国際貿易論(4)	1	Oral English III(3)	1		
国際経営論(1)	1	Composition III(1)	1		
国際経営論(3)	1	Composition III(3)	1		
国際経営論(4)	1	英語学概論	3		
グローバリゼーション論(1)	1	英語史	3		
グローバリゼーション論(3)	1	音声学	3		
グローバリゼーション論(4)	1	第二言語習得概論(英語教育)	3		
現代日本政治経済論(1)	1	Grammar II	3		
現代日本政治経済論(3)	1	Intercultural Understanding (Japan and the World)	1		
現代日本政治経済論(4)	1	哲学研究(1)	1		
情報社会論(1)	1	哲学研究(3)	1		
情報社会論(3)	1	哲学研究(4)	1		
憲法(1)	1	宗教学研究(1)	1		
憲法(3)	1	宗教学研究(3)	1		
憲法(4)	1	宗教学研究(4)	1		

	授 業 科 目	単 位
地 域 ・ 展 開 科 目	法学研究	1
	政治学研究(1)	1
	政治学研究(3)	1
	政治学研究(4)	1
	経済学研究(1)	1
	経済学研究(3)	1
	経済学研究(4)	1
	世界史研究(1)	1
	世界史研究(3)	1
	世界史研究(4)	1
	日本史概論(1)	1
	日本史概論(3)	1
	日本史概論(4)	1
	社会学研究(1)	1
	社会学研究(3)	1
	社会学研究(4)	1
自 由 科 目	世界芸術としての文学・映画・芸能	1
	福祉ボランティア実習	1
	新聞が読める国際経済入門	1
	国際協力キャリア入門	1
	経済数学の基礎	1
	手話と点字の世界	1
	英語科指導法Ⅰ	3
	英語科指導法Ⅱ	3
	英語科指導とICT活用	2
	社会科・地理歴史科指導法Ⅰ	2
	社会科・地理歴史科指導法Ⅱ	2
社会科・公民科指導法Ⅰ	2	
社会科・公民科指導法Ⅱ	2	

## (6) 多文化・国際協力量科

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
必 修 科 目	1年基礎セミナー	3	基 幹 科 目	国際保健論(4)	1
	多文化・国際協力の学び(1)	1		国際社会学(1)	1
	多文化・国際協力の学び(3)	1		国際社会学(3)	1
	多文化・国際協力の学び(4)	1		国際社会学(4)	1
	国際関係概論(1)	1		国際人口論(1)	1
	地域研究入門(3)	1		国際人口論(3)	1
	地域研究入門(4)	1		国際人口論(4)	1
	Extensive Reading I	1		文化とジェンダー(1)	1
	Intensive Reading I a	1		文化とジェンダー(3)	1
	Intensive Reading I b	1		文化とジェンダー(4)	1
	Oral English I	3		イギリス文学史	3
	Composition I	3		アメリカ文学史	3
	Pronunciation I	3		英語学概論	3
	2年セミナー(ラウンドテーブル)	3		英語史	3
	社会調査法(1)	1		社会言語学	3
	社会調査法(3)	1		コミュニケーション概論	3
	社会調査法(4)	1		第二言語習得概論(英語教育)	3
	MI Reading Skills II	3		Japan Studies in English(Introduction)	1
	MI Oral English II	3		言語とコミュニケーション	3
	MI Composition II	3		異文化コミュニケーション理論	3
MI Listening II	3	Journeys in English	1		
3年セミナー(1)	1	国際政治論(1)	1		
3年セミナー(3)	1	国際政治論(3)	1		
3年セミナー(4)	1	国際政治論(4)	1		
MI Presentation & Academic Writing	3	国際機構論(1)	1		
4年セミナー	3	国際機構論(3)	1		
フィールドワーク報告卒業論文	6	国際機構論(4)	1		
第 二 外 国 語	第二外国語 I	各3	国際法(1)	1	
	第二外国語 II	各3	国際法(3)	1	
	第二外国語 III	各1	国際法(4)	1	
基 幹 科 目	国際協力論(1)	1	国際経済論(1)	1	
	国際協力論(3)	1	国際経済論(3)	1	
	国際協力論(4)	1	国際経済論(4)	1	
	多文化共生論(1)	1	開発経済学(1)	1	
	多文化共生論(3)	1	開発経済学(3)	1	
	多文化共生論(4)	1	開発経済学(4)	1	
	国際保健論(1)	1	比較政治論(1)	1	
	国際保健論(3)	1	比較政治論(3)	1	

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
基 幹 科 目	比較政治論(4)	1		NPO-NGO論	1
	社会思想史(1)	1		国際交流論	1
	社会思想史(3)	1		開発と文化	1
	社会思想史(4)	1		貧困問題	1
	現代文化論(1)	1		紛争と平和	1
	現代文化論(3)	1		災害と復興	1
	現代文化論(4)	1		環境問題	1
	言語思想論(1)	1		世界の健康科学	1
	言語思想論(3)	1		国際ウェルネス	1
	言語思想論(4)	1		食と環境	1
	Grammar II	3		市民社会と健康	1
発 展 科 目	社会調査法特講	1	発 展 科 目	民俗学	1
	多文化・国際協力の実践(1)	1		医療人類学	1
	多文化・国際協力の実践(3)	1		国際関係の中の子ども	1
	多文化・国際協力の実践(4)	1		ジェンダーと健康	1
	Global Southとフィールドワーク (アジア・アフリカ・ラテンアメリカ) a (1)	1		グローバル文学(英語) 特殊講義	1
	Global Southとフィールドワーク (アジア・アフリカ・ラテンアメリカ) a (3)	1		Contemporary British Society and Culture a	1
	Global Southとフィールドワーク (アジア・アフリカ・ラテンアメリカ) a (4)	1		Contemporary British Society and Culture b	1
	Global Southとフィールドワーク (アジア・アフリカ・ラテンアメリカ) b (1)	1		グローバルヒストリーのなかのイギリス	1
	Global Southとフィールドワーク (アジア・アフリカ・ラテンアメリカ) b (3)	1		文法論	3
	Global Southとフィールドワーク (アジア・アフリカ・ラテンアメリカ) b (4)	1		対照言語学1	2
	多文化社会とフィールドワーク (1)	1		認知科学と言語教育	3
	多文化社会とフィールドワーク (3)	1		Debate	1
	多文化社会とフィールドワーク (4)	1		音声学	3
	デベロプメント・スタディーズ	1		Diaspora Studies	1
	フィールドワークの実践 a	1		アメリカ政治(1)	1
	フィールドワークの実践 b	1		アメリカ政治(3)	1
	フィールドワークの実践 c	1		アメリカ政治(4)	1
	移民研究	1		アメリカ社会(1)	1
	国際移動論	1		アメリカ社会(3)	1
	マルチリンガリズム	1		アメリカ社会(4)	1
言語政策	1	ヨーロッパ社会(イギリス) (1)	1		
言語教育とジェンダー	1	ヨーロッパ社会(イギリス) (3)	1		
マイノリティ論	1	ヨーロッパ社会(イギリス) (4)	1		
先住民論	1	ヨーロッパ社会(イギリス史) (1)	1		
グローバリゼーションと文化	1	ヨーロッパ社会(イギリス史) (3)	1		
国際ボランティア論	1	ヨーロッパ文化(イギリス) (1)	1		
国際援助論	1	ヨーロッパ文化(イギリス) (4)	1		



	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
発 展 科 目	ヨーロッパ文化(フランス) (1)	1	発 展 科 目	Oral English III (1)	1
	ヨーロッパ文化(フランス) (3)	1		Oral English III (3)	1
	ヨーロッパ文化(フランス) (4)	1		Composition III (1)	1
	ヨーロッパ文化(ドイツ) (1)	1		Composition III (3)	1
	ヨーロッパ文化(ドイツ) (3)	1	自 由 科 目	ジャーナリズムと文学－水俣と石牟礼道子から考える	1
	ヨーロッパ文化(ドイツ) (4)	1		フィールドワーク言語 a	1
	ヨーロッパ文化(スペイン) (1)	1		フィールドワーク言語 b	1
	ヨーロッパ文化(スペイン) (3)	1		オンラインによる Lecture on Latin American Society	1
	ヨーロッパ文化(スペイン) (4)	1		舞台芸術/伝統芸能の国際化－新型コロナの時代を例として－	1
	東欧研究(1)	1			
	東欧研究(3)	1			
	東欧研究(4)	1			
	オーストラリア研究(1)	1			
	オーストラリア研究(3)	1			
	オーストラリア研究(4)	1			
	東アジア研究 (韓国現代史)	1			
	東アジア研究 (北朝鮮特論)	1			
	東アジア研究 (朝鮮半島の国際政治)	1			
	東アジア研究 (中国現代史)	1			
	東アジア研究 (中国・香港・台湾特論)	1			
	東アジア研究 (中国の国際政治)	1			
	日本研究 (日本と台湾の近現代関係史)	1			
	日本研究 (日本と朝鮮半島の近現代関係史)	1			
	日本研究 (少数者の日本近現代史)	1			
	日本研究 (Japanese Society) (1)	1			
	日本研究 (Japanese Society) (3)	1			
	日本研究 (Japanese Society) (4)	1			
	イスラーム概論	1			
	イスラーム地域研究入門	1			
	イスラーム地域研究特論	1			
	イギリス史(1)	1			
	イギリス史(3)	1			
イギリス史(4)	1				
情報社会論(1)	1				
情報社会論(3)	1				
人文地理学(1)	1				
人文地理学(3)	1				
人文地理学(4)	1				

## (7) 数学科

授 業 科 目		単 位		授 業 科 目	単 位
必 修 科 目	1年セミナー	1	選 択 科 目	関数解析(演習付)	4
	解析学基礎Ⅰ(演習付)	6		ルベーグ積分(演習付)	3
	数学序論(演習付)	2		測度論的確率論(演習付)	3
	線形代数学Ⅰ(演習付)	4		論理と計算機科学	3
	計算機数学(演習付)	2		計算論	3
	プログラミング入門(演習付)	2		暗号と情報	3
	Reading SkillsⅠ	3		情報システム入門	2
	Oral EnglishⅠ	3		情報通信ネットワーク入門	1
	CompositionⅠ	3		数式図形画像処理入門	1
	PronunciationⅠ	3		最適化入門	1
	2年セミナー	3		コンピュータシミュレーション	3
	解析学基礎Ⅱ(演習付)	6		データベース入門	1
	線形代数学Ⅱ(演習付)	6		数学特別講義A(1)	1
	Listening and SpeakingⅡ	3		数学特別講義A(3)	1
	3年セミナー	3		数学特別講義A(4)	1
	4年セミナー	6		数学特別講義B(1)	1
選 択 科 目	情報処理	2	数学特別講義B(3)	1	
	数学基礎a(演習付)	1	数学特別講義B(4)	1	
	数学基礎b(演習付)	1	数学特別講義C(1)	1	
	ベクトルと行列	1	数学特別講義C(3)	1	
	情報と社会(1)	1	数学特別講義C(4)	1	
	情報と社会(3)	1	数学特別講義D(1)	1	
	情報と社会(4)	1	数学特別講義D(3)	1	
	メディア処理とモデリング入門	1	数学特別講義D(4)	1	
	アルゴリズム入門	2	数学特別講義E	1	
	代数学基礎(演習付)	2	代数学特論	4	
	代数入門(演習付)	4	幾何学特論	4	
	幾何学入門(演習付)	2	解析学特論	4	
	位相入門(演習付)	4	応用数学特論	4	
	数値解析入門(演習付)	6	数学特論XA	2	
	確率統計入門(3)	1	数学特論XB	2	
	確率統計入門(4)	1	数学特論XC	2	
	数値計算法	2	数学特論XD	2	
	情報と職業	1	数学特論XE	2	
	代数学(演習付)	6	数学特論XF	2	
	幾何学A(演習付)	6	数学特論XG	2	
幾何学B	3	数学科指導法Ⅰ	3		
複素解析学(演習付)	6	数学科指導法Ⅱ	3		

	授 業 科 目	単 位
自由科目	数学科指導とICT活用	2
	情報科指導法	3
	情報科指導とICT活用	1

(8) 情報科学科

授 業 科 目		単 位		授 業 科 目	単 位
必 修 科 目	1年セミナー	2	選 択 必 修 科 目	情報セキュリティ (演習付)	2
	プログラミング I (演習付) (1)	2		ソフトウェア開発法 (演習付)	2
	プログラミング I (演習付) (3)	2		情報科学英語 a	1
	プログラミング I (演習付) (4)	2		情報科学英語 b	1
	コンピュータリテラシー a	1		情報科学英語 c	1
	コンピュータリテラシー b	1		情報科学英語 d	1
	情報表現(3)	1		情報科学英語 e	1
	情報表現(4)	1		情報科学英語 f	1
	情報数学基礎 (演習付)	2	選 択 科 目	Reading and Listening for Proficiency Tests a	1
	微分積分 (演習付) (3)	2		Reading and Listening for Proficiency Tests b(1)	1
	微分積分 (演習付) (4)	2		Reading and Listening for Proficiency Tests b(3)	1
	Oral English I	3		Reading and Listening for Proficiency Tests b(4)	1
	Composition I	3		Webテクノロジー a	1
	Pronunciation I	3		Webテクノロジー b	1
	Reading Skills I	3		コンテンツデザイン	1
	2年セミナー	1		映像コンテンツ制作	1
	2年プロジェクト	2		コンピュータ概論 I	1
	プログラミング II (演習付) (1)	2		コンピュータ概論 II	1
	プログラミング II (演習付) (3)	2		インタラクティブシステム	1
	アルゴリズム a (演習付)	2		コンピュータグラフィックス a	1
	アルゴリズム b (演習付)	2		コンピュータグラフィックス b	1
	線形代数 (演習付) (1)	2		アプリケーションデザイン	1
	線形代数 (演習付) (3)	2		センサー入門	1
	確率統計 (演習付)	2		テクニカルライティング	1
	CS Reading Skills II	3		ビジネスコミュニケーション	1
	CS Speaking and Listening II	3		デジタルメディア概論	1
	CS Composition II	3		情報セキュリティ入門	1
	3年セミナー	1		数理ファイナンス	1
3年プロジェクト	2	暗号理論	1		
4年セミナー/プロジェクト	5	プログラミング言語論	1		
卒業論文	4	知的財産概論	1		
選 択 必 修 科 目	アルゴリズム c (演習付)	2	社会情報システム	1	
	マルチメディア (演習付)	2	自然言語処理	1	
	データサイエンス (演習付)	2	データベース入門	1	
	ネットワークシステム (演習付)	2	コンピュータアーキテクチャ	1	
	システム運用 (演習付)	2	オペレーティングシステム	1	
	人工知能・機械学習 (演習付)	2	センサーネットワーク	1	
	数理モデル (演習付)	2	情報科学 a	1	

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
選 択 科 目	情報科学 b	1	自 由 科 目	プログラミング基礎講座 c	1
	情報科学 c	1		教育メディア a	2
	情報科学 d	1		教育メディア b	2
	情報科学 e	1		教育コンテンツ制作	1
	情報科学 f	1		メディア概論 a	1
	情報科学特論 a	2		メディア概論 b	1
	情報科学特論 b	2		ソーシャルコンテンツ制作	1
	情報科学特論 c	2		地理情報システム入門	1
	情報科学特論 d	2		ネット時代の広告とマーケティング論	1
	情報科学特論 e	2		災害情報学入門	1
	情報科学特論 f	2		データリテラシー a	1
	情報科学特論 g	2		データリテラシー b	1
	情報科学特論 h	2		ITコンテンツ制作	1
	大学数学入門 a	1		ネットワーク概論	1
	大学数学入門 b	1		コンテンツビジネス論	1
	離散数学 a	1		コンテンツ保護とセキュリティ	1
	離散数学 b	1		教育メディアワークショップ	1
	離散数学 c	1		メディアコミュニケーションワークショップ	1
	情報数学 a	1		デジタルエンターテインメントワークショップ	1
	情報数学 b	1		数学科指導法 I	3
情報数学 c	1	数学科指導法 II	3		
情報数学 d	1	数学科指導とICT活用	2		
情報数学 e	1	情報科指導法	3		
情報数学 f	1	情報科指導とICT活用	1		
目	情報数学特論 a	2			
	情報数学特論 b	2			
	情報数学特論 c	2			
	情報数学特論 d	2			
	情報数学特論 e	2			
	情報数学特論 f	2			
	情報数学特論 g	2			
	情報数学特論 h	2			
	情報と社会(1)	1			
	情報と社会(3)	1			
情報と社会(4)	1				
情報と職業	1				
自由 科目	プログラミング基礎講座 a	1			
	プログラミング基礎講座 b	1			

(9) 多文化・国際協力コース

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
英語英文学科 (必修科目)	基礎セミナー	3	基本 科目 a	国際関係概論(4)	1
	英語英文学科での学び	1		地域研究序説(1)	1
	Literary Reading I	3		地域研究序説(3)	1
国際関係学科 (必修科目)	1年セミナー	3		文化研究序説	1
	原書講読(2年セミナー)	3		社会調査法特講	1
必修 科目 (共通)	Extensive Reading I	1	a	日本語ボランティア入門	1
	Intensive Reading I a	1	基 本 科 目 b	哲学(1)	1
	Intensive Reading I b	1		哲学(3)	1
	Oral English I	3		哲学(4)	1
	Composition I	3		心理学(1)	1
	Pronunciation I	3		心理学(3)	1
	社会調査法(1)	1		心理学(4)	1
	社会調査法(3)	1		キリスト教概論(1)	1
	社会調査法(4)	1		キリスト教概論(3)	1
	ラウンドテーブル(1)	1		キリスト教概論(4)	1
	ラウンドテーブル(3)	1		世界の文学(イギリス)	1
	ラウンドテーブル(4)	1		世界の文学(アメリカ)	1
	MI Reading Skills II	3		世界の文学(英語圏)	1
	MI Oral English II	3		世界の文学(フランス)(1)	1
	MI Composition II	3		世界の文学(フランス)(3)	1
	MI Listening II	3		世界の文学(フランス)(4)	1
	MI 3年セミナー	3		世界の文学(ドイツ)(1)	1
	MI Presentation and Academic Writing	3		世界の文学(ドイツ)(3)	1
MI 4年セミナー	3	世界の文学(ドイツ)(4)		1	
フィールドワーク報告卒業論文	6	世界の文学(ロシア)(1)	1		
外国語 (地域言語)	第二外国語 I	各3	目 b	世界の文学(ロシア)(3)	1
	第二外国語 II	各3		世界の文学(ロシア)(4)	1
	Academic Writing & Presentation III	3		世界の文学(東欧)(1)	1
	English III (Lecture) (1)	1		世界の文学(東欧)(3)	1
	English III (Lecture) (3)	1		世界の文学(東欧)(4)	1
	English III (Lecture) (4)	1		世界の文学(北欧)(1)	1
	English III (Practice)	3		世界の文学(北欧)(3)	1
	第二外国語 III	各1		世界の文学(北欧)(4)	1
	第二外国語 IV	各1		世界の文学(中国)(1)	1
基本 科目 a	多文化社会と言語教育	2	世界の文学(中国)(3)	1	
	異文化理解とコミュニケーション	3	世界の文学(中国)(4)	1	
	国際関係概論(1)	1	世界の文学(朝鮮)(1)	1	
	国際関係概論(3)	1	世界の文学(朝鮮)(3)	1	

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
基 本 科 目	世界の文学(朝鮮)(4)	1	基 本 科 目	社会学(4)	1
	日本文学(古典文学)(1)	1		第三世界の思想と文化(1)	1
	日本文学(古典文学)(3)	1		第三世界の思想と文化(3)	1
	日本文学(古典文学)(4)	1		第三世界の思想と文化(4)	1
	日本文学(近現代文学)(1)	1		情報と社会(1)	1
	日本文学(近現代文学)(3)	1		情報と社会(3)	1
	日本文学(近現代文学)(4)	1		情報と社会(4)	1
	ことばの世界	3		くらしと地球環境	3
	国語学(1)	1		科学と人間(1)	1
	国語学(3)	1		科学と人間(3)	1
	国語学(4)	1		科学と人間(4)	1
	国語表現(1)	1		生物と人間	3
	国語表現(3)	1		女性とメンタルヘルス	1
	国語表現(4)	1		青年期のメンタルヘルス	1
	日本国憲法 a	1	日本研究演習(英語)(1)	1	
	日本国憲法 b	1	日本研究演習(英語)(3)	1	
	法女性学	1	日本研究演習(英語)(4)	1	
	法学	1	人文地理学(1)	1	
	政治学(1)	1	人文地理学(3)	1	
	政治学(3)	1	人文地理学(4)	1	
	政治学(4)	1	自然地理学(1)	1	
	経済学(1)	1	自然地理学(3)	1	
	経済学(3)	1	自然地理学(4)	1	
	経済学(4)	1	多文化共生論(3)	1	
	世界史概説(1)	1	多文化共生論(4)	1	
	世界史概説(3)	1	第二言語習得概論(英語教育)	3	
	世界史概説(4)	1	第二言語習得論(日本語教育)	2	
	日本史概説(1)	1	異文化コミュニケーション理論	3	
日本史概説(3)	1	国際交流論	1		
日本史概説(4)	1	世界の健康科学(3)	1		
社会心理学(1)	1	世界の健康科学(4)	1		
社会心理学(3)	1	世界の健康科学	1		
社会心理学(4)	1	国際ボランティア論	1		
文化人類学(1)	1	国際移動論	1		
文化人類学(3)	1	Japan Studies in English(Introduction)	1		
文化人類学(4)	1	Japan Studies in English(Project)	1		
社会学(1)	1	対照言語学 2	1		
社会学(3)	1	東アジア研究(現代韓国特論)	1		

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
コア科目 a	地域研究特論	1		国際経済論(1)	1
	女性と労働	1		国際経済論(3)	1
	国際協力キャリア入門	1		国際経済論(4)	1
コ	移民研究	1		国際金融論(1)	1
	演劇と教育	2		国際金融論(3)	1
	言語教育とジェンダー	1		国際金融論(4)	1
	言語政策	1		国際社会学(1)	1
	対照言語学 1	2		国際社会学(3)	1
	国際人口論(3)	1		比較政治論(1)	1
	国際人口論(4)	1		比較政治論(3)	1
	ヒューマン・セクソロジー(1)	1	コ	比較政治論(4)	1
	ヒューマン・セクソロジー(3)	1		比較教育論(1)	1
	ヒューマン・セクソロジー(4)	1		比較教育論(3)	1
ア	女性学(1)	1		比較教育論(4)	1
	女性学(3)	1	ア	情報社会論(1)	1
	女性学(4)	1		情報社会論(3)	1
	平和研究	3		言語思想論(1)	1
	ウェルネス研究 (スポーツ心理学)	1		言語思想論(3)	1
	ウェルネス研究 (人間関係論)	1		言語思想論(4)	1
	ウェルネス研究 (世界の身体文化表現論)	1	科	アメリカ政治(1)	1
	ウェルネス研究 (カウンセリングの基礎)	1		アメリカ政治(3)	1
	ウェルネス研究 (健康心理学)	1		アメリカ政治(4)	1
	ウェルネス研究 (武道身体文化論)	1		アメリカ経済 (アメリカ経済史) (1)	1
目	ウェルネス研究 (スポーツ・ジェンダー論)	1	目	アメリカ経済 (現代アメリカ経済論) (3)	1
	ウェルネス研究 (女性の健康とキャリア)	1		アメリカ経済 (現代アメリカ経済論) (4)	1
	イギリス文化概論	3		アメリカ社会(1)	1
	アメリカ文化概論	3		アメリカ社会(3)	1
	英語学概論	3	b	アメリカ社会(4)	1
	社会言語学	3		アメリカ文化 a	3
	コミュニケーション概論	3		アメリカ文化 b	3
	言語とコミュニケーション	3		アメリカ文化 c	3
	日本語学概論	3		ヨーロッパ政治(1)	1
	国際政治論(1)	1		ヨーロッパ政治(3)	1
b	国際政治論(3)	1		ヨーロッパ経済 (イギリス) (1)	1
	国際政治論(4)	1		ヨーロッパ経済 (イギリス) (3)	1
	国際法(1)	1		ヨーロッパ経済 (イギリス) (4)	1
	国際法(3)	1		ヨーロッパ社会 (民族と言語) (3)	1
	国際法(4)	1		ヨーロッパ社会 (民族と言語) (4)	1



	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
コ	ヨーロッパ社会 (イギリス) (1)	1	コ ア 科 目 b	東南アジア研究 (大陸部) (1)	1
	ヨーロッパ社会 (イギリス) (3)	1		東南アジア研究 (大陸部) (3)	1
	ヨーロッパ社会 (イギリス) (4)	1		東南アジア研究 (大陸部) (4)	1
	ヨーロッパ文化 (イギリス) (1)	1		東南アジア研究 (島嶼部) (1)	1
	ヨーロッパ文化 (イギリス) (4)	1		東南アジア研究 (島嶼部) (3)	1
	ヨーロッパ文化 (フランス) (1)	1		東南アジア研究 (島嶼部) (4)	1
	ヨーロッパ文化 (フランス) (3)	1		東南アジア研究 (現代東南アジア特論) (1)	1
	ヨーロッパ文化 (フランス) (4)	1		東南アジア研究 (現代東南アジア特論) (3)	1
	ヨーロッパ文化 (ドイツ) (1)	1		東南アジア研究 (現代東南アジア特論) (4)	1
	ヨーロッパ文化 (ドイツ) (3)	1		日本研究 (沖縄研究) (1)	1
	ヨーロッパ文化 (ドイツ) (4)	1		日本研究 (沖縄研究) (3)	1
	ヨーロッパ文化 (スペイン) (1)	1		日本研究 (沖縄研究) (4)	1
	ヨーロッパ文化 (スペイン) (3)	1		日本研究 (日本と台湾の近現代関係史)	1
	ヨーロッパ文化 (スペイン) (4)	1		日本研究 (日本と朝鮮半島の近現代関係史)	1
	東欧研究(1)	1		日本研究 (少数者の日本近現代史)	1
	東欧研究(3)	1		日本研究 (Japanese Society) (1)	1
	東欧研究(4)	1		日本研究 (Japanese Society) (3)	1
	ユーラシア研究(1)	1		日本研究 (Japanese Society) (4)	1
	ユーラシア研究(3)	1		イスラーム概論	1
	ユーラシア研究(4)	1		イスラーム地域研究入門	1
西アジア研究(1)	1	イスラーム地域研究特論	1		
西アジア研究(3)	1	日本・アジアの文化研究(1)	1		
西アジア研究(4)	1	日本・アジアの文化研究(3)	1		
南アジア研究(1)	1	日本・アジアの文化研究(4)	1		
南アジア研究(3)	1	福祉社会学	1		
南アジア研究(4)	1	家族社会学	1		
オーストラリア研究(1)	1	ソーシャル・インクルージョン論	1		
b	オーストラリア研究(3)	1	発 展 科 目	国際機構論(1)	1
オーストラリア研究(4)	1	国際機構論(3)		1	
東アジア研究 (韓国現代史)	1	国際機構論(4)		1	
東アジア研究 (北朝鮮特論)	1	開発経済学(1)		1	
東アジア研究 (朝鮮半島の国際政治)	1	開発経済学(3)		1	
東アジア研究 (中国現代史)	1	開発経済学(4)		1	
東アジア研究 (中国・香港・台湾特論)	1	国際援助論		1	
東アジア研究 (中国の国際政治)	1	NPO-NGO論		1	
東アジア研究 (現代中国特論)	1	国際ウェルネス		1	
東アジア研究 (現代中国社会学論)	1	国際保健論(1)		1	
東アジア研究 (現代中国経済論)	1	国際保健論(3)		1	

	授 業 科 目	単 位
発 展 科 目	国際協力論(1)	1
	国際協力論(3)	1
	国際協力論(4)	1
	グローバルゼーション論(1)	1
	グローバルゼーション論(3)	1
	グローバルゼーション論(4)	1
	言語教育方法論A	3
	言語教育方法論B	3
	言語教材開発論B	3
	マルチリンガリズム	1
	異文化理解教育論(1)	1
	異文化理解教育論(3)	1
	異文化理解教育論(4)	1
	Fieldwork Skills	1
個 別 言 語 研 究 A	形態論	2
	文法論	3
	意味・語用論	2
	音韻論	2
研 究 B 個 別 言 語	日本語学特殊講義1	2
	日本語学特殊講義2	1

(10) メディアスタディーズ・コース

授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位
必 修 科 目 (英語英文学科)	基礎セミナー	3	必 修 科 目 (数学科)	微分積分学 I 演習	0
	英語英文学科での学び	1		数学序論	2
	Literary Reading I	3		数学序論 演習	0
	Extensive Reading I	1		代数と幾何 I	4
	Intensive Reading I a	1		代数と幾何 I 演習	0
	Intensive Reading I b	1		プログラミング入門(3)	2
	Oral English I	3		プログラミング入門(3) 演習	0
	Composition I	3		プログラミング入門(4)	2
	Pronunciation I	3		プログラミング入門(4) 演習	0
	Literary Reading II	3		Reading Skills I	3
	Intensive Reading II	3		Oral English I	3
	Academic Writing II	3		Composition I	3
	Academic Listening II	3		Pronunciation I	3
	Oral English II	3		2年セミナー	3
	Grammar II	3		微分積分学 II	6
Academic Writing & Presentation III	3	微分積分学 II 演習	0		
必 修 科 目 (国際関係学科)	1年セミナー	3	代数と幾何 II	6	
	Extensive Reading I	1	代数と幾何 II 演習	0	
	Intensive Reading I a	1	Listening and Speaking II	3	
	Intensive Reading I b	1	必 修 科 目 (情報科学科)	1年セミナー	2
	Oral English I	3		プログラミング I (演習付) (1)	2
	Composition I	3		プログラミング I (演習付) (3)	2
	Pronunciation I	3		プログラミング I (演習付) (4)	2
	国際関係概論(1)	1		コンピュータリテラシー a	1
	国際関係概論(3)	1		コンピュータリテラシー b	1
	国際関係概論(4)	1		情報表現(3)	1
	地域研究序説(1)	1		情報表現(4)	1
	地域研究序説(3)	1		情報数学基礎 (演習付)	2
	文化研究序説	1		微分積分 (演習付) (3)	2
	原書講読 (2年セミナー)	3		微分積分 (演習付) (4)	2
	Reading Skills II	3		Reading Skills I	3
Oral English II	3	Oral English I		3	
Composition II	3	Composition I		3	
Listening II	3	Pronunciation I		3	
第二外国語 I	各3	2年セミナー	1		
第二外国語 II	各3	2年プロジェクト	2		
必 修 科 目 (数学科)	1年セミナー	1	プログラミング II (演習付) (1)	2	
	微分積分学 I	6	プログラミング II (演習付) (3)	2	

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
必修科目 (情報科学科)	アルゴリズム a (演習付)	2	選択科目 (数学科)	確率統計入門(4)	1
	アルゴリズム b (演習付)	2		代数学基礎 (演習付)	2
	線形代数 (演習付) (1)	2		代数入門 (演習付)	4
	線形代数 (演習付) (3)	2		幾何学入門 (演習付)	2
	確率統計 (演習付)	2		位相入門 (演習付)	4
	CS Reading Skills II	3		数値計算法	2
	CS Speaking and Listening II	3		メディア処理とモデリング入門	1
	CS Composition II	3		アルゴリズム入門	2
必修科目 (共通)	メディアスタディーズ概論(1)	1	選択科目 (情報科学科)	アルゴリズム c (演習付)	2
	メディアスタディーズ概論(3)	1		マルチメディア (演習付)	2
	メディア3年セミナー	3		データサイエンス (演習付)	2
	メディアワークショップ(1)	1		ネットワークシステム (演習付)	2
	メディアワークショップ(3)	1		システム運用 (演習付)	2
	メディアワークショップ(4)	1		人工知能・機械学習 (演習付)	2
	Media English (Presentation)	1		数理モデル (演習付)	2
	Media English (Criticism)	1		情報セキュリティ (演習付)	2
	Media English (Academic Writing)	1		ソフトウェア開発法 (演習付)	2
	メディア4年セミナー	3		映像論	1
卒業論文 (卒業制作)	6	メディア批評	1		
選択科目 (英語英文学科基幹科目)	イギリス文学史	3	メディア・コア科目	カルチュラル・スタディーズ	1
	アメリカ文学史	3		消費者行動論基礎	1
	イギリス文学概論 (詩・演劇・小説)	3		情報社会論(1)	1
	イギリス文化概論	3		情報社会論(3)	1
	アメリカ文化概論	3		デジタル・デバイド論	1
	英語学概論	3		マスコミ論(1)	1
	英語史	3		マスコミ論(3)	1
	社会言語学	3		マスコミ論(4)	1
	コミュニケーション概論	3		表象文化論	1
	第二言語習得概論 (英語教育)	3		Webテクノロジー a	1
	Bible Studies	3		Webテクノロジー b	1
	Japan Studies in English (Introduction)	1		コンテンツデザイン	1
	翻訳・通訳特別講義	1		映像コンテンツ制作	1
	英語英文学科特別講義 (英語)	1		心理学(1)	1
	文章講座 b (Creative Writing)	1		心理学(3)	1
	Cultural Representation in Media	1		心理学(4)	1
Media Literacy	1	異文化理解とコミュニケーション	3		
(数学科) 選択科目	数値解析入門 (演習付)	6	メディア関連科目	国語表現(1)	1
	確率統計入門(3)	1		国語表現(3)	1

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位		
メ	国語表現(4)	1	メ	ドイツ語Ⅲ (講読) (4)	1		
	美術	3		ドイツ語Ⅲ (演習) (1)	1		
	音楽	3		ドイツ語Ⅲ (演習) (3)	1		
	政治学(1)	1		ドイツ語Ⅲ (演習) (4)	1		
	政治学(3)	1		中国語Ⅲ (講読) (1)	1		
	政治学(4)	1		中国語Ⅲ (講読) (3)	1		
	経済学(1)	1		中国語Ⅲ (講読) (4)	1		
	経済学(3)	1		中国語Ⅲ (演習) (1)	1		
	経済学(4)	1		中国語Ⅲ (演習) (3)	1		
	日本史概説(1)	1		中国語Ⅲ (演習) (4)	1		
	デ	日本史概説(3)		1	デ	ロシア語Ⅲ (講読) (1)	1
		日本史概説(4)		1		ロシア語Ⅲ (講読) (3)	1
		社会心理学(1)		1		ロシア語Ⅲ (講読) (4)	1
		社会心理学(3)		1		ロシア語Ⅲ (演習) (1)	1
	イ	社会心理学(4)		1	イ	ロシア語Ⅲ (演習) (3)	1
		社会学(1)		1		ロシア語Ⅲ (演習) (4)	1
	ア	社会学(3)		1	ア	スペイン語Ⅲ (講読) (1)	1
		社会学(4)		1		スペイン語Ⅲ (講読) (3)	1
	関	国際関係概論(1)		1	関	スペイン語Ⅲ (講読) (4)	1
		国際関係概論(3)		1		スペイン語Ⅲ (演習) (1)	1
国際関係概論(4)		1	スペイン語Ⅲ (演習) (3)	1			
情報と社会(1)		1	スペイン語Ⅲ (演習) (4)	1			
情報と社会(3)		1	韓国・朝鮮語Ⅲ (講読) (1)	1			
連		情報と社会(4)	1	連		韓国・朝鮮語Ⅲ (講読) (3)	1
		情報と職業	1			韓国・朝鮮語Ⅲ (講読) (4)	1
科		精神分析学	1	科		韓国・朝鮮語Ⅲ (演習) (1)	1
	女性学(1)	1	韓国・朝鮮語Ⅲ (演習) (3)		1		
	女性学(3)	1	韓国・朝鮮語Ⅲ (演習) (4)		1		
	女性学(4)	1	日本語Ⅲ (1)		1		
目	平和研究	3	目	日本語Ⅲ (3)	1		
	フランス語Ⅲ (講読) (1)	1		日本語Ⅲ (4)	1		
	フランス語Ⅲ (講読) (3)	1		イギリス文化概論	3		
	フランス語Ⅲ (講読) (4)	1		Contemporary British Society and Culture a	1		
	フランス語Ⅲ (演習) (1)	1		Contemporary British Society and Culture b	1		
	フランス語Ⅲ (演習) (3)	1		アメリカ文化概論	3		
	フランス語Ⅲ (演習) (4)	1		文学批評	2		
	ドイツ語Ⅲ (講読) (1)	1		グローバルヒストリーのなかのイギリス	1		
	ドイツ語Ⅲ (講読) (3)	1		グローバル文学 (英語) 特殊講義	1		

授 業 科 目		単 位	授 業 科 目		単 位
メ デ イ ア 関 連 科 目	アメリカ文化 a	3	メ デ イ ア 関 連 科 目	東アジア研究 (朝鮮半島の国際政治)	1
	アメリカ文化 b	3		東アジア研究 (現代韓国特論)	1
	アメリカ文化 c	3		東アジア研究 (中国現代史)	1
	American Studies a	1		東アジア研究 (中国・香港・台湾特論)	1
	American Studies b	1		東アジア研究 (中国の国際政治)	1
	American Studies c	1		東アジア研究 (現代中国特論)	1
	文化研究序説	1		東アジア研究 (現代中国社会論)	1
	地域研究序説(1)	1		東アジア研究 (現代中国経済論)	1
	地域研究序説(3)	1		日本研究 (日本と台湾の近現代関係史)	1
	国際関係史(1)	1		日本研究 (日本と朝鮮半島の近現代関係史)	1
	国際関係史(3)	1		日本研究 (少数者の日本近現代史)	1
	国際関係史(4)	1		イスラーム概論	1
	現代文化論(1)	1		イスラーム地域研究入門	1
	現代文化論(3)	1		イスラーム地域研究特論	1
	現代文化論(4)	1		Webテクノロジー a	1
	翻訳文化論	1		Webテクノロジー b	1
	越境文学論	1		映像コンテンツ制作	1
	文学論特論	1		コンピュータグラフィックス a	1
	ラテンアメリカ研究	1		コンピュータグラフィックス b	1
	アフリカ研究	1		テクニカルライティング	1
	ヨーロッパ文化 (イギリス) (1)	1		知的財産概論	1
	ヨーロッパ文化 (イギリス) (4)	1		社会情報システム	1
	ヨーロッパ文化 (フランス) (1)	1		手話通訳と情報アクセシビリティ	1
	ヨーロッパ文化 (フランス) (3)	1			
	ヨーロッパ文化 (フランス) (4)	1			
	ヨーロッパ文化 (ドイツ) (1)	1			
	ヨーロッパ文化 (ドイツ) (3)	1			
	ヨーロッパ文化 (ドイツ) (4)	1			
ヨーロッパ文化 (スペイン) (1)	1				
ヨーロッパ文化 (スペイン) (3)	1				
ヨーロッパ文化 (スペイン) (4)	1				
東欧研究(1)	1				
東欧研究(3)	1				
東欧研究(4)	1				
EU研究(1)	1				
EU研究(4)	1				
東アジア研究 (韓国現代史)	1				
東アジア研究 (北朝鮮特論)	1				

(11) 教職に関する科目

	授 業 科 目	単 位
教育の基礎的 理解に 関する 科目等	教育学概論	3
	教職概論	2
	教育心理学	2
	特別支援教育論	1
	教育課程論	2
	道徳教育の理論と方法	2
	総合的な学習の時間の指導法	1
	特別活動の指導法	1
	教育方法論	2
	生徒指導の理論と方法	1
	教育相談の理論と方法	2
	進路指導の理論と方法	1
	教育実習A	5
	教育実習B	3
教職実践演習(中・高)	2	
大学が 独自に 設定する 科目	初等英語教育研究	3
	教育メディア a	2
	教育メディア b	2
	教育学特講(1)	1
	教育学特講(3)	1
教育学特講(4)	1	

## (12) 日本語教員養成課程

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
必 修 科 目	日本語教授法	3		教育心理学	2
	日本語教材・教具論	3		社会言語学	3
	日本語教授法演習(含実習)	3		異文化理解とコミュニケーション	3
	日本語学概論	3		言語思想論(1)	1
	日本語文法概論	3		言語思想論(3)	1
	第二言語習得論(日本語教育)	2		言語思想論(4)	1
選 択 科 目	多文化社会と言語教育	2	選 択 科 目	社会心理学(1)	1
	異文化理解教育論	2		社会心理学(3)	1
	言語教育とジェンダー	1		社会心理学(4)	1
	情報処理 I a	1		多文化共生論(1)	1
	情報処理 I b	1		多文化共生論(3)	1
	教育課程論	2		多文化共生論(4)	1
	日本語学特殊講義 1	2		国際交流論	1
	日本語学特殊講義 2	1		言語政策	1
	対照言語学 1	2		日本文学(古典文学)(1)	1
	対照言語学 2	1		日本文学(古典文学)(3)	1
	国語学(1)	1		日本文学(古典文学)(4)	1
	国語学(3)	1		日本文学(近現代文学)(1)	1
	国語学(4)	1		日本文学(近現代文学)(3)	1
	ことばの世界	3		日本文学(近現代文学)(4)	1
	音声学	3		日本研究演習(英語)(1)	1
	音韻論	2		日本研究演習(英語)(3)	1
	形態論	2		日本研究演習(英語)(4)	1
	文法論	3		日本史概説(1)	1
	意味・語用論	2		日本史概説(3)	1
	言語とコミュニケーション	3		日本史概説(4)	1
	Oral Communication	3		世界史概説(1)	1
	国語表現(1)	1		世界史概説(3)	1
	国語表現(3)	1		世界史概説(4)	1
	国語表現(4)	1		国際関係概論(1)	1
第二言語習得概論(英語教育)	3	国際関係概論(3)	1		
認知科学と言語教育	3	国際関係概論(4)	1		
コミュニケーション概論	3	地域研究序説(1)	1		
異文化コミュニケーション理論	3	地域研究序説(3)	1		
マルチリンガリズム	1	文化研究序説	1		
心理学(1)	1	比較教育論(1)	1		
心理学(3)	1	比較教育論(3)	1		
心理学(4)	1	比較教育論(4)	1		



	授 業 科 目	単 位
選 択 科 目	文化人類学(1)	1
	文化人類学(3)	1
	文化人類学(4)	1
	第三世界の思想と文化(1)	1
	第三世界の思想と文化(3)	1
	第三世界の思想と文化(4)	1
	国際移動論	1
	国際ボランティア論	1
	情報と社会(1)	1
	情報と社会(3)	1
	情報と社会(4)	1
	情報と職業	1

## (13) デジタルメディア副専攻

	授 業 科 目	単 位
D M 必 修 科 目	情報処理 I a	1
	情報処理 I b	1
	コンピュータリテラシー a	1
	コンピュータリテラシー b	1
	情報処理	2
	デジタルメディア概論	1
D M コ ア 科 目	教育メディア a	2
	教育メディア b	2
	教育コンテンツ制作	1
	メディア概論 a	1
	メディア概論 b	1
	ソーシャルコンテンツ制作	1
	地理情報システム入門	1
	ネット時代の広告とマーケティング論	1
	災害情報学入門	1
	データリテラシー a	1
	データリテラシー b	1
	ITコンテンツ制作	1
	ネットワーク概論	1
	コンテンツビジネス論	1
	コンテンツ保護とセキュリティ	1
シ ョ ッ プ 科 目	教育メディアワークショップ	1
	メディアコミュニケーションワークショップ	1
	デジタルエンターテインメントワークショップ	1
D M 関 連 科 目	情報処理 II a	1
	情報処理 II b	1
	情報処理 II c	1
	情報と社会(1)	1
	情報と社会(3)	1
	情報と社会(4)	1
	情報と職業	1
	グラフィックデザインリテラシー	1
	社会調査法(1)	1
	社会調査法(3)	1
	社会調査法(4)	1
	社会調査法特講	1

## (14) 随意科目

授 業 科 目	単 位
発音クリニック	0
インターンシップ	1
インデペンデントスタディ	1
サービスラーニング	1
1, 2年生のための就職基礎講座	1
キャリア教育支援A 就職力基礎講座	1
キャリア教育支援B 就業応用力養成アクティブラーニング	1
インターンシップ対応 自己分析深掘とES対策講座	1
ITマネジメント論 (資格取得対策科目)	1

(\*注1) 2022年度から適用

(\*注2) 必修科目の卒業論文および卒業研究の6単位は、選択科目の単位として認定される。

この定めは、2015年（平成27年）4月1日から施行する。

この定めは、2017年（平成29年）4月1日から施行する。

この定めは、2018年（平成30年）4月1日から施行する。

この定めは、2019年（平成31年）4月1日から施行する。

この定めは、2020年（令和2年）4月1日から施行する。

この定めは、2021年（令和3年）4月1日から施行する。

# 履 修 要 覧

2021

津 田 塾 大 学  
総 合 政 策 学 部

# I 学校法人津田塾大学寄附行為(抜粋)

## 第1章 総 則

**第1条** (名称) この法人は、学校法人津田塾大学と称する。

**第2条** (事務所の所在地) この法人は、その事務所を東京都小平市津田町2丁目1番1号に置く。

**第3条** (目的) この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、キリスト教精神に基づく女子の大学を設置することを目的とする。

**第4条** (設置する学校) この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる大学を設置する。

津田塾大学

大学院	文学研究科	理学研究科	国際関係学研究科
学芸学部	英語英文学科	国際関係学科	多文化・国際協力量科
総合政策学部	総合政策学科	数学科	情報科学科

# II 津田塾大学学則

## 第1章 総 則

**第1条** この大学は女子に広く高度な教養を授けるとともに、専門の学術を教授研究し、キリスト教精神により、堅実円満にして自発的かつ奉仕的な人物を養成することを目的とする。

**第2条** 本学に学芸学部および総合政策学部を置く。

2 学芸学部は英語英文学科、国際関係学科、多文化・国際協力量科、数学科および情報科学科を置く。

3 総合政策学部は総合政策学科を置く。

**第3条** 学芸学部英語英文学科は、言語や文化を総合的な視点でとらえ、英語を通じて異なる文化的背景を探究する考察力と人間を洞察する力量を培い、高度な英語力を基盤とした専門的学識と広い視野をかね備えた、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

2 学芸学部国際関係学科は、政治・法、経済、文化、社会、地域などの多様な視点から、英語と第二外国語を基盤として、現代世界の諸問題を国際的かつ学際的に考察し、広い視野と独自の洞察力をもって国際社会で活躍できる人材の育成を目的とする。

3 学芸学部多文化・国際協力量科は、社会構造や文化の違いが引き起こしている問題、国際協力・国際援助が抱える問題に向き合い、より良い「共生型」社会の実現に向けての新しいアプローチを提案でき、国内外問わず「今ある状況」をよりよくするためにはどうすれば良いのか、それぞれの場で変革を担う人材の育成を目的とする。

4 学芸学部数学科は、数学の学習・研究を通じ、高度な分析力や論理的思考力および問題解決能力を養成するとともに、情報処理技術を身につけ、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

5 学芸学部情報科学科は、情報科学の専門知識とコミュニケーション能力を身につけ、最新のコンピュータや通信技術を駆使して、IT関連のさまざまな問題を創造的に解決できる情報科学のプロフェッショナルとして、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

6 総合政策学部総合政策学科は、社会の諸相を的確に把握する認識力と分析力、英語を用いた高度なコミュニケーション能力を養い、現代社会が直面する諸課題の解決を通じて新しい社会の仕組みを作り出すことのできるリーダーシップを備えた、国際社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

**第4条** 第2条第2項の学科の取容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	取容定員
英語英文学科	220人	880人
国際関係学科	200人	800人
多文化・国際協力量科	70人	280人
数学科	45人	180人
情報科学科	45人	180人

2 第2条第3項の学科の収容定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
総合政策学科	110人	440人

**第5条** 本学各学部の修業年限は、4年とする。

2 本学各学部在学できる年数は、通算して8年を限度とする。ただし、休学期間はこれに含めない。

**第6条** 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は別にこれを定める。

## 第2章 学年・学期・休業日

**第7条** 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学期の区分・期間および呼称は、学部ごとに学長が定める。

**第8条** 休業日は、次のとおりとする。ただし、第3号から第5号の休業日は、学部ごと、毎年度、学長が定める。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に定める休日

(3) 夏期休業日

(4) 冬期休業日

(5) 春期休業日

2 前項の規定にかかわらず、学長は臨時に休業日を定め、または臨時に休業日を変更することができる。

## 第3章 教育課程および履修方法

**第9条** 本学学芸学部の各学科および総合政策学部総合政策学科の教育課程および履修方法は、別表Ⅰのとおりとする。

**第10条** 本学において開設する授業科目の名称および単位数は、別に定める。

2 前項のほか、学長は臨時に授業科目を開設することができる。

**第11条** 本学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を実施するものとする。

**第12条** 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の各号に掲げる基準によるものとする。

(1) 講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習および実技等については、30時間から45時間までの範囲で別に定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を与えることが適切と学長から認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることがある。

**第12条の2** 授業科目を履修し、その授業に所定の授業時間を出席し、かつ合格の評価を得た者には、学長が学期末に所定の単位を与える。

**第13条** 学芸学部において教育職員免許状を取得しようとする者は、第9条に規定する教育課程および履修方法によるほか、教育職員免許法および同法施行規則の関係規定に基づく所定の科目を履修し、単位を修得しなければならない。

2 中学校教諭一種免許状を取得しようとする者は、前項の規定によるほか、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」および同法施行規則に定める介護等の体験を行わなければならない。

3 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、高等学校教諭一種免許状および中学校教諭一種免許状とし、それらの免許教科は、学芸学部の各学科によりそれぞれ次のとおりとする。

英語英文学科 外国語（英語）

国際関係学科 外国語（英語）または中学校（社会）・高等学校（地理歴史、公民）

数 学 科 数学または高等学校（情報）

情 報 科 学 科 数学または高等学校（情報）

**第13条の2** 日本語教員養成のために必要な授業科目および単位数は、別に定める。

2 所定の単位を修得した者には修了証明書を授与する。

**第14条** 学長が、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学または短期大学の授業科目を履修することを認めることがある。

2 学生が前項の他の大学または短期大学の授業科目を履修しようとするときは、あらかじめ学長の許可を受けなければならない。

3 前項の規定に基づき学生が履修し、修得した他の大学または短期大学の授業科目についての単位は、学長が30単位を超えない範囲で、本学で履修し、修得したものとみなすことがある。

4 前2項の規定は、第27条第1項の規定により、学生が外国の大学または短期大学に留学する場合に準用する。

**第15条** 学長が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

2 前項の規定により与えることがある単位数は、前条第3項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

**第15条の2** 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学または短期大学もしくは外国の大学等において履修した授業科目について修得した単位（大学設置基準第31条に規定する科目等履修生等として修得した単位を含む）を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。

2 学長が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることがある。

3 前2項の規定により修得したものとみなし、または与えることがある単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて30単位を超えないものとする。

**第16条** 学生は、毎学年の始めに履修する科目を選択し、所定の期日までに事務局教務課へ届け出なければならない。

#### 第4章 教職員組織

**第17条** 本学に学長を置く。

2 学長は、本学を統括しこれを代表する。

**第18条** 本学に副学長を置く。

2 副学長は、学長を助け、その命を受けて校務をつかさどる。

**第18条の2** 各学部に学部長を置く。

2 学部長は、所属学部の校務をつかさどる。

**第19条** 本学に教授、准教授、講師、助教、助手および事務職員を置く。

2 教授、准教授、講師、助教、助手および事務職員の定員は別にこれを定める。

**第19条の2** 本学の大学運営に関する重要事項を審議するため、学長の下に大学運営会議を置く。

2 大学運営会議は、学長、副学長、各学部長、学部から選出する者各1名、大学院委員会が選出する者1名および事務局長をもって構成し、学長が議長となる。

3 大学運営会議は、次の事項について審議する。

- (1) 学則その他の教育に関する重要な規則の制定・改廃に関する事項
- (2) 本学の事業計画に関する事項
- (3) 教員人事に関する事項
- (4) 教育課程編成の方針に関する事項
- (5) 学生の厚生補導に関する事項
- (6) 学生の入学や学位授与等の方針に関する事項
- (7) 教育、研究、組織及び運営の状況についての自己点検、評価に関する事項
- (8) その他本学の運営に関する重要事項

**第20条** 各学部に、教授会を置く。

2 学部長、専任の教授、准教授、講師を以て教授会を組織する。

3 学部長は、教授会を招集し、その議長となる。

**第21条** 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業に関する事項
  - (2) 学位の授与に関する事項
  - (3) 前号までに掲げるもののほか、教育に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長および学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育に関する次の事項について審議する。また、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
- (1) 留学、休学、復学、転部、転科、退学、および除籍に関する事項
  - (2) 試験および単位認定に関する事項
  - (3) 委託生、交換学生、科目等履修生、聴講生、外国人留学生に関する事項
  - (4) 学生の賞罰に関する事項
  - (5) 専任以外の教員の選考に関する事項
  - (6) 教授会の設置する委員会に関する事項



(7) 学長等の諮問する事項

**第5章 入学・留学・休学・復学・編入学・転部・転科・退学・再入学および除籍**

**第22条** 入学の時期は、毎学年の始めとする。

**第23条** 入学を志願することができる者は、女子で次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定規則により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験（旧大検）に合格した者
- (7) 本学において、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

**第24条** 入学志願者に対しては、入学検定を行う。

**第25条** 入学を許可された者は、別に定める入学手続き要項により、保証人連署の保証書その他必要な入学書類を添えて、指定の期日までに手続きをしなければならない。

**第26条** 保証人は、独立の生計を営む親族または縁故者で確実に保証人の責を負い得る者でなければならない。

2 保証人が前項の条件を欠いた場合には、直ちに保証人を選定して届け出なければならない。

3 保証人は、保証人の身分、住所等に異動が生じた場合には、直ちにその旨を届け出なければならない。

**第27条** 外国の大学に留学しようとする者は、所定の手続きを経て学長の承認を得なければならない。

2 留学に関する細則は別にこれを定める。

**第28条** 病気その他やむを得ない理由により休学しようとする者は、所定の様式による休学願にその理由を記し、保証人連署の上、願い出なければならない。

2 休学期間は、1年または半年とする。ただし特別の事情のある場合は、学長は引き続き休学を許可することがある。

3 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

**第29条** 休学中の者が復学を希望するときは、所定の様式による復学願を（病気の場合は医師の診断書を添え）提出しなければならない。

**第30条** 次の各号の一に該当する女子で本学への編入学を願い出た者には、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者、または退学した者
- (2) 短期大学、高等専門学校を卒業した者
- (3) 本学において、第1号および前号と同等以上の学力があると学長が認められた者

2 前項の規定により入学を許可された者については、学長は、既に修得した授業科目、単位数および在学年数を本学における授業科目、単位数および在学年数として認定換算することを許可できる。

3 編入学に関する細則は別にこれを定める。

**第31条** 転部、転科を願い出た者には、事情を考慮した上で、学長がこれを許可することがある。

2 転部、転科に関する細則は別にこれを定める。

**第32条** 退学しようとする者は、所定の様式による退学願にその理由を記し、保証人連署の上、願い出なければならない。

2 退学に関する細則は別にこれを定める。

**第33条** 退学者が再入学を願い出たときは、事情を考慮した上で、学長がこれを許可することがある。

2 再入学に関する細則は別にこれを定める。

**第34条** 次の各号の一に該当する者は除籍する。

- (1) 定められた期日までに履修登録を行わない者
- (2) 授業料等諸料金の納付を怠り督促を受けてもなお納めない者
- (3) 第28条第2項に定める休学期間を超えてなお復学または退学しない者
- (4) 第5条第2項に定める在学年限を超えてなお退学しない者
- (5) 許可なくして3ヶ月以上欠席した者

2 除籍に関する細則は別にこれを定める。

**第6章 評価・卒業・学位**

**第35条** すべての授業科目は、その履修終了時において学習の評価を行う。

2 学習の評価は、試験その他の方法によって行う。



3 学習の評価は、原則としてA, B, C, D, Fで評価し、A, B, C, Dを合格とする。

**第36条** 病気または正当な理由により試験を受けることができなかった者は、願い出により、学長から追試験の受験を許可されることがある。

2 追試験に関する細則は別にこれを定める。

**第37条** 合格点を取得しなかった者は、願い出により、学長から再試験の受験を許可されることがある。

2 再試験に関する細則は別にこれを定める

**第38条** 本学に4年以上（編入学者の場合を除く）在学し、所定の単位数を修得した者には、学長は、卒業を認め、学士の学位を授与する。

**第39条** 本学において授与される学士の学位は次のとおりとする。

学芸学部

英語英文学科	学士（英文学）
国際関係学科	学士（国際関係学）
多文化・国際協力学科	学士（多文化・国際協力学）
数学科	学士（理学）
情報科学科	学士（理学）

総合政策学部

総合政策学科	学士（総合政策学）
--------	-----------

### 第7章 入学検定料・入学金・授業料・試験料等

**第40条** 入学を志願する者は、志願と同時に入学検定料を納入しなければならない。

2 入学検定料の額は、別表Ⅱの定めるところによる。

**第41条** 入学を許可された者は、入学金、その期の授業料、施設設備費その他の所定の料金を指定の期日までに納入しなければならない。

2 前項の規定は、再入学および編入学の場合にも準用する。

3 入学金の額は、別表Ⅲの定めるところによる。

**第42条** 授業料および施設設備費は、年額を2期に分け、前期にあつては5月10日、後期にあつては10月31日までに納入しなければならない。

2 第41条第1項および前項の規定にかかわらず、学生の申し出があつたときは、前期分の授業料および施設設備費を納入するときに、その年度の後期分の授業料および施設設備費を併せて納入することができる。

3 第1項の規定にかかわらず、学生の申し出があつたときは、事情を考慮した上で、前期分の授業料および施設設備費にあつては9月30日まで、後期分の授業料および施設設備費にあつては翌年の3月31日まで、納入を延期することができる。

4 特別の事情がある場合には、前項の規定により9月30日まで延期した前期分の授業料および施設設備費の納入を翌年の3月31日まで延期することができる。

5 授業料および施設設備費の年額は、別表Ⅳの定めるところによる。

**第43条** 追試験または再試験を受ける者は、試験料を前納しなければならない。

2 追試験料および再試験料の額は、別にこれを定める。

**第44条** 既に納入した諸料金は、事情の如何にかかわらずこれを返却しない。

**第45条** 休学中については、授業料、施設設備費を免除し、在籍料を納入するものとする。

2 留学中については、授業料、施設設備費を在籍料相当額に減免する。ただし、交換留学協定校への留学については別に定める。

3 在籍料の年額は別表Ⅴの定めるところによる。

4 休学中および留学中の授業料、施設設備費に関する規則は、別にこれを定める。

**第46条** 途中で退学する者もその学期分の授業料、施設設備費は納入しなければならない。

**第47条** 各学期分の授業料等諸料金未納者（第42条第3項および第4項の規定により授業料及び施設設備費の納入の延期を認められた者を除く。）は、その学期に実施される定期試験の受験資格を失うものとする。

### 第8章 委託生・交換学生・科目等履修生・聴講生

**第48条** 特定の機関または団体等から研修科目を定め、本学の修学を委託される場合には、教育および研究に妨げのない限り、選考の上、学長から委託生として受け入れを許可されることがある。

2 委託生は、本人の希望により試験を受けることができる。また試験に合格した者には、本人の請求により成績証明書

を交付する。

3 委託生に関する細則は別にこれを定める。

**第49条** 他の大学または短期大学との協定に基づいて本学の授業を履修し、単位を修得しようとする者、もしくは本学と協定のある外国の大学の学生で本学の授業科目の履修を希望する者は、当該大学の推薦のもとに、学長から交換学生として入学を許可されることがある。

2 交換学生は、履修した授業科目につき試験を受けなければならない。また試験に合格した者には本人の請求により成績証明書を交付する。

3 交換学生に関する細則は別にこれを定める。

**第50条** 本学において、単位の修得を目的として特定の授業科目の履修を希望する者があるときは、学生の履修に妨げのない限り、選考の上、学長から科目等履修生として入学を許可されることがある。

2 科目等履修生の入学資格は、第23条各号の一に該当するものとする。ただし、その者の履修の目的等により、特別の要件を付加することがある。

3 科目等履修生が履修した授業科目の試験に合格したときは、その授業科目の所定の単位を与える。

4 科目等履修生に関する細則は別に定める。

**第50条の2** 本学において一または複数の授業科目の聴講を希望する者があるときは、学生の履修に妨げのない限り、選考の上、学長から聴講生として入学を許可されることがある。

2 聴講生の入学資格は、第23条各号の一に該当する者とする。

3 聴講生に関する細則は別に定める。

**第51条** 委託生、交換学生、科目等履修生および聴講生は定員外とする。

## 第9章 外国人留学生

**第52条** 外国人で本学において教育を受ける目的をもって入国し、第23条第3号および第7号の規定する要件をみたして入学を願った者は、選考の上、学長から外国人留学生として入学を許可されることがある。

2 前項の外国人留学生が日本語および日本事情に関連する科目を履修し、所定の単位を修得した場合には、26単位を限度として共通科目、外国語科目および健康余暇科学科目の単位に代えることができる。

3 外国人留学生には本学則その他本学の定める諸規定を準用する。

## 第10章 公開講座

**第53条** 本学に公開講座を設けることができる。

## 第11章 賞 罰

**第54条** 本学の規則命令に背き、または学生の本分に反する行為をした者は、学長がこれを懲戒する。

2 懲戒は訓告、停学および退学とする。

3 懲戒に関する規程は別に定める。

**第54条の2** 学生として、表彰に値する行為があったものは、学長がこれを表彰することができる。

2 表彰に関する規程は別に定める。

## 第12章 付属施設

**第55条** 本学に図書館、言語文化研究所、国際関係研究所、数学・計算機科学研究所、総合政策研究所、計算センター、ウェルネス・センター、視聴覚センター、国際センター、イングリッシュ・コーディネーション・センター、津田梅子記念交流館、津田梅子資料室、女性研究者支援センター、ライティングセンター、学外学修センター、キャリア・センター、連携推進センター、オープンユニバーシティおよび大学ホールを付設する。

2 付属施設に関する細則は別にこれを定める。

**第56条** 本学に寮を付設する。

2 寮に関する細則は別にこれを定める。

## 第13章 自己点検・評価

**第57条** 本学は第1条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う。

2 点検項目および実施体制については別に定める。

## 附 則

1. この学則は、昭和23年（1948年）4月1日から施行する。  
（昭和24年（1949年）4月1日施行から平成13年（2001年）4月1日施行まで省略）
2. この学則は、平成16年（2004年）4月1日から施行する。
3. この学則は、平成18年（2006年）4月1日から施行する。
4. 学芸学部情報数理学科は、改正後の第2条第2項、第4条、第13条第3項及び第39条の規定にかかわらず、平成18年（2006年）3月31日に情報数理学科に在学する者がその学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
5. この学則は、平成19年（2007年）4月1日から施行する。
6. この学則は、平成20年（2008年）4月1日から施行する。
7. この学則は、平成21年（2009年）4月1日から施行する。
8. この学則は、平成22年（2010年）4月1日から施行する。
9. この学則は、平成23年（2011年）4月1日から施行する。
10. この学則は、平成24年（2012年）4月1日から施行する。
11. この学則は、平成26年（2014年）4月1日から施行する。
12. 平成25年（2013年）度以前の入学者については、改正後の学則第46条は適用せず、休学および留学中の授業料、施設設備費は、学期分の半額を納入するものとする。ただし、交換留学協定校への留学の場合には、当該大学との協定に定めるところとする。平成25年（2013年）度以前の入学者の休学および留学中の授業料、施設設備費に関する規則は別に定める。この措置は平成25年（2013年）度以前の入学者が在学しなくなるまで、存続するものとする。
13. この学則は、平成26年（2014年）4月16日から施行する。
14. この学則は、平成27年（2015年）4月1日から施行する。
15. この学則は、平成27年（2015年）7月24日から施行する。
16. この学則は、平成28年（2016年）4月1日から施行する。
17. この学則は、平成29年（2017年）4月1日から施行する。
18. この学則は、平成29年（2017年）10月1日から施行する。
19. この学則は、平成31年（2019年）4月1日から施行する。

## 津田塾大学総合政策学部 授業科目および単位数に関する定め

津田塾大学総合政策学部授業科目および単位数は、次のとおりとする。  
この定めは、2021年（令和3年）4月1日から施行する。

### (1) 総合政策学部総合政策学科

	授 業 科 目	単 位		授 業 科 目	単 位
必修科目・基礎科目	1年セミナーA	1	必修科目	Mediation Communication for Problem Solving II C	1
	1年セミナーB	1		Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II A	1
	1年セミナーC	1		Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II B	1
	2年セミナーA	1		Critical Thinking in Content-based Listening and Discussion II C	1
	2年セミナーB	1		Critical Thinking in Content-based Reading II A	1
	2年セミナーC	1		Critical Thinking in Content-based Reading II B	1
必修科目・応用科目	3年セミナーA	1		Critical Thinking in Content-based Reading II C	1
	3年セミナーB	1		Content-based Process Writing II A	1
	3年セミナーC	1		Content-based Process Writing II B	1
	4年セミナーA	1		Content-based Process Writing II C	1
	4年セミナーB	1		Leadership Communication for Problem Solving III A	1
	4年セミナーC	1		Management Communication for Problem Solving III B	1
	卒業研究プロジェクト	4		Skills Integration in Communication for Problem Solving III C	1
必修科目・基礎科目	Basics of Interpersonal Communication for Problem Solving I A	1		Basics of Content-based Presentation Skills III A	1
	Interpersonal Communication for Problem Solving I B	1		Delivering Competency in Content-based Presentation Skills III B	1
	Compassionate Communication for Problem Solving I C	1		Interactive Competency in Content-based Presentation Skills III C	1
	Content-based Listening and Discussion I A	1		Economics-oriented Advanced Reading III A	1
	Content-based Listening and Discussion I B	1		Law-oriented Advanced Reading III B	1
	Content-based Listening and Discussion I C	1	Politics-oriented Advanced Reading III C	1	
	Content-based Reading I A	1			
	Content-based Reading I B	1			
	Content-based Reading I C	1			
	Content-based Writing I A	1			
	Content-based Writing I B	1			
	Content-based Writing I C	1			
	Negotiation Communication for Problem Solving II A	1			
Conflict Resolution Communication for Problem Solving II B	1				

授 業 科 目		単 位		授 業 科 目	単 位
必 修 科 目 ・ 基 礎 科 目	Basics of Academic Writing III A	1	基 幹 科 目 ・ 課 題 解 決 関 連 科 目	インターネット概論	2
	Research for Academic Writing III B	1		Web情報システム論	2
	Problem-solution in Academic Writing III C	1		情報セキュリティ論	2
	政治とは何か	2		メディア産業論	2
	経済の仕組み	2		スマートコミュニティ論	2
	法からみた社会	2		データ政策科学	2
	計量経済の基礎	2		情報通信政策	2
	データ・サイエンス入門	2		経営情報システム	2
	統計 I	2		技術経営論	2
	会計	2		健康医療情報システム	2
	経済分析	2		社会実践の諸相	2
	アルゴリズム	2		コミュニティスタディ	2
	統計 II	2		女性のキャリア開発	2
	総合政策概論 A	1		地域ケア論	2
総合政策概論 B	1	少子高齢化の進展と社会保障の持続可能性	2		
基 幹 科 目 ・ 課 題 解 決 関 連 科 目	分配のポリティクス	2	ソーシャル・インクルージョン論	2	
	グローバルゼーション論	2	ジェンダーと社会変動	2	
	地域政策論	2	子どもの貧困と教育格差	2	
	政治参加	2	人の国際移動と社会の多文化化	2	
	平和構築	2	ダイバーシティ社会論	2	
	プロパガンダとアドボカシー	2	ソーシャル・ヘルス・マネジメント	2	
	文化交流論	2	政治制度論	2	
	市民社会における安全保障	2	法と公共政策	2	
	法制度設計	2	経済活動のための法	2	
	統治システム論	2	行政学	2	
	公共管理	2	日本政治史	2	
	環境政策論	2	公共哲学	2	
	国際標準化論	2	ミクロ・マクロ経済分析	2	
	企業の社会的責任	2	日本の財政・金融	2	
	雇用経済論	2	現代経営論	2	
	マーケティング戦略	2	社会調査入門	2	
	イノベーションと社会	2	質的調査法	2	
	多国籍企業論	2	プログラミング入門	2	
	知的財産法	2	プロジェクト・マネジメント	2	
	世界の開発と貧困問題	2	共生社会と法	2	
医療・介護の経済分析	2	社会学概論	2		
経済政策論	2	福祉政策論	2		
情報通信技術と社会	2	社会階層論	2		

	授 業 科 目	単 位
基幹科目・専門科目	家族社会学	2
	グローバル・ポリティクス論	2
	実証政治理論	2
	行動経済分析	2
	貿易政策論	2
	多変量解析と公的統計	2
	アプリケーション開発	2
	能力開発論	2
	現代社会論	2
	福祉国家論	2
総 合 科 目	クリティカル・シンキング	2
	世界の宗教と社会	2
	ソーシャル・デザイン論	2
	経済人類学	2
	科学技術と文明	2
	歴史入門	2
	キャリア入門A	1
	キャリア入門B	1
	キャリア入門C	1
	日本語ライティングA	1
	日本語ライティングB	1
	日本語ライティングC	1
	インターンシップ	1~4
	語学研修	2
	International Training Course A	1
	International Training Course B	1
	事業戦略とイノベーション	1
	データ分析実践	1
	映像コミュニケーションデザイン基礎	1
	International Peace Studies	1



## ○全学情報教育運営委員会規程

### (目的)

第1条 本規程は、津田塾大学全学情報教育運営委員会（以下「委員会」という。）において、文部科学大臣が定める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に基づく認定プログラム「データサイエンス・リテラシープログラム」（以下「本プログラム」という。）の立案、実施、改善を継続的に行うために必要な事項を定める。

### (任務)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を任務とする。

- (1) 本プログラムの立案、実施に関すること。
- (2) 本プログラムの改善（授業内容・方法、教育効果、シラバス記載内容の改善、全学的な履修者数・履修率向上、教員の配置、等）に関すること。
- (3) 本プログラムに関する履修学生への調査を実施、結果にもとづき学生の理解度を測るなどを行い、プログラム改善につなげること。
- (4) 本プログラムの全学的な普及、整備に関すること。
- (5) 本プログラムの自己点検・自己評価による検証結果の公開・発信に関すること。

2 委員会は、前項にて審議した結果を全学情報教育点検評価委員会に報告する。なお、全学情報教育点検評価委員会はこれを大学運営会議等に報告する。

### (組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学芸学部の専任教員 2名以上
- (2) 総合政策学部の専任教員 1名以上
- (3) その他学長が指名する者

### (任期)

第4条 委員の任期は、1年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

### (委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長1名を置く。

2 委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

4 副委員長は、委員長が委員の中から指名する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

### (会議の開催)

第6条 委員会は、原則として年に1回以上開催するものとする。ただし、委員長が必要と認めるときは、臨時に開催することができる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教育研究支援事務室が行う。

(雑則)

第9条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は、委員会が別に定める。

(改廃)

第10条 本規程の改廃は、委員会及び大学運営会議の審議を経て、学長が行う。

---

附 則

本規程は、2022（令和4）年2月18日から施行する。



## ○全学情報教育点検評価委員会規程

### (目的)

第1条 本規程は、津田塾大学全学情報教育点検評価委員会（以下「委員会」という。）において、文部科学大臣が定める「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に基づく認定プログラム「データサイエンス・リテラシープログラム」（以下「本プログラム」という。）に関する自己点検・評価を行うために必要な事項を定める。

### (任務)

第2条 委員会は、次に掲げる本プログラムの点検・評価に関する事項について全学的視野で審議し、その運営にあたる。

- (1) 本プログラムの点検・評価の実施についての連絡調整に関する事項
- (2) 本プログラムの点検・評価の実施及びその実施結果のとりまとめ並びに公表に関する事項
- (3) 本プログラムの点検・評価の実施結果の利用に関する事項
- (4) 本プログラムの点検・評価の実施方法の改善に関する事項
- (5) 認証評価及びその第三者評価に関わる事項
- (6) その他委員会が本プログラムの点検・評価の実施に必要と認める事項

2 委員会は、前項にて審議した結果を全学情報教育運営委員会及び大学運営会議等に報告する。

### (組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 事務局長
- (4) その他学長が指名する者

### (任期)

第4条 委員の任期は、1年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

### (委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長は、学長とする。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 副委員長は、委員長が委員の中から指名する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときまたは委員長が欠けたときは、副委員長がその職務を代行する。

### (会議の開催)

第6条 委員会は、年1回以上開催する。なお、委員長が必要と認めたときは、臨時に開催することができる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(専門委員及び専門委員会)

第8条 委員会に、専門的事項の処理に当たらせるため、専門委員を置くことができる。

2 委員会は、必要に応じ、専門委員会を置くことができる。

3 専門委員及び専門委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(事務)

第9条 委員会の事務は、経営企画課が行う。

(雑則)

第10条 本規程に定めるもののほか、必要な事項は、委員会が別に定める。

(改廃)

第11条 本規程の改廃は、委員会、大学運営会議の審議を経て、学長が行う。

---

附 則

本規程は、2022（令和4）年2月18日から施行する。

# 津田塾大学における取組概要

本学では情報科学に関する全学的な基盤教育のため初年次に各学部毎に「情報処理リテラシー」に関する科目群を設置している。また、基礎教育の先にメディアに関わる発展的な内容の選択科目を複数設置すると共に、リベラルアーツと情報科学を融合した「デジタルメディア(DM)副専攻」を2018年度より学芸学部全学科の学生に向けて提供している。2022年度にデータリテラシー基礎教育プログラムとして、数理・データサイエンス・AIに関する内容を強化すると共に、初年度からデータ解析基礎科目を提供する。

## 実施体制

### ■ 実施機関

全学情報教育運営委員会

委員長：稲葉利江子（学芸学部情報科学科 教授）

委員：専任教員3名

事務局：教育研究支援事務室

### ■ 評価機関

全学情報教育点検評価委員会

委員長：高橋裕子（学長）

副委員長：小舘亮之（副学長）

委員：専任教員4名

事務局：教育研究支援事務室

※産業界から教育プログラム内容・手法等への意見等を適宜頂戴し、プログラムの改善に務める

## 教育プログラムの構成

本学ではデータリテラシーに関わる科目群として、初年次に全学部向けに情報処理基礎にかかわる科目を設置し、必修として全学生に単位の取得を求めている。さらに、各学科の教育課程において、共通科目・選択科目として提供している科目として、データサイエンスリテラシーレベルの内容を提供している。

### リテラシーレベル科目の各学科の教育課程における必修・選択状況

	学部	学科	科目名
必修科目	学芸学部	英文・国際関係・多文化	情報処理 I a
		数学科	情報処理
		情報科学科	コンピュータリテラシー-a
	総合政策学部	総合政策学科	データ・サイエンス入門
	学部	学科	科目名
選択・自由科目	学芸学部	共通科目・DM副専攻	情報と社会(4)
		DM副専攻	データリテラシー-b
	総合政策学部	総合政策学科	情報通信技術と社会

# プログラム内容・特色

## ■ 実社会を見据えた教育的な教育

- 数理・データサイエンス・AIが社会の中でどのように利活用されているのか、課題解決の手法など、具体的なサービスやビジネスの事例を取り上げることで、文系・理系の隔てなく学修が可能なプログラム構成としている。
- 実データを用い、社会での実例を題材として、「データを読む、説明をする、扱う」という数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法を演習を通じて実践的に学修する。

## ■ データサイエンス・リテラシープログラムとモデルカリキュラムとの対応

	学芸学部									総合政策学部	
	英語英文学科、国際関係学科、 多文化・国際協力量科			数学科			情報科学科			総合政策学科	
	情報処理Ia	データ リテラシーb	情報と社会 (4)	情報処理	データ リテラシーb	情報と社会 (4)	コンピュータ リテラシーa	データ リテラシーb	情報と社会 (4)	データ サイエンス 入門	情報通信技 術と社会
導入	1-1.社会で起きている変化	○	○	○		○	○		○		○
	1-2.社会で活用されているデータ	○		○			○				○
	1-3. データ・AIの活用領域		○			○			○		○
	1-4.データ・AI利活用のための技術		○		○			○			○
	1-5.データ・AI利活用の現場			○		○			○		○
	1-6.データ・AI利活用の最新動向			○		○			○		○
基礎	2-1.データを読む		○		○			○		○	
	2-2.データを説明する		○		○			○		○	
	2-3.データを扱う		○		○			○		○	
心得	3-1.データ・AIを扱う上での留意事項		○		○	○		○	○		○
	3-2.データを守る上での留意事項	○		○	○	○	○	○	○		○

## 学修支援

本プログラムを全学の学生に周知、容易に履修可能となる環境を整え、情報技術の変化、社会変化に迅速に対応できる体制を整える。

### ■ 学生へのプログラム周知

プログラムの公式Webサイトにて、教育プログラムの内容を公開するとともに、公式SNS、学生向けポータルサイト (TsudaNet) により、定期的に学生に向けた情報発信を行う。

### ■ メディアを活用した授業の導入

一部の科目では、2022年度よりオンデマンド型授業を導入し、時間割上の曜日時限を指定しない科目として開講する。  
これにより、他キャンパスの学生の履修も可能とする。

### ■ 相談窓口の開設

本プログラムの履修相談も含めた学修相談ができる窓口を設置し、文系の学生も履修しやすい 環境整備に努める。

### ■ PDCAサイクルによる情報教育内容の検証

全学情報教育運営委員会を中心として、高等学校での教科「情報」の学習内容も踏まえた、本プログラムを含めた全学の情報教育の内容や教育方法等の改善を行う。

## 産学・社会間連携

数理・データサイエンス・AIを社会で活用することを実践的に学び、また活用できる人材として育成するため、産学・社会間連携を積極的に進める。

以下は、既に全学において実施している内容である。

### ■ 産業界との連携

数理・データサイエンス・AIを活用して、課題解決や新たな価値創造に努めている産業界と連携した学修を実施。

- ・ 授業や学生向け講演会におけるゲストスピーカー
- ・ 非常勤講師としての実務家の登用

### ■ 社会連携

主体性をもち、ICTを活用し、自ら発信できる力を育むPBL形式の学修を実施。

- ・ 地域連携プロジェクト
- ・ 社会連携をベースとしたワークショップ科目

